THE TAIWAN JIHO

臺灣時報

大正八年[illegible]第三種郵便物認可
大正十三年四月[illegible]發行（毎月一回一日發行）
第五十五號

APR 29 1924

四月號

第一回行啓記念日
時報（臺灣時事）
經濟復興の基調
我國貿易と國際地位
熱帶病學會の狀況
上海の概況
領臺前噶瑪蘭の蕃務
七十五と七十二
印度支那の諸種族
生蕃行脚
海外重要記事

臺灣時報發行所

臺灣時報發行の趣旨

政事、時事、農事、工事、商事、學術技藝、統計等の報道評論特に臺灣に於ける統治狀態及び諸般の情況並に南支南洋に關する事項を周知せしむる爲め臺灣時報を發行す。（發行規定第一條）

臺灣時報發行所役員

評議員長　賀來佐賀太郎

評議員（以下イロハ順）

石坂荘作　市來半次郎　今井周三郎　井村大吉　新元鹿之助　西川利藤太　醫學博士 堀内次雄　宮島元治　宮地近思　陳鴻鳴　陳中和　林熊徵　林獻堂　林烈堂　林鶴壽　李延禧　大竹勝一郎　農學博士 大島金太郎　大越大藏

大賀基作　尾崎勇次郎　渡邊金造　川崎軍治　川中子安次郎　簡朗山　菅野善三郎　吉田平吾　吉岡荒造　楊吉臣　醫學博士 高木友枝　高田富藏　田村武七　田村藤四郎　田賀奈良吉　高山仰　瀧田傳吉　常吉德壽

津田毅一　津久井誠一郎　永田隼之輔　中村啓次郎　内藤正太郎　武藤針五郎　野呂寧　草鹿砥祐吉　倉岡彦助　日下操　松岡富雄　牧山清砂　松井榮堯　藤野幹　稲留喜之助　小松吉久　吳昌才　辜顯榮　古賀三千人　黄欣　吳汝祥　黄春帆　小林音八　枝德二　江口良三郎　江崎眞隆　鄭神寶　赤石定藏

赤司初太郎　後宮信太郎　相賀照郷　阿部滂　麻生誠之　荒巻鐵之助　相原祐彌　淺田知定　近江時五郎　佐藤勤　坂本素魯哉　佐々木紀綱　増瀬軍之佐　皿谷廣次　蔡蓮舫　木村匡　木村久太郎　許延光　北村吉之助　木村英俊　喜多孝治　三村三平　三好德三郎　進藤良英　徐杰夫　平山寅次郎　森廣藏　鈴木重臣　諏訪禮次郎

編纂委員

伊藤猴吉　生駒高常　飯田政敏　服部武彦

長谷川直吉　法水了禪　富田松彦　大澤清高

常務員

和田一次　鎌田正威　横光吉規　東忠藏　淺野安吉　佐藤正俊　小野弘毅　水越幸一　三浦碌郎

下村充郎　本山文平　松岡一衛　深川繁治　古山榮三郎　岡本佃　中瀬拙夫　中田榮次郎　宇都宗一

編輯係　鷹取田一郎　囑託　大槻綱彦
同　高橋惇　同　横尾善夫
同　拓大雄　同　眞倉民治
同　中野順三郎　同　鹽谷新
同　小森德治　庶務及會計係　伊藤憐之助
同　秋澤次郎

大正十三年四月十三日印刷
大正十三年四月十五日發行（毎月一回一日發行）

（定價一冊郵税共金三十錢 廣告料一頁金二十圓）

發行所　臺灣總督府内　臺灣時報發行所
振替貯金口座臺北第二〇七〇番
電話總督府内第八九番

編輯兼發行人　臺北市東門町百八番地　中野順三郎

印刷人　臺北市大和町三丁目二番地　澤田照基

印刷所　臺北市大和町三丁目二番地　臺北印刷株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

問屋業
販賣業
代理業

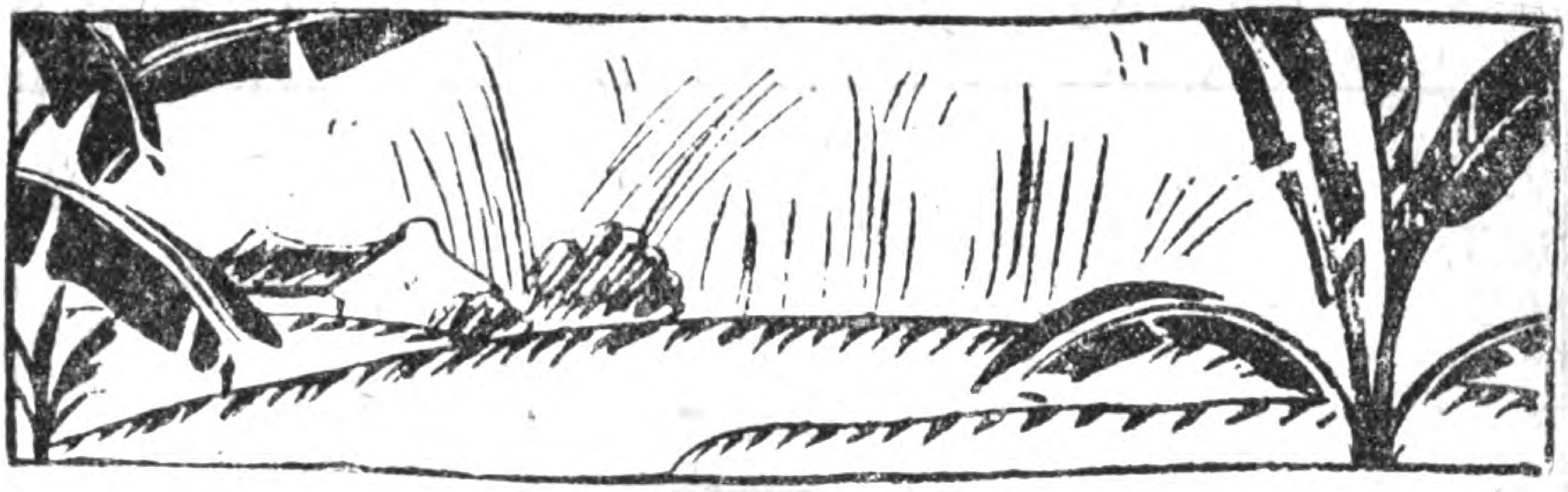
三井物產株式會社

臺北
臺南
支店

出張所
出張員

廈門
福州
基隆
高雄
臺中

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



臺灣時報大正十三年四月號 目次（第五十五號）

口絵 ▼第一回地方改良講習會記念寫眞

第一回行啓記念日（卷頭言）……一

時報……二―五

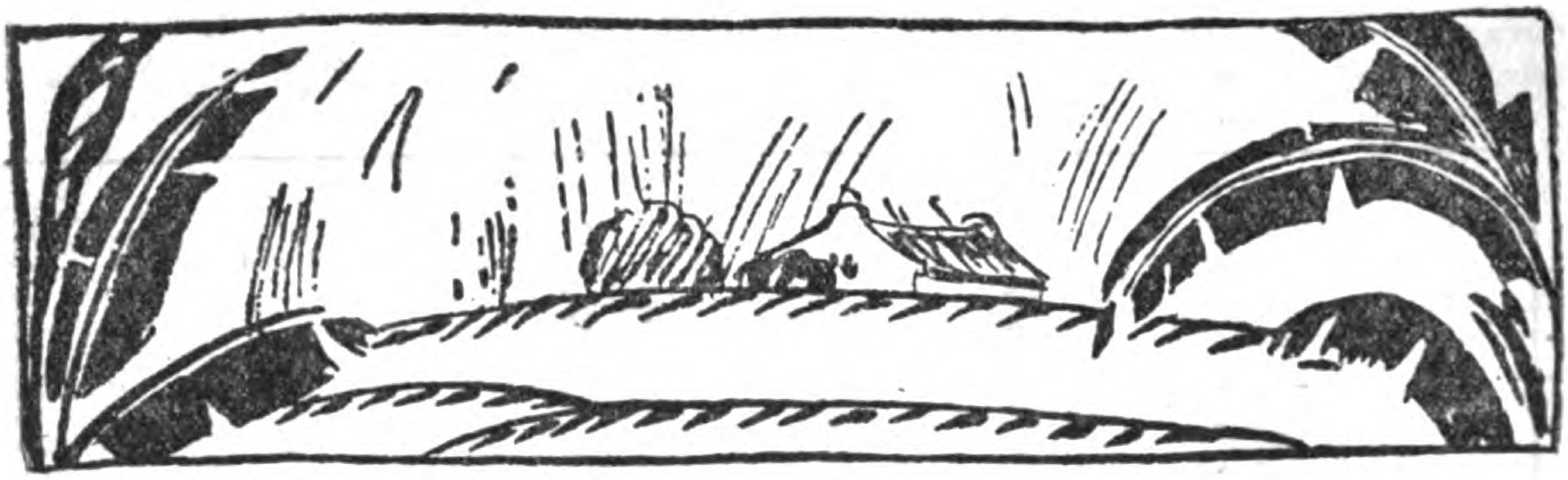
第一回行啓記念日▼海洋調査竝に漁業試驗連絡▼臺灣米穀檢査規則の改正▼京都博と臺灣館▼第一回國勢調査事務完了▼全島水利事務協議會▼第一艦隊臺灣來著▼醫專創立二十五年祝賀と堀內校長在職二十五年祝賀▼朝鮮實業視察團の來臺

經濟復興の基調……岡 實 六

我國の貿易と國際上の地位……木村增太郎 一七

熱帶病學會の狀況に就て……小泉 丹 二九

上海の概況……井出季和太 四一



領臺前噶瑪蘭の蕃務……………………臺北州調査　六六
七十五と七十二……………………蕉鹿夢　九三
□□□□□□□□□□□□□□□□□
印度支那の諸種族（上）……………………高橋惇　九五
生蕃行脚……………………丙牛生　一〇六
島情……………………一一五
五州十三年度の豫算（水越州廳課長談）▼海洋調査並に漁業試驗の連絡協定▼
改正された臺灣米穀檢査規則▼全島產業組合講習
詞苑……………………一二八
臺灣日誌▼人事消息▼任命▼編輯室から……………………一三〇
□□□□□□□□□□□□□□□□□
南支那南洋其他海外重要記事……………………總督官房調査課　一―七

大阪市高麗橋

株式會社三十四銀行

資本金五千萬圓

各地支店 {東京、京橋(東京)、京都、神戸、兵庫、尼崎、尼崎東、西宮、姫路、廣島、德島、阿波池田、奈良、伊丹、傳法、臺南、高雄、(大阪市内)南、天滿、雜喉場、堀江、日本橋、九條、朝日橋}

本行之特色 {
銀行一般の業務の外擔保附社債信託法に依り信託事業を兼營す
事業資金部を置き工業資金の供給を爲す
外國爲替は香港上海銀行の代理店として最も便宜に取扱を爲す
}

臺北支店 臺北市本町二丁目

(電話三四、五六、二一九五)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一回行啓記念日

東宮殿下臺灣行啓ありてより既に一週年。本月十六日は畏くも　殿下が本島に玉步を印し給ひし一年前の、その日を永遠に記念すべき、第一回の行啓記念日である。惟ふに、殿下の臺灣行啓は、本島有史以來の盛事にして、統治上にも重要の意義あるもの。全島官民は斯の日を以て、皇室の厚き思召と、殿下の高き御仁德とを偲びまつり、相共に至誠奉公の念を振作し、和衷協同して本島文化の發達を圖らねばならぬ。特に第一回の記念日は、精神的に此の趣旨を徹底せしむべき必要を認める。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時報

第一回行啓記念日

東宮殿下臺灣行啓記念日に就ては昨年八月三十一日告示第百五十八號を以て「自今四月十六日を以て　皇太子殿下臺灣行啓記念日と定む」と公布し尚は同日臺灣總督の諭告第三號を以て「惟ふに　皇太子殿下の臺灣行啓は空前の盛事にして畏くも　皇徳を宇內に光被し給ふ所以のもの蓋し之より大なるは莫し我が臺灣に在りては統治の大本是に於て確立し民心の賴る所亦是に於て定まれり此意義ある行啓を永遠に記念するは眞に是丹心報國の志を中外に宣示する所以なり乃ち四月十六日を以て　皇太子殿下行啓記念日と定め永く之を恒例と爲さんとす庶幾くは全臺の衆庶斯日を以て當年行啓の盛事を追懷し相共に至誠奉公の念を振作し官民上下益〻和協し克く文化の發達を圖らんことを」と宣明されたが今や早くも行啓一週年、本月十六日は其の第一回記念日に當り畏くも殿下が本島に玉步を印せられたる一年前のその日であれば本島官民は宜しく諭告の趣旨を遵行すべきである因に當日各官衙は職員參集の上官衙長に於て行啓に關する御沙汰書奉讀式を擧行し各學校に於ては行啓に關する訓話を爲し記念日たるの實を擧ぐべき定めである但し各官衙は事務を休止せず官民とも國旗を掲揚すべき定めである。

海洋調査竝に漁業試驗連絡

海洋調査及び漁業試驗なるものは本島水產業の開發助長の上から一日も之を看過し得ざる緊急事項である然るに從來は殖產局に於て本島北部近海を、各州廳に於ては各〻其の近海の調査及試驗を施行したのであるが元來海洋は一帶を爲し其關係極めて密接にして一海區の變化は直ちに他の海區の變化を見ることも決して少くない故に是等調査試驗を完からしめんには共同連絡して調査に當るべき必要あるを以て這回殖產局竝に各州廳は之が連絡の協定を爲し各〻其の分擔及び調査事項を定め新年度から之を施行することゝなつた、其の協定の全文は別項島情欄に揭ぐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

通りである。

臺灣米穀檢查規則の改正

改正臺灣米穀檢查規則は三月十八日府令第二十六號を以て公布せられ四月一日から施行せらるゝことゝなつた其の條文は別項(島情欄)の通りであるが改正の要點は從來の北部米、中部米、南部米の外に、丸糯、長糯、丸粒粳米、長粒粳米、內地種米の種別を附し且つ一等二等三等の外に等外米、不合格米を設け、從來豐凶により標準米の人爲的に高下ありしに反し改正法は標準米を固定せしめ凶作等の場合、等外米を移出するに當りては其の等外米たるを明かにすることとした其他從來搬出檢査は各州廳で行ひ又た移出檢査は各州移出米組合で行ふも其の檢査員は各州選任のものであるが爲め檢査の公正を期せられざる虞もあつたから改正法に於ては移出檢査は總督府に於て行ふことゝ爲し尚は輸出檢査の方を設け劣等米の輸出を經て內行へ轉出せらるゝを防がんとした要するに改正法の眼目は臺灣米の聲價を維持し取引の安全を期するに在つて亦是れ臺灣產業の振興企劃に外ならぬのである。

京都博と臺灣館

京都市主催 東宮御成婚奉祝萬國博覽會參加五十年記念博覽會は三月二十日開會され午前十時から市公會堂で盛大な開會式が擧行された同博の由來趣旨及概況等は會長たる馬淵市長の式辭が之を明かにして居る曰く。

(略)昨秋を期して、日本產業協會主催の下に、東京に開かれることになつてをりました本會は、未曾有の大震災と共に途に中止の已なきに至りましたに付き此に本市は同協會の協贊の下に陽春の季をトして、一世の御慶事たる皇太子殿下の御成婚を祝し奉るの赤誠を捧げて我國が萬國博覽會に參加して以來五十周年に相當するのを記念する爲め本會を開催いたしましたのであります。顧みますれば明治六年墺國維也納に開かれたる萬國博覽會は我國が國際的に參加したる初めでありまして、爾來五十年、國を擧げて殖產を計り、興業に努め、產業の隆昌は國力の充實となり、途に克く今日の國運を致したのであります。その五十年の歲月は實に我國の進展を物語る光輝ある歷史であります。本會はこゝに此の光輝ある歷史的過去五十年間に於ける我國產業の發達狀態と、文化進步の過程とを展示して、興產の機運を促進し、尙全國の優秀なる物產を網羅して生產組織經濟組織及販賣組

織の各方面より產業に關する各種の研鑽と知識の向上とをはかり、此に依りて國產の發達に貢獻せんとするものであります。幸に全國の贊同を得まして、北海道他三十七府縣及臺灣、朝鮮、關東州、滿洲等より約六萬點に垂んとする出品を得、本館を始め記念館、美術工藝館、機械館、文化館、朝鮮館、臺灣館等第一より第四に至る會場の設備略成り、これに附帶する各種の施設も整ひまして、本日より開會することを得ましたのは、是れ偏に參加團體並關係者各位の御盡力の賜でありまして、茲に深謝の意を表すると同時に御同慶の意を表する次第であります。

本會は茲に、眞摯なる產業者の奮起と國民の自省とによりまして本博覽會開設の目的を達成し、我國產業の進展に一時代を劃すべき意義を齎すことを期待して止まぬ次第であります。

去れば參加せる一道三府三十四縣並に各植民地からの出品は實に現代產業の精華と技術の巧緻とを競ふ一方に植民地的異彩を放つたもので會場たる岡崎公園一帶の地は京洛の春光と共に絢爛の美に包まれて滿天下の耳目を集めて居る特に臺灣館は從事者の盡力により他館に先んじて準備疾く成り開館前日全く內部の裝飾と出品物の陳列とを終り、例の樟腦柱が平和博のに劣らぬ程の偉大さと高い香りとで觀覽者を驚かして居るのを初め臺灣特有の各種物產は孰れも異彩を放ち喫茶店、食堂、バナ、賣店等は夫々好評を博し入場者は日增に其數を增して居る。

第一回國勢調查事務完了

臺灣に於ける戶口調查は實質上の國勢調查にて明治三十八年以來既に二回舉行せられ第三回の分は卽ち第一回臨時國勢調查として大正九年より實施せられ本年三月一杯にて全部完了を告げた隨つて該調查に關し發布されたる諸規定は同時に廢止せらるゝこと〻なり其旨府報を以て發布された尙ほ臨時國勢調查は五年目每に行はるゝ次第にて大正十五年は次回實施の年に當るを以て其の調查準備は明十四年から開始を見るべしと。

全島水利事務協議會

第七回全島水利事務協議會は三月十七日午前十時から新竹街公會堂に開かれた當日太田新竹州警務部長は知事代理として挨拶を述べ次で水越事務官は內務局長代理として訓辭を爲し終つて前回に於ける建議に對し總督府としての意見を述べた夫れより協議に移つ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たが各州提出の協議事項は二十二項の多きに及び翌十八日まで繼續協議を爲し正午過る頃終了を告げ次回の本會を臺南州に於て開催するに決し閉會した。

第一艦隊臺灣來著

世界的巨艦として知られたる戰艦陸奥、長門を初め同日向、巡洋艦五十鈴以下四隻、水雷母艦迅鯨、驅逐艦谷風以下十三隻、水雷艇其他計二十九隻より成る帝國海軍の第一艦隊は曩に瀨戶內海の三田尻冲に於て操練を爲し吳佐世保より青島、厦門等を經て其の警備區域巡航の途次、三月二十二日本島に來りて陸奥其他は基隆に、長門其他は高雄に、何れも寄港したが主力艦隊の全部が堂々來訪せるは今回を以て嚆矢とする爲め官民の歡迎頗る盛んで艦隊碇泊中臺北を首め高雄、基隆には園遊會又は觀劇會等が催され內田總督、鈴木軍司令官は孰れも其の官邸に鈴木司令長官を初め幕僚其他を招待し軍艦陸奥に於ても官民を招待交歡した。

醫專創立廿五年及堀內校長在職廿五年祝賀

總督府醫學專門學校創立第二十五年祝賀式は四月三日午前十時より同校大講堂に於て擧行せられ、內田總督吉田長官代理を初め多數來賓の臨場があり式は君が代に始まり勅語捧讀に次で堀內校長の式辭、內田總督の訓示、來賓總代高木友枝氏の祝辭等あり之に對して校長は答辭を述べ卒業生總代生徒總代の祝辭ありて十一時式を終つた、尙ほ校長堀內博士は醫專在職二十五年に及べる爲め同日午後一時より同校大講堂に於て盛んなる祝賀會を擧行し又た同夜鐵道ホテルに於て同博士在職二十五年祝賀宴が盛大に催された。

朝鮮實業視察團の來臺

朝鮮實業視察團の一行は去月中來臺し高雄より上陸して中南部を視察し十九日來北したるが當夜ホテルに於て知事市尹主催の歡迎宴あり來賓は板垣朝鮮總督府事務官外四氏にして板垣氏は謝辭の中に今後朝鮮臺灣間の聯絡及び臺灣よりの朝鮮視察を希望する旨を述べ主客交歡して散會したが同團は其後數日島都を視察して歸鮮した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

經濟復興の基調

大阪毎日新聞・編輯顧問 法學博士 岡　實

一

私は今を隔ること大凡二十數年前、即ち明治三十四年海峽殖民地及東印度へ行く序を以て、一寸當地に參つたことがあります。其の當時は兒玉總督、後藤民政長官の時代でありまして、百事草創の際とて臺灣の經濟發達も緒に就いた許りの狀態であつた。總督府も舊政府の衙門の跡に在つてサヽヤカなものでありましたが、今日は堂々たる聳天の建物が兀立し、臺北の市區も整ひ、其輪奐の美は臺灣全體の發達を代表して居ると言つても可い。私は今日當地に著して衷心言ひ知れざる滿足を感じたる譯であります。而して領臺以來官民諸君が此の島の爲めに多大なる御努力を致されたことを回顧して、心から敬意を表せざるを得ないのであ

ります。

二

偖て今日お話せんとする「經濟復興」と云ふ事は、御承知の通り近時頻りに世の中に言ひ囃さるゝ新らしい文句であります。昨年九月の大震災後「帝都復興」と云ふことを言ひ出した。然るに今日では此の帝都復興計りではない、復興問題は全國的の問題である、と云ふことに段々氣付いて參りました。即ち帝都復興と云ふことも、一面「全國的經濟復興」と云ふことが實現しない以上は、出來ないことが分つた。然らば此の全國的經濟復興と云ふことは何うしたら可いか、と云ふのが即ち所謂經濟復興問題である。回顧しますれば、世界大戰中、輸出超過其の他海外企業で金を儲けた我國は、正貨激增の結果、此の二三年前迄は對外投資の必要が唱へられた程であつた。然るに今日は震災の打擊に由るとは言へ、一等國なりと自ら許して居つた我が日本が、二等國は愚か三等國に準ずべき高利を拂はねば、外國から信用貸を得ることが出來ないことになつた。而して國內を顧みれば、諸工業其他一般の生產的機關は儼存して居るが、之を動かすに足るべき低利の資本が盡きんとして居る。言ふ迄もなく勞働と資本の二つが相俟つて、始めて生產が出來るのであるが、我が現狀は勞働餘りあるにせよ、資本が足らぬ。何うしたら之を得られやうかと云ふ苦境に陷つて居る。假りに海外から金を借るにしても、今日の如き高い金利を拂つては、其の利息を拂ふだけでも中々容易の業でない。況んや其の元本をやである。此のことは國民一般の深憂とする所である。試みに最近の貿易狀態を觀ても、戰時中の輸出超過は、大凡そ十六億萬圓に達したが、戰爭が熄んで後は逆に輸入超過となり、戰時中に得たる貿易差額の正貨は、疾くに其の全部を失つたのみならず、逆に「マイナス」三四億萬圓に成つて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

特に本年度の如きは、既に一月より今日に至つて、或は最早や四億の輸入超過を來して、識者と云はず一般に眉を顰めて居ります。斯の如く海外から買ふ一方で、輸出は遙かに輸入に及ばない。震災も一大原因であるが、夫ればかりでなく、既に戰爭終熄後、直ちに輸入超過の國と成つた。而して震災によりて一層貿易の逆勢を加へたので、此の勢で押して移れば、結局日本の正貨が盡き、ドヽの詰りは日本の鐵道も、日本の土地も關稅收入も何も彼も、之を抵當として海外の物資を輸入するに至るだろう。之れは經濟上の話であるが、他方に於て財政上の狀態は如何、吾々は支那の狀態を觀て詢に同情に堪へない。嘗ては出來るだけ支那を扶けましたが、今日の我が現狀は漸次我が隣國のそれに近づきつゝある感がある。此の狀勢は此の儘で捨て、置くわけに行かぬ。どの點から考へても心配である。蓋し經濟復興の問題が全國的の問題として、今や朝野の間に研究さるゝに到つた原因は即ち此に存することゝ考へます。

三

吾々は今や此の曠古の國家的難局に面して、正しく反省時代に立つて居る。姑息なる彌縫偸安の施設を以て滿足する譯にゐかない。飜然維新開國以來の我が經濟沿革を歷史的に顧みて、我國力發展の徑路を見ると同時に、經濟の第一義即ち大原則に立ち戾り、新規蒔直しに努力すべき秋に逢著して居る。然らば吾々は如何に反省すべき乎。其の第一は日本の國土、臺灣朝鮮等も無論引つ括めた所の、我が國土を、何等の偏見や先入に囚れず正しく視ること、第二は此の國土の上に、明治維新の政治上の改革、及歐洲の產業革命とも云ふべき經濟上の新時代が這入つて以來、如何なる經濟現象が起つて來て居つたかを知ることである。此の二つの研究に由つて、吾々は復興問題の核心が何處にあるやを知り、その由つて立つ所の基礎或は基調と云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が如きものも、諒解することが出來ると存じます。

四

國土正視と云ふことは一寸單純のやうに考へられますが、私の觀る所を露骨に申せば、我が同胞は我が國土に就て十分なる諒解を有つて居ない。我が國民は動もすれば我が國は「東洋の英國」なり、と云ふやうなことを云ふのであります。此の一例は萬事を物語るのである。我國土は英國どころか、全く正反對のものである。極端と極端に位して居る。尤も大戰中には偶然にも「東洋の英國」となつた。世界隨所に我商品は賣れた。然るに戰爭終熄して九年三月の大恐慌を來したが、今日でも未だ何處かに「東洋の英國」の幻影が眼前に往來して居る樣だ。斯の如き思想は此の經濟復興の大敵である。吾々は小學校で地理書を習つたときと同じ樣に、單純なる小供の樣な考に復歸して、我が國土の生產力を知らねばならぬ。かく申せばとて、我が國の生產力は何うであるか、と云ふことに就ては多言を費す迄もない。併し是れだけのことは申して置きたいと思ひます。若し我が日本が今日の臺灣、朝鮮を引つ括めた新領土の外に、別に國民全體の必要とする棉花を產する地方を有し、數億の棉花を輸入せずに濟む國柄で在つたならば餘程樂である。その上最も我に必要なる鐵の產地を有して居るならば、吾々は洋服や「ショール」の材料を買はずに濟む。又若しより多くの石炭產地を有せば、今後石炭に金を拂ふ必要がない。御承知の通り我國は可成り多くの石炭を持ち之を輸出して居りましたが、昨年より輸入超過の國となつた。若し是等の必要品の產地を我が國が有して居つたならば、經濟復興もラクである。然るに我國の存在する限り、我國民の生活する限り、衣服の材料は得なければならぬ。然るに我は自給自足をなし得ない國である。穀物にしても同樣だ。米、肥料は年々二億萬圓以上の輸入をし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なければならぬ。我國は先天的の輸入超過國と謂つて可い。內地の國土は其の八割一分が山で、朝鮮か七割が山、而して此の臺灣も多くの材木が山にあるに拘はらず、矢張り之を輸入して居る。而して內地全體の一昨年の材木輸入額は八千萬圓、昨年は一億に垂んとして居る。山國としては誇るに足ると思つて居つたが住宅材料たる材木をすら自給することが出來ない。鐵は內地には原料は無い。大戰後又々損をしつゝ經營して居る枝光製鐵所も、僅かに需要の四分の一しか供給が出來ませぬ。我が國土の人口に對して「プラス」生產の國でなく、「マイナス」生產の國たることをよく〳〵頭に入れて置くことが必要であります。若し我が國の領土、土地が今日に二三倍して、その土地から鐵も棉花も米も麥粉原料も肥料も產し得る國柄ならば、我國人は英米人と同樣の考へを持つてよい。英吉利は決して島國ではないので、英吉利は約四億四千萬人を包擁する世界に誇るべき一大帝國であります。自給自足所でない。世界到る處の好い土地を領有し、之を土臺として大なる富を蓄積した國柄であります。日本とは正反對の國柄である。米國の經濟活力も亦英國に勝るとも劣らない。所謂一等國と云ふ中で、我が日本は伊太利と共に最も貧弱なるものである。而して伊太利は移民が出來るが、日本は出來ない。人口は國に滿ちて衣食住共に其の材料を海外から仰がなければならぬ。此の意義に於てのみ第一等國である。

五

臺灣に數倍する朝鮮—邦人の大なる望を囑する朝鮮は如何と云ふに、今日朝鮮は三百數十萬石の米を內地に供給して居るが、朝鮮の人口は一千七百萬人で、是等の人間の生活が向上して內地人並みに米を常食とするやうになれば、朝鮮は忽ち米の輸入國とならなければならぬ。又棉花の如きも同樣である。朝鮮の農業技

術家は、將來朝鮮は內地の需要額の大凡一割て供給し得ると云ふて居るが、若し朝鮮人が內地人と同じ生活程度に向上して、年に幾枚かの浴衣や綿入を着る樣になつたならば、朝鮮は大なる棉花の輸入國とならなければならぬ。朝鮮は可成り大なる新領土ではあるが、私の考としては經濟上の意味に於ては餘り賴むに足らぬと思ふ。尤も國防上の意味に於ては全然別である。此の見地よりすれば、朝鮮は我が國の死活を制する場所である。然れども經濟問題としては寧ろ他日我より助けなければならぬ位のものであります。又此の臺灣に就ては、是から皆さんより敎を乞ひたいのであるが、私の知つて居る限り、臺灣は經濟上に於ては遙かに朝鮮に優つて居つて、日本の新寶庫と言ふも强ち過言でない。少しく餘談ではあるが、私は臺灣をＡＢＣＲＳＴの地方又は Bacrst 島と呼ばんとするのであります。其の譯は臺灣の七大產物は是等の文字を以て表はし得るからであります。Ａはアルコール(酒精即ち酒)Ｂはバナヽ、Ｃはコール(石炭)とカンファー(樟腦)Ｒはライス(米)Ｓはシユガー(砂糖)とサルト(鹽)Ｔはテイー(茶)であります。是等の七大產物及其の他の特產物は單に本島產としてのみならず、我が國產として誇るに足るべきものがある。臺灣は朝鮮よりも遙かに優越して居る。惟ふに臺灣に於ける强き日光の力が斯の如き大生產地帶たらしむることを得るのである。併しながら是れ迚も僅かに九州位の大きさで、我が七千萬の人口に對する新供給地としては多く賴むに足りません。結局朝鮮、臺灣ー之に內地を綜合した所が、依然全日本(オール)としては經濟的には存外に生產に乏しい國と言はねばなるまい。我が國人は輸入するに非ずんば生活出來ず。又生活の向上……所謂文化的生活をすることも不可能であります。此の如き國土の上に維新以來如何なる經濟現象が繰り返へされたか。

六

維新以來此の國土の上に繰り返された經濟現象は、正しく一時的の「イルユージヨン」とも見るべきものが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

多い。卽ち變態的の經濟現象が我等の正視を妨げた。由來我が邦人は「武士は食はねど高揚子」など言つて、經濟に就ては無知識無經驗であつた。經濟學も發達せねば商法もない國である。夫れが明治の維新となり、歐米の新知識を輸入するに隨ひ、俄かに近代的經濟現象が起つた。而して其の第一回の經濟上の大飛躍を遂げたのは日淸戰爭であります。新知識輸入の結果消費多く輸入超過となりかゝつた日本は、此の日淸戰爭の爲めに其の存在を世界に知られると共に輸出超過國となり、經濟的に飛躍を遂げた。而して國民の生產消費の加減が從來とは其の形ちを換へた。然し此の繁昌も一時的で、暫時にして再び輸入超過の國となつて來た。日露戰爭で十六億の世界の全人類は、蕞爾たる所の島帝國が尨大なる露國を相手として起つたのを見て、何れも驚異の眼を睜つた。而して戰爭は捷つた。是に於てか我が國は世界歷史の「レコード」破りの國として、世界的に非常に有名となり、其の商品は質の善惡良否を問ふの遑なく、世界の各方面に受け入れらるゝことになつた。その結果我が國は再び世界的に大なるの貿易國と爲つて、世界到る處日本品が賣れた。之が原因となつて我が國に於ける生產は、非常なる勃興を來して玆に第二回の飛躍を爲した。然るにその後年月の移ると共に、復た往年の日淸戰爭後の狀態を繰り返してきた。卽ち國民的の大消費の昂進は次第に輸入を盛んならしめた。諸君、世界大戰爭の前大正三年七月に於ける日本の經濟狀態は何うであつたか、當時の經濟狀態は連年の輸入超過を繰り返し、世人をして我が兌換紙幣は不換紙幣になりはせぬかを憂へしめたのである。實に危い所まで往つた。然るに此の時又新たに思ひも設けず世界大戰爭が勃發した。而して世界各國の生產が停止した爲めに、我が日本の生產品は大々的に世界の隅々に迄で賣れるやうになり、我が國は英國の樣に、世界各地を恰も其の植民地に爲した如き位置に置かれた。前に申し上げました我邦人が長く夢みて居た「東洋の大英國」が愈よ實現したのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七

當時朝野を擧げて、此の一時的の「東洋の英國」は何時迄も續くかの如き幻影に囚はれた。而して其の獲た所の資本は之を浪費するに非ざれば、或は贅澤品となつて不生產的に費消された。或は他日不用となるべき建築物となり、或は他日維持し得ざる海軍の大擴張計畫と爲つた。特に實業界では前途に全く其存立に培ふべき見込の無い事業に投ぜられた。卽ち總ての種類の會社は新設せられ又は增資をやり、かゝる時にこそ大いに引き締らなければならぬ金融業者も、此の勢に浮か〳〵乘せられて、彼等が「否(ノー)」と答ふべき場合にも總て「然り(イエース)」とやつた。かくて折角の資本は雲の如く散じた。生產的企業すらも他日需要なき商品の工場となり、不必要なる商店の新築擴張となつたが、資本は咄嗟の間に消えるに非ざれば固定した。此の現象は內地は勿論、滿洲朝鮮に於ても之に輪を掛けたやうな規模に於て行はれた、生產機關に相應した消費機關も大々的に發達した。お茶屋待合其の他の享樂設備が盛んに出來た。資本は斯くして消散し固定した。今日の經濟不振を來したのは全く無理の無いことである。而して今日と雖も國內に於ける消費は元の如く大にして、生產は全然之に伴はない。勢ひ輸入超過とならざるを得ない。事業家にしても以前に變らぬ收入を得んとする。勞働者にして同じ賃銀を得んとする。消費多き生活向上の勢は水の低きに就くが如く底止する所を知らぬ。而して「生產マイナス消費」の結果はさなくとも輸入超過の國を一層大に輸入超過の國たらしめざれば止まぬ。偖て今日の場合吾々は此の簡短なる歷史から何を學ぶか。

八

卽ち我が國の維新以來の經濟發展は、總て外から起つた所の戰爭……日淸戰爭、日露戰爭、世界戰爭の此

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の三大好機會が原因と成つて、我が國の此の經濟の大發達を來さしめたのである。戰爭なる外來原因が無ければ此の三大飛躍を遂ぐることは恐らく出來なかつたのである。此の事は、數字が之を證明する。そこで話を元に戻しまして、我が國の如き國土、此の國土の上に兎にも角にも未だ其の程度は歐米に比しては低いが、或る經濟的發展を來した。而して此の經濟發展と同一義である生活の向上は、今や之を維持することが六箇敷なつた。最早今日は、銀行が長期低利の貸付をしないから輸出が出來ぬ、不景氣が來るなど、云ふやうな議論ばかりをして居る時機ではない。これも可いかも知れぬ。然し夫れは實に枝葉の問題であります。銀行が長期の貸付をしないのは銀行に資金少く又債務者に償還の見込が確實でないからである。確實と見れば貸さなければ銀行は損である。借金をしても貸すのである。吾々は今日の經濟事項を單に金融問題にのみ抽象しないで、もつと〱溯つて經濟復興の問題を論せねばならぬ。今日の經濟論は基礎的第一義から出發せねばならぬ。

九

東京は何時になつたら元の東京になるだらう、と云ふことは能く人の問ふ所であります。私の考としては東京大阪があの大を致したのは、前に云ふた三つの大なる機會からである。で若し此の三大機會なるものが將來再び吾々を見舞ふならば、東京は十年ならずして復興するであらう。而してさう云ふ機會は再び現はれるであらうか、何人もそうは考へない。それが果して來ないとすれば、此の三大機會が持來たした所の帝都の復舊は、從前と同じ速度で進むことの出來ないことは當然の結論として出てくる。獨り帝都の復興のみならず、我が國經濟復興亦然りである。然らば經濟復興の基調を何處に置くべきか、曰く經濟學の第一義に歸

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れと申す外はない。それはどうかと云ふに、經濟學の初めの處にある資本とは何ぞやと云ふ所を觀れば「資本は生産より消費を引いて殘つたものである」とある。即ち資本は生産の蓄積したるものでなければならぬ。又經濟學の初めにある生産の三要素と云ふことを考へればよい。我國土を正視すれば「勞働」としては可成り太なるものを有して居るが、勞働が協力すべき第二の要素たる土地になると、臺灣は姑く別として、內地朝鮮の土地には生産力は乏しい。資本も亦然りである。吾々が此後何れの地に向つて事業を企てるにしても、「勞働」を輸出する譯に行かぬ。どうしても資本が中心の問題になる。海外經營は勿論、此の新領土拓殖でも勞働は問題になる。常に資本が問題になる。然らば此の中心たる資本とは何ぞやと考へて見ると、生産から消費を引き去つて殘つたものがそれである。故に少しづゝでも構はない、資本の蓄積さへあれば我邦の生産は有望であるが、現在の樣に生産から消費を引いた殘りは「マイナス」である以上は、資本が減ずる許りで經濟界生産界は益々動きがとれなくなる。是に於てか當面の問題としては消費問題即ち如何にして消費を少くすべきやに就て考へなければならぬことゝなる。

十

日本に於ける經濟論は三つの時代を經過して居る。明治の始めは生産第一主義で、政治家も事業家も生産と云ふことに熱中して居つたが、最近數年間は分配問題と移りと變つて、勞働者は勿論會社員までも利益の分配に與らんことを主張するに至つた。而して學界に於ても亦分配論は經濟學の七、八分を占め、社會主義や社會政策的研究が盛んに起つたのである。然るに資本が缺乏し其の利益も亦著減した今日としては、當然第三の時代に入るべきであつて、此の資本問題の解決を以て復興の基礎とせねばならぬことゝ爲つた。之れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

には資本の依て生れ出る徑路に徹し、公私經濟を通じて、何よりも先きに消費を生產より小にする方法を考へ出さねばならぬ。所謂茲に公の消費と云ふのは卽ち財政である。國及公共團體は必要な仕事をするが、直接に資本を投じて生產することを目的としない。此の意義に於て財政は大なる消費である。國の財政に次いで分量の大なるものが府縣市町村の財政である。此等國及び府縣市町村の經費に無駄な消費は無いかどうかを研究しなければならぬ。前に云ふた通り公の經濟も戰時中國力不相當に膨脹したから財政整理行政整理は今日の急務である。又私の消費問題となると、會社、工場等團體の分と個人の分とに別れるが、團體としては例へば工場に於ける原料や燃料は節約して使つて居るかどうか、工場の使用人は出來るだけ切り詰めて居るかどうか、又吾々個人の家は是れだけの收入で果して是れだけの小供を、自分が中途に死んでも完全に敎育し了することが出來るかどうか、などゝ云ふことを反省し、若し出來なければ斷然たる節約を實行せねばならぬ。之を要するに、此の消費の當不當の研究が國全般、府縣市町村、私團體及個人の四つの方面に於て研究されなければならぬ。要するに消費は生產よりも大でないかどうかと云ふ點を最先に研究し、其の結果を取纏めて不動の方針により少くも一定期間節約を勵行し、而して後初めて經濟復興の基礎を打建てると共に、更に進んで第二次の問題として積極的に如何にして生產を大ならしむる方法を立つべきである。それにはあらゆる方面に亘つて人間と機械との能率增進を計り、生產「マイナス」消費を變じて「プラス」が殘るやうに仕掛けなければならぬ。之が卽ち經濟復興の基調である。此の如く經濟の第一義に反つて我が國經濟上の病根を根本的に確め。而して後に始めて積極的に我が經濟發展の將來を談ずることが出來やうと思ひます。諸君の淸聽を汚したるを深く謝します。

——大正十三年三月二十五日臺灣總督府醫學專門學校に開かれたる東洋、南洋兩協會支部、臺灣敎育會主催講演會に於て——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

我邦の貿易と國際上の地位

木村増太郎

各國との貿易比較

我邦の貿易額は、歐洲大戰てふ千載一遇の好機に乘じ、一時四十二億八千萬圓（大正九年）の巨額に上りしも、是れ一面物價の暴騰に伴ふ當然の結果なると共に、戰後著しく不振の狀態に陷りしは周知の事實なるが、尙之を歐米各國の狀勢に比較せんか、同大正九年の輸出入額に於て、英國の三百四十九億圓、米國の二百七十億圓に迫ばざること遙に遠きのみならず、大戰の結果著しく疲弊せる佛國の八十九億圓（平均爲替相場一圓對五法半）にすら距ること大なる狀況なり。其他同年の各國貿易額を觀るに、伊國三百八十六億利、白耳義二百十七億法、和蘭五十億一千盾、瑞典五十六億クローナ、丁抹四十五億クローナにして、何れの國も同年は著大の增進を示せり。勿論伊太利及白耳義に在りては、戰爭以來通貨の對外的價値甚しく低落せるを以て、如上の數字を以てしては未だ必ずしも我邦に比し、遙か大なる貿易額を有するものとは斷ずるを得ざる可しと雖も、兎に角之に依て我邦の貿易額が一時四十二億の高に上りたるも、何等世界に誇るに足らざるを知るを得可し。否寧ろ我邦は國內に資源を藏すること乏しく、且領域內に廣大なる市場を有することなきを以て、國運の發展は一に貿易の增進に俟たざる可らざるに、今尙斯る狀態に在るは、其極めて不振なるを認めざるを得ざるなり。勿論各國も我邦同樣翌大正十年には著しき輸出入額の減退を見たるも、最近には何れも挽回の氣運を示

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すに至れり。而して各國の貿易は、大戰以來大正九年頃迄は、米國を除くの外何れも時局の影響を受け著しき輸入超過を示したりしも、爾後漸次其程度を減ずるに至れり。

今全世界の貿易上に於ける各國の地位を査するに、大戰前即ち一九一三年の統計に依らんか、輸入貿易に於て世界貿易の最大部分を占むるは英國にして、全世界輸入貿易總額の一割八分三厘を占め、之に亞ぐは獨逸の一割三分三厘にして、其他米國の九分、佛國の八分一厘、和蘭の七分七厘、白耳義の四分三厘、伊太利の三分四厘、墺匈國の三分三厘、印度の三分等の順位に當り、我邦は遙か下りて一分八厘を占め第十五位に在り、輸出貿易上に於ても依然英國の一割六分七厘第一位を占め、獨逸の一割三分四厘及米國の一割二分二厘之に次ぎ最大部分を占め、佛國の七分三厘、和蘭の六分七厘、印度の四分三厘、露國の四分、白耳義の四分等更に之に亞ぎ、我邦は依然一分七厘第十四位の下位に在りしが、大戰の影響を受けたる一九一八年には、多少其趣を異にし、輸入に在りては英國の二割七分四厘、佛國の一割八分六厘、伊太利の一割三分四厘及米國の一割二分九厘最大部分を占め、遙か下りて加奈陀の四分一厘、日本の三分五厘及支那の三分之に亞ぎ、輸出に在りては米國が三割六分八厘を占めて一頭角を現はし、英國の一割二分七厘、加奈陀の八分三厘、日本の五分一厘、佛國の四分八厘、印度の四分三厘及亞爾然丁の四分之に亞ぐに至れり。斯の如く戰時中一時我邦の國際貿易上に於ける地位遙かに向上せしと雖も尚英米に迫ばざること遙かに遠く、英國の一殖民地加奈陀の下位に在るを知る可し。

尚英米獨佛の貿易情況を觀るに、先づ米國に在りては戰前には尚農鑛業を以て經濟の中心とせし關係上、勢ひ貿易は商工業國たる英國に迫ばざること大にして、戰前五箇年間平均額に於て輸出二十一億弗、輸入十七億弗、合計三十八億弗に過ぎざりしも、戰時中異常の大發展を遂げ、一九一四年には各種工場の總數二十

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七萬六千、其資本額二百二十八億弗なりしもの、一九一九年には工場數二十九萬、資本額四百五十億弗となり。戰前八百萬噸に滿たざりし船舶は、一躍して千八百萬噸を超ゆるに至り、延て貿易額も遂に一九二〇年には輸出八十一億弗、輸入五十二億弗、合計百三十三億弗の巨額に上り。且戰前製品の輸出は全輸出額の三割に過ぎざりしも、五割七分に増加し、原料品の輸出は三割四分より二割に減少せり。勿論其後逆轉し貿易額も著しく減退せしと雖も、別表示す如く戰前戰後を通じ常に出超を持續し、近年其勢稍衰へたるも尚戰前に勝ること大なるものあり。英國の貿易も、一九一三年には輸入七億六千八百萬磅、輸出六億三千四百萬磅、合計十四億磅なりしものが、一九二〇年には輸入十九億三千萬磅、輸出十五億五千萬磅、合計三十四億九千萬磅に達し、入超額も一時一九一八年には七億八千萬磅の巨額に上りしが、是れ次節に述ぶるが如く英國の如き大債權國にして初めて爲し得る所にして、其經濟力の偉大なるを實證せる所以なり。而して如上の入超額は爾來漸次減少し、今や殆ど戰前に比し徑庭なきに至れり。獨逸は歐洲大戰迄は逐年旭日の勢を以て發展し、輸出入額の如きも一九一三年には輸出百一億九千八百萬麻克(數量七億三千七百萬瓩)、輸入百十二億六百萬麻克(數量七億二千八百萬瓩)、合計二百十四億四百萬麻克の巨額に上りしも、開戰後は著しく減少し、一九一五年には百四億九千四百萬麻克となり。其後は麻克貨の大暴落の爲め、全く價額を以て其眞相を知るを得ざるに至りしが、近年著しく回復の傾向を示すに至りしが如く傳へらるゝも、一九二一年の貿易額は、尚數量に於て輸出一億三千七百萬瓩、輸入一億七千三百萬瓩に止り、未だ戰前の四分の一に過ぎずして、而かも少なからざる入超を持續せり。佛國の貿易は、戰前の百五十三億法より一九二〇年には五百七十八億法に激増せしも、其貨幣價値の低落より觀れば、未だ著大の進歩と言ふを得ずして、邦貨に換算し八十九億圓内外に止まれり。然れども戰後著しく疲弊せる佛國としては、如上の貿易額は尚其經濟力の侮る可ら

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ざるものあるを示すものと謂ふ可く、而かも其後の貿易額に於て他國の如き甚しき減退なく、且入超額は著しき減少を示すの好況を呈するに至れり。伊太利の貿易は、戰前の六十一億利より一九二〇年には三百八十五億利に激增せしも、其貨幣價値亦た約四分の一に低落せしを以て、其間大なる進步を認むる能はざると共に、近年の爲替相場を以て之を邦貨に換算せんか、未だ四十億圓に充たざるなり然れども大戰後同國が尙斯る貿易額を維持せるは偉とするに足る可し。

主要各國輸出入貿易一覽表

□主要國輸出入貿易額十年對照表

(一) 英國

年次	輸出(磅)	輸入(磅)	出超(+)入超(−)(磅)	合計(磅)
一九一三年	六三四、八二〇、三二六	七六八、七三四、七三九	(−)一三三、九一四、四一三	一、四〇三、五五五、〇六五
一九一四年	五二六、一六五、五二三	六九六、六三五、一一三	(−)一七〇、四六九、五九〇	一、二二二、八〇〇、六三六
一九一五年	四八三、九三〇、六二九	八五一、八九三、三五〇	(−)三六七、九六二、七二一	一、三三五、八二三、九七九
一九一六年	六〇三、八四五、八八五	九四八、五〇六、四九二	(−)三四四、六六〇、六〇七	一、五五二、三五二、三七七
一九一七年	五九六、七五七、二〇七	一、〇六四、一六四、六七八	(−)四六七、四〇七、四七一	一、六六〇、九二一、八八五
一九一八年	五三二、三六四、〇七八	一、三一六、一五〇、九〇三	(−)七八三、七八六、八二五	一、八四八、五一五、九八一
一九一九年	九六二、六九四、九一一	一、六三四、五九三、四七三	(−)六七一、八九八、五六二	二、五九七、二八九、三八四
一九二〇年	一、五五七、九七四、九八四	一、九三九、九五七、七六〇	(−)三八一、九八二、七七六	三、四九七、九三二、七四四
一九二一年	八一〇、三一八、八四八	一、〇八五、五〇〇、〇六九	(−)二七五、一八一、二二一	一、八九五、八一八、九〇九
一九二二年	八二四、二七四、二九七	一、〇〇三、九一八、一二四	(−)一七九、六四三、八二七	一、八二八、一九二、四二一

資料一九一九年迄は Statistical Abstract for the United Kingdom 其以後は英國貿易月報に據る

備考 一九二二年は假計數。

（二）米國

年次	輸出 弗	輸入 弗	出超(+)入超(−) 弗	合計 弗
一九一三年	二,四八四,〇一八,二九二	一,七九二,五九六,四八〇	(+) 六九一,四二一,八一二	四,二七六,六一四,七七二
一九一四年	二,一一三,六二四,〇五〇	一,七八九,二七六,〇〇一	(+) 三二四,三四八,〇四九	三,九〇二,九〇〇,〇五一
一九一五年	三,五五四,六七〇,八四七	一,七七八,五九六,六九五	(+) 一,七七六,〇七四,一五二	五,三三三,二六七,五四二
一九一六年	五,四八二,六四一,一〇一	二,三九一,六三五,三三五	(+) 三,〇九一,〇〇五,七六六	七,八七四,二七六,四三六
一九一七年	六,二三三,五一二,五九七	二,九五二,四六七,九五五	(+) 三,二八一,〇四四,六四二	九,一八五,九八〇,五五二
一九一八年	六,一四九,〇八七,五四五	三,〇三一,二一二,七一〇	(+) 三,一一七,八七四,八三五	九,一八〇,三〇〇,二五五
一九一九年	七,九二〇,四二五,九九〇	三,九〇四,三六四,九三二	(+) 四,〇一六,〇六一,〇五八	一一,八二四,七九〇,九二二
一九二〇年	八,二二八,〇一六,三〇七	五,二七八,四八一,四九〇	(+) 二,九四九,五三四,八一七	一三,五〇六,四九七,七九七
一九二一年	四,四八五,〇三一,三五六	二,五〇九,一四七,五七〇	(+) 一,九七五,八八三,七八六	六,九九四,一七八,九二六
一九二二年	三,八三二,一一七,三九八	三,一一二,七二六,一五四	(+) 七一九,三九一,二四四	六,九四四,八四三,五五二

資料 Monthly Summary pf Foreign Commerce of the United States に據る但し一九二二年は Bradstreet's

備考 一九二二年は假計數

（三）佛國

年次	輸出 法	輸入 法	出超(−)入超(−) 法	合計 法
一九一三年	六,八八〇,二一七,000	八,四二一,三三二,000	(−) 一,五四一,一一五,000	一五,三〇一,五四九,000
一九一四年	四,八七〇,八三四,000	六,四〇二,一六九,000	(−) 一,五三一,三三五,000	一一,二七三,〇〇三,000
一九一五年	三,九三七,三六九,000	一一,〇三五,七九四,000	(−) 七,〇九八,四二五,000	一四,九七三,一六三,000
一九一六年	六,二四一,五九四,000	二〇,六四〇,四一九,000	(−) 一四,三九八,八二五,000	二六,八八二,〇一三,000
一九一七年	六,〇一二,六九八,000	二七,五五四,〇五五,000	(−) 二一,五四一,三五七,000	三三,五六六,七五三,000
一九一八年	四,七二二,六九四,000	二二,三〇一,三八四,000	(−) 一七,五七八,六九〇,000	二七,〇二四,〇七八,000
一九一九年	八,七二〇,一一八,000	二九,七七八,五一五,000	(−) 二一,〇五八,三九七,000	三八,四九八,六三三,000

一九二〇年	二二、四三四、七五七、〇〇〇	三五、四〇四、九五一、〇〇〇	(－)一二、九七〇、一九四、〇〇〇	五七、八三九、七〇八、〇〇〇
一九二一年	二一、五五三、一〇一、〇〇〇	二三、五四八、一一三、〇〇〇	(－)一、九九五、〇一二、〇〇〇	四五、一〇一、二一四、〇〇〇
一九二二年	二〇、六四一、九九二、〇〇〇	二三、九〇〇、六〇一、〇〇〇	(－)三、二五八、六〇九、〇〇〇	四四、五四二、五九三、〇〇〇

資料 L' Economiste Français に據る

(四) 伊國

年次	輸出 利	輸入 利	出超(+)入超(－) 利	合計 利
一九一三年	二、五一一、八五八、五五七	三、六四五、六三八、九七五	(－)一、一三七、〇〇〇、四五八	六、一五七、二七七、五三二
一九一四年	二、二一〇、四〇四、一九九	二、九二三、三四七、五五三	(－)七一二、九四三、三五四	五、一三三、七五一、七五二
一九一五年	二、五五五、四四五、五四七	四、七〇三、九五〇、三一六	(－)二、一七〇、一〇六、五八九	七、二五八、九九四、〇六三
一九一六年	三、〇八八、二七九、七七一	八、三九〇、二七六、〇〇八	(－)五、三〇一、九九六、三一七	一一、四七八、五五五、八五九
一九一七年	三、三〇八、五一五、二三五	一三、九九〇、二〇九、五〇一	(－)一〇、六八一、六九四、二六六	一七、二九八、七二四、七三六
一九一八年	三、三四五、七〇六、七一九	一六、〇三九、六七四、一五一	(－)一二、六九三、九六七、四三二	一九、三八五、三八〇、八七〇
一九一九年	六、〇六五、七四二、〇七二	一六、六二三、三三四、二二二	(－)一〇、五五七、五九三、一四〇	二二、六八九、〇七六、二八四
一九二〇年	一一、七七四、一二五、〇五八	二六、八二二、六六三、六六八	(－)一五、〇四七、四九七、六一〇	三八、五九六、七八八、七二六
一九二一年	九、二二三、六四二、〇八五	二〇、〇〇五、五二五、二一〇	(－)一〇、八三三、八八三、一二五	二九、二二八、一六七、二九五

資料伊國貿易月報

各國の國際貸借

凡そ外國貿易が一國々民經濟の消長に影響する所の大なるは、固より論を俟たざるも、一國の國富上至大の關係を有する正價の流出入の原因となるは、必ずしも貨物の輸出入のみに非ず。之より更に大なる關係を有する國際貸借の趨勢こそ、正貨の流出入を左右する原因たるものなり。英國が連年巨額の輸入超過を繼續せりと雖も、之が爲めに英國の正貨が海外に流出することなく、其國民經濟の發展を妨ぐることなきは、是

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れ一に同國が世界最大の債權國として各國に貸付けたる資本の元利金及世界の海上に覇權を握れる最大の海運國として、各國より受取る可き巨額の運賃等を有し、之を以て貿易上の入超を相殺せるが爲めに外ならざるなり。卽ち英國は左表の示す如く歐洲戰前に於ても、每年海運業に於て世界總船舶噸數の四割餘を占め、每年の收入二億一千萬磅に上り、海外投資の利子收入亦た二億磅内外に達し、其他の貿易外の受入を合せ總計三億四千萬磅の受取勘定を有せし爲め、連年一億三四千萬磅の入超を決濟しつゝ、尙每年二億磅の新なる投資を爲し來りしものなり。戰後は却て米國に對し巨額の債務を負擔せし關係等に因り、海外投資より生ずる純收入額は、一億二千萬磅に減少せしと雖も、海運業の收入は四億磅を超ゆるに至りし爲め、戰後の大入超額三億數千萬磅を決濟して尙剩餘を示せるの狀況なり、米國に至りては、戰前に於ても九億弗内外の輸出超過を示せし爲め、運賃其他の支拂勘定少なからざりしも、結局國際貸借上二億五千萬弗内外の受取勘定を有したりしが、歐戰勃發以來は其輸出超過額は逐年遞增し、海運業の急激なる大發展は年次運賃其他の收入を增加し、一九二〇年迄に於て一擧百數十億弗の收益を示し、戰前の債務國は一轉して大債權國となり、今や出超額二十億弗弱に加へ、海外投資の元利收入四億弗を超ゆるに至りしより、金銀の輸入額七億弗内外に達し、尙八億弗以上の受入超過を示すの盛況を見るに至れり。佛國は戰前に在りては、英國に亞ぐ債權國として、一箇年二十五億法に上る外國投資の利子收入ありしに加へ、來遊外人の費消額亦た一箇年五億法に上りし爲め、十五億法の入超を決濟して、更に十八億法の新なる國外投資を爲し得たるも、戰後は入超額の增加に加へ對外債務增加したる爲め、新なる外債の發行に依り國際貸借を決濟せざるを得ざるに至れり。獨逸は戰前に在りては、對外投資の利子收入十億麻克を超え、海運業の收入亦た六億麻克以上に上りし爲め、巨額の貿易の入超を相殺しながら、尙一箇年六億麻克以上の新なる對外投資を爲し得たるも、戰後は如上の收

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

殆ど消滅し、金の輸出並に在獨外人の投資等に依り、纔に國際貸借の均衡を保てるに過ぎず。

若し夫れ我邦に至りては、戰前に在りては貿易の入超に加へ貿易外の受入額亦た殆ど言ふに足らずして、大正三年の如き一億四千六百五十萬圓の受入額に對し、一億五千三十萬圓の支拂額にして、結局三百八十萬圓の拂出超過を示し、同年の貿易上の入超額四百萬圓を加算し、七百八十萬圓の支拂勘定なりしも、翌四年よりは貿易の出超に轉じたるに加へ、運賃保險料を始め海外投資利益等の收入逐年增加し、大正六年には貿易上の出超額を加へ、差引十億二千二百萬圓てふ未曾有の受入超過のレコードを示すに至り、其後八年に至る迄、引續き受入超過の好況を持續せり。而るに翌九年に入りては既に前年來入超に轉じたる貿易は、益々逆調の勢を增し、加ふるに貿易外の受入勘定亦た減少し、結局同年は七千二百萬圓の拂出超過となり、爾後益々不振の傾向甚しきを加ふるに至れり。今や貿易外の受入勘定は、政府關係收入の六千萬圓餘、海運收入の一億五六千萬圓、外國船舶及船會社の消費額二千八九百萬圓、外國人の內地消費額三千八九百萬圓、在外邦人の送金及持歸金七八千萬圓、海外投資利益金五千萬圓、保險收入の三四千萬圓、其他四千萬內外に過ぎざるに、支拂勘定は如何に少くも三億圓を超ゆべきを以て、差引受入超過額は二億圓以上を望むこと決して容易ならざる可し。從て今後特に輸出貿易の振興を策し、入超の減退を圖るに非ざれば、如上の戰時利得の消失せらるゝことの遠からざるは勿論、我國民經濟に及ぼす影響は實に至大なりと謂ふ可し。今各國の戰前及戰後に於ける國際貸借の狀勢を示さんに左の如し。

國際貸借

(一) 英國

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰前（一九一三）

受取勘定	磅	支拂勘定	磅
海運業收入	一一〇,〇〇〇,〇〇〇	貿易上輸入超過額	一五二,〇〇〇,〇〇〇
傭船料	七五,〇〇〇,〇〇〇	年度中對外投資額	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇
石炭積込（內國）	一七,〇〇〇,〇〇〇		
同（海外）	六,〇〇〇,〇〇〇		
港稅	一三,〇〇〇,〇〇〇		
海外投資利子純受取高	二〇〇,〇〇〇,〇〇〇		
銀行業其他の純受取高	三〇,〇〇〇,〇〇〇		
計	[illegible]四〇,〇〇〇,〇〇〇	計	三五二,〇〇〇,〇〇〇

戰後（一九二〇）

受取勘定	磅	支拂勘定	磅
海運業收入	四一六,〇〇〇,〇〇〇	貿易上輸入超過額	三七八,八〇〇,〇〇〇
傭船料	二八八,〇〇〇,〇〇〇	對外投資超過額	三六,〇〇〇,〇〇〇
石炭積込（內國）	一七,〇〇〇,〇〇〇		
同（海外）	六,〇〇〇,〇〇〇		
港稅	一二,〇〇〇,〇〇〇		
海外投資利子純受取高	一二〇,〇〇〇,〇〇〇		
銀行業其他の純受取高	四〇,〇〇〇,〇〇〇		
銀行業收入	二五,〇〇〇,〇〇〇		
其他の收入（外人へ當船賣却高、海外英人の送金、外人英國內旅費）	一五,〇〇〇,〇〇〇		
金銀輸出超過額	四三,〇〇〇,〇〇〇		
計	六一九,〇〇〇,〇〇〇	計	四一四,八〇〇,〇〇〇

資料英 Board of Trade Journal 誌一九二一年二月三日號に據る
備考 一九二〇年度差額は銀行手許在高なるべし。

（二）米國

戰前（一九一三）

受取勘定	弗	支拂勘定	弗
貿易上の輸出超過額	六九一,四三二,八二二	外債利子純支拂高	一七五,〇〇〇,〇〇〇
金銀輸出超過額	五五,〇〇二,五九〇	海運賃支拂高	二五,〇〇〇,〇〇〇
金輸出超過額	二八,〇九三,七七八	移民送金額	一二五,〇〇〇,〇〇〇
銀輸出超過額	二六,九〇八,八一二	米人外遊費	一六〇,〇〇〇,〇〇〇
		保險料銀行手數料等の純支拂	二五,〇〇〇,〇〇〇
計	七四六,四三四,四〇二	計	五〇〇,五〇〇,〇〇〇

戰後（一九二一）

受取勘定	弗	支拂勘定	弗
商品輸出額	四,四八五,〇〇〇,〇〇〇	商品輸入額	二,五〇九,〇〇〇,〇〇〇
銀輸出額	五二,〇〇〇,〇〇〇	銀輸入額	六〇,〇〇〇,〇〇〇
金輸出額	二四,〇〇〇,〇〇〇	金輸入額	六九一,〇〇〇,〇〇〇
合衆國政府關係收入	九〇,〇〇〇,〇〇〇	合衆國紙幣輸入額	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇
外債滿期受取高	二五五,〇〇〇,〇〇〇	合衆國政府關係支出	一四〇,〇〇〇,〇〇〇
民間海外資本利子受取高	一八〇,〇〇〇,〇〇〇	外債新發行高	六六五,〇〇〇,〇〇〇
海外貿受取高	九〇,〇〇〇,〇〇〇	海外發行合衆國內に賣却せられたる外國公債	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇

計	五,一七六,000,000

海外より米國公債純買入高	三二,000,000
其他米人の海外事業投資	二00,000,000
合衆國内外國資本に對する利子支拂高	一00,000,000
海運賃支拂高	五七,000,000
移民送金高及歐洲救濟費	五00,000,000
米人の外遊費	二00,000,000
計	五,三五七,000,000

（三）佛國

戰前（一九一三）

受取勘定

	法
來遊外人消費金	五00,000,000
對外投資利子受取額	二,五00,000,000
銀行手數料	三00,000,000
其他	七00,000,000
計	四,000,000,000

支拂勘定

	法
貿易上輸入超過額	一,五00,000,000
海軍業收入	五00,000,000
對外投資額	一,八00,000,000
金銀輸入超過額	二00,000,000
計	四,000,000,000

戰後（一九一九）

受取勘定

	法
來遊外人消費金	七五0,000,000
外債發行竝借入金高	一八,四九六,000,000
計	一九,二四六,000,000

支拂勘定

	法
貿易上の輸入超過額	二一,0六五,三五一,000
金銀輸入超過額	八一,000,000
外債利子純支拂高	七五0,000,000
計	二一,八九六,三五一,000

（四）獨逸

戰前（一九一三）

受取勘定

	金貨麻
對外投資利子收入	一,0二0,000,000
海運業收入	六二二,000,000
其他の收入	二0四,000,000
計	一,八三六,000,000

支拂勘定

	金貨麻
貿易上の輸入超過額	一,00七,四一四,000
對外投資額	六二四,000,000
計	一,六三一,四一四,000

戰後（一九一九—一九二一）

受取勘定

	金貨麻
金銀輸出超過額	一,000,000,000
在外獨逸移民送金額・在獨外人遊費額・寄附金	一五0,000,000
在獨外人投資竝對獨短期貸付の爲獨逸の受取たる紙幣換算額（$14\frac{3}{8}$紙幣＝金貨麻）	一三,二三0,000,000
計	一四,三八0,000,000

支拂勘定

	金貨麻
貿易上の輸入超過額	一0,000,000,000
賠償占領費支拂額	二,五00,000,000
海運賃竝利子支拂高	四00,000,000
計	一二,九00,000,000

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（五）日本

（一）貿易外受入勘定（單位百萬圓）

年次	運賃及傭船料	外人及外國船消費	海外投資純益	保險料收入	其他	合計
大正三年	四五	三〇	三〇	六	一六	一四五
同四年	六二	三〇	三〇	一四	六九	二二五
同五年	一七六	四〇	八五	三九	一二〇	四六〇
同六年	二九五	三〇	一三〇	八四	一二六	六七五
同七年	四九五	五〇	一六〇	一一一	八〇	八九五
同八年	四三七	六九	一九〇	一〇一	一一三	九一五
同九年	三二二	六五	一五〇	九〇	一三三	七六〇
同十年（豫想）	一六八	六五	一三〇	四五	一〇〇	五〇九

（二）貿易外拂出勘定（單位百萬圓）

年次	外債利子	邦人邦船外國消費	外人內地投資純益	保險料支拂	其他	合計
大正三年	六三	二五	四〇	一	二	一五〇
同四年	六四	三〇	三〇	一四	一七	一九五
同五年	五五	三五	二五	三〇	三〇	一七五
同六年	五四	五〇	三〇	六〇	二六	二二〇
同七年	五三	七五	三五	九八	五九	三二〇
同八年	五八	一一〇	三五	八八	一一九	四一〇
同九年	五五	一三五	三五	九八	一二二	四四五
同十年（豫想）	五〇	一〇〇	二〇	四四	一一〇	三二四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（三）差引受拂勘定（單位百萬圓）

年次	輸出額	輸入額	出入超過額	前受入額	前拂出額	差引超過
大正三年	五九一	五九五	（入）四	一四五	一五四	（一）九
同四年	七〇八	五三二	（出）一七五	四〇〇	一五五	（十）二四五
同五年	一,一二七	七五六	（出）三七一	八三一	一七五	（十）六五六
同六年	一,六〇三	一,〇三五	五六七	一,二四二	二三〇	（十）一,〇二三
同七年	一,九六二	一,六六八	二九三	一,一八八	三二〇	（十）八六八
同八年	二,〇九八	二,一七三	七四	九一五	四八四	（十）四三一
同九年	一,九四八	二,三三六	三八七	七六〇	八三二	（一）七二
同十年（豫想）	一,五〇六	一,一五六	三五〇（豫想）	五〇九	六七四	（十）一六五

熱帶病學會の狀況に就て

理學博士　小泉丹

一

本年の九月三日から六日間、新嘉坡に於て、第五回の極東熱帶病學會が開かれまして、本名醫長、梅本技師、私と三名が命によつて參會致しました。其の概況を申上げます。先づ此の會の來歷を簡短に申上げますれば、極東熱帶病學會 Far Eastern Association of Tropical Medicine の始まりは、一九〇八年に馬尼拉で開かれたのが第一回であります。然し、此の會の濫觴は可なり舊いものであると云つて宜しいかと思ひます。馬尼拉に科學局 Bureau of Science が出來た當時あすこの醫學の部には好い學者が居りまして、今の紐育のロックフエラア研究所 Rockefeller Institute の所長のフエッキスナー Flexner 其の後を繼ぎましてフリーア Freer の如き有爲な學者が居りました。今日も設備や或は建物は其の儘でありませうが、學者を包容する程度に於て、甚だ劣つて居ると思はれますが、其の當時は隆々たるものでありました。そこで醫學會が年々開かれましたが、近隣の各國から學者を招聘して、國際的の色彩を帶びた會でありました。第一回には日本から志賀潔博士が參られ、北里柴三郎博士の「ペスト」流行の研究、志賀博士の赤痢菌の論文等が光彩を放ちました。夫から年々重に傳染病研究所（當時内務省所管）から出席しました。此馬尼拉醫學會の一九〇八年の會合の節に極東熱帶病學會設立の議が決しまして、隔年に東洋各地が持ち廻りて、開會地を引受けることゝなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九一〇年に第一回を馬尼拉で開き、次に香港で開きました。其の時には羽鳥防疫醫官が出席され、其の次に一年置かないで一九一三年に柴棍で開き、倉岡技師が出席されました。其の次の第四回は蘭領東印度政府が引受け會場は「バタビヤ」會期は一九一四年といふ筈でありました。所が恰かも戰爭の勃發に會しましてお流れになりました。それが大戰の終局の後一九二一年に久し振りで實行されました。此の會には日本から多數の出席者があり、臺灣からは於保醫長、久保教授、高澤技師が參列されました。夫から一年置いて今年が第五回であります。實は第五回を日本で引受て與れないかと云ふ希望が、學會當局にあつたのでありますが、引受けなかつたのであります。明後年の第六回の會場引受に關しまして、本回の開會に先だつて當局から日本側に非公式の交渉がありまして、秦佐八郎氏其の他の諸氏の交渉盡力の結果、內務・文部・大藏當局の同意を得まして、日本が引受けることに決定致しまして、今回の出席者は其に關する要務をも帶びて參りました次第であります。茲で一寸申しますが、日本內地と臺灣とは此の熱帶病學會に別な團體として加はつて居ります。日本が引受けるといふ意味には、直接には臺灣は加はゝつて居りません。此に就ては後にも一度申述べます。

二

參會者の出發に先立ちまして、東京で一、二、會合がありました。在京中でありました私が、其に參加致しました。第一の會合は、次會引受けのことが內定されましたので、醫事雜誌、新聞社、各醫學關係學會の人々の參集を乞ひまして、經過を報告し、併せて援助を乞ひました。私は今回の參列者といふ外に、臺灣醫學會の代表者といふ意味も加へて出席しました。何故に臺灣が引受けぬかといふ樣な話も出ましたが、其の不

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

可能なることは說明して置きました。もう一つは脚氣病の會議の相談でありました。前回の開會地なる和蘭の政府が脚氣病の豫防の爲に米穀移動の國際的管理に關する協議のために、此の機會を利用して委員會を開きたいと云ふことを申出し、開會地の海峽植民地總督の名を以て各國政府に委員の派遣方を通牒して參りました。それで臺灣からは本名醫長が其の委員として參會さるゝことになつて居りました。東京で內務・外務・陸軍・海軍の人達が會合して相談を致しました。私は、本名醫長の代りに出席して、會議の下相談に加はりました。

三

私は八月十五日神戸出帆、香港で、本名、梅本兩氏と一所になり、シンガポールに著したのは八月二十七日でございます。會は九月の三日から始まるので私は、大急ぎで旅行を致しました。其は船中で「マラリア」の研究上興味のある事實を耳にしましたので、其の視察を致したのであります。三五公司が大きな護謨園を經營して居ります、バトパハの地方で、バトパハ河を約三十浬溯つたところに鐵の鑛山があります。スリメダジと申す土地で南國鑛業公司の事業であります。そこでは不思議なことには「マラリヤ」の患者が一人も居ない。外の地方で罹病した者もそこに來ると再發をしないといふ話でありました。私は二十八日の早朝シンガポールを發し、其地にて「アノフエレス」の調査を致し、そこで働いて居る苦力の血液の檢査材料を採つて戻りました。戻つたのは三十日で、其翌日と翌々日とで、いろ〳〵準備を終り、二日の日曜は休養して、三日の開會を待ちました。不幸にして日本側委員は開會の前日に到著する筈でありましたが、船の都合で遲れる、殊に香港上陸の船客中に虎列拉患者が在つたことが入港前に明かになつて非常に心配致しました。入港は二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日遲れて開會式には間に合はなかつたのでありますが、檢疫に就ては、當局の厚意もあつて、第一日の早朝に上陸することが出來て、委員會に間に合ふことが出來ました。內地側委員の遲著で、特に心配しましたのは、次回引受の件と、其外に、日本側から、會名變更のことを提案して居る關係とでありました。さきに申述べました通り、豫め、非公式の交涉があつて、日本が次回を引受けることになつて居つたのでありますが、一行東京出立の前に、比律賓が次回引受けの希望があり、副總督が參會して、交涉するといふことが醫事雜誌上で傳へられました。日本側としましては、政府當局と交涉し、閣議に上せて、諒解を得たといふ行き掛り、其他から、是非引受けねば都合が惡かつたのであります。私共到著後、直ちに會長フープス氏に挨拶に參りまして、此件を質ねましたところ、比律賓からは何等の申出で來て居らぬ、當然、日本に引受けを希望するのであるといふ返答でありましたので、此は安心をしました。次に、會名變更のことでありますが、日本側から、會名から熱帶と云ふ字を取らうといふであります。卽ち、Far Eastern Association of Tropical Medicine を Far Eastern Medical Association と改めるといふのであります、私自身としましては、此に意見があり、贊成ではありませんのです。元來此會は、東洋の醫學全般の機關といふものではないので、特殊な性質、使命を持つて居るのであると、私は考へて居るのであります。同じ東洋に居つて、熱帶から亞熱帶を主とする特殊な醫學上の問題に關して智識の交換を計り、相互間の關係を解決して行かふといふのであります。日本側が此提案をしましたのは、理論以外に原因もあつた樣に承知して居りますから、理窟をいふのは馬鹿げたことかも知れませぬ。日本側委員遲著のために、委員會に私共だけが出席することゝなりそうな模樣でありましたので、私自身としては實は立場に困つたのであります。

さうした所が支那の委員が、同じ提案をして熱帶といふ字を取らうと云ふ議案を出して居りましたので、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大いに安心して、支那の副會長、伍連德と云ふ人に、開會前日に遇ひましたので、日本側委員不著の場合はこの議案のときには引受けて雄辯を揮つて貰ひたいと託して置きました。

四

愈三日から開會になりました。二日が日曜日で、其晩に「セントアンドリウ」會堂で、特別の集會「コングレス、サービス」がありました。私共は出席しませんでしたが翌日の新聞を見ましたら、總督、同夫人其他多數の列席があり大變立派な式であつたさうで殘念に思ひました。恰度その日曜日の午後の三時頃、電報が參つて東京、横濱大震災を傳へました。三日は開會式で、式の前に、事務的の役員會がありました。今回の參加しました國、「デリトリ」及び團體は十八ございます。「アルフアベット」順で申しますと、濠洲、印度、英領ボルネオ、ビユルマ、錫蘭、支那、玖瑪、臺灣、香港、印度支那、日本、マカオ、蘭領印度、比律賓、上海、サラワツク、シヤム、北米合衆國でございます、其に主催地側から、海峽殖民地―馬來聯邦、非聯邦馬來諸國、帝國陸軍、帝國海軍五つが加はり、合計二十三になります、各國から代表者は總計七十人程で、人數は日本が、一番多かつたと思ひます。日本からは傳染病研究所、陸軍、海軍、内務省、慶應義塾大學、東北大學、日本郵船會社、關東都督府からで、八名、臺灣からの三名を加へて、十一名であります。かく參會の方面を列擧しますと、濠洲が這入り、東印度諸島の玖瑪からも來、北米合衆國といふ資格の人（マニラに居る人でありますが）も參りまして非常に範圍が廣いものでございます。開會式には、海峽殖民地總督のサー、ローレンス、ギルマードが列席されました。總督は「リヤウマチス」で足が不自由で居られるのでありますが此日は制服で出られ各國領事其他の參列があり、總督は式辭を朗讀されました。其の式辭は私共が豫

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

想したものとは違つたものでありまして、面白いと謂つては、失禮かも知れませぬが、意外に內容のあるものでありました。後に申します、醫學校の置礎式の時の總督の式辭も同樣で、興深く感じました。

五

次に會長「フープス」氏が開會の演說を朗讀しましたそれは「プリント」になつて渡して居ります。斯の內容は熱帶病研究の現况と云ふやうなもので、醫家一般に面白く讀まれるものと思ひます。飜譯して醫學會雜誌にでも出したらよかろうと思ひます。此演說を聽いて妙に感じましたことは外國の學者に餘り觸れないで英吉利の學者の名を非常に申すことでありました。「フープス」氏は日本からの招待を受けたので、一九二五年の次回の會は日本、卽ち「ペスト菌の發見者、北里の國で」開くといひ會衆は喝采しました。其から引續いて、特別講演といつた風の演說がありました。問題は土地柄のもので、「マラリヤ」であります。此日の講演の外に丸一日「マラリヤ」の問題の演說許りの日がありました。「マラリヤ」の問題に就ては臺灣醫學會の總會の席で少しく詳しく、申上げましたから、時間の都合で、本席では詳しくは申上げないことに致します。最初の講演をやつたのは「マルカラム、ウオツトスン」と云ふ人であります。此の人は馬來半島に於ける「マラリア」防遏の研究の權威者とされて居る人で、「馬來半島に於ける「マラリア」防遏、「農村衞生」と二卷の著述によつて、廣く、其名が知られて居ります。此の人の講演は文章的で、面白く聞きました。先づ「マラリア」が、熱帶に於ける疾患の最も重要なるものなることをいひ、次に、「ラブラン」(病原々蟲の發見者)の仕事は礦石を掘り出したやうなものである、「マンソン」(蚊の傳搬の發見者)等は其の礦石を熔かして冶金をする所の熔鑛爐の「プラン」を建てた人である、「ロツス」は愈熔鑛爐を築いてそこで礦石を熔かして本當の鑛

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

物に仕上げた人である。吾々の時代には既に礦物は出來て居るのである。それで、吾々の仕事は、其を以て刀を作つて闘うのである。自分等の刀がどれだけの力を持つて居るか、吾々が向ふ敵はどの位强いか、吾々の武器を如何に改良して、敵の如何なる弱點に切り込むべきかを研究することが吾々の仕事であると比喩の話を致しました。續いて、各地に於て、それ〴〵獨自の要約があるから、各地で獨自の調査研究が必要であることを力說し、防遏方法の評論を致しました。

六

其の次に「ウキリントン」と云ふ醫官が「ゲマス」といふ地で行なつた「マラリヤ」防遏の實驗談を幻燈を用ひてしました。此土地は馬來縱貫鐵道が、「チヨーホール」から聯邦州に入る境の小村でありまして、鐵道の關係で段々發展して來まして、工事と共に「マラリア」病者が激增して參り、防遏が必要となりまして、一九一七年來熱心に防遏事業を致しましたが餘り好成績を擧げなかつたのであります。其後特殊な研究の特に昆蟲學の方面の研究により是迄の土地の整理法の方針が適確でないと云ふことが判つて、其から成效するに至つたと云ふ話であります。その次の講演者は、印度に於ける「マラリア」の研究者として有名な「クリストーフアース」でありました「バダビヤ」でやりました前回の會に、「マラリヤ」に罹ると脾臟が肥大する、其の程度を簡單に正確に記載する方法は如何といふ問題を宿題として委員を定めてありました。「クリストフアース」は委員として自分の案を報告したのであります。次に、委員の一人であります、南滿醫科大學の生理學者久野博士の報告が朗讀されました。終つて可成り多數の討論がありました。正午まで討論のあつた後に、小委員會を作つて、研究することになり、五名の委員が任命されました、私が其一人に加へられましたが私は醫者

でないので、適當でないと考へましたし、久野博士の報告の關係もありまするので滿洲からの參列者である鶴見博士に出て貰ひました。此の小委員會は二回會合しまして、最後の總會で更に次會まで延ばして、研究を續けるといふことに決定しました。開會式の日の午後から、會場を二箇に分けて演說を續けました。第二日は午前、午後、第三日は午後だけ、第四第五兩日は午前午後、演說がありました。其の外に色々役員會や小委員會がありまして、開會中午の休み或は開會前に何回も集まりました。

七

第二日、早朝に、最も主要な役員會ありまして、日本側委員が、丁度此に間に合う樣に、上陸が出來ました。會議に這入る前に、總員起立しまして會長から震災に就て、「日本から來られた代表者、日本國民及び其當局」に對する弔慰の意を表されました。後程會場で演說を始めるときにも、同樣に全員起立して弔慰の意を表されました、なほ又、會では義捐金を募集して會から千弗、總計四千參百三十弗だけ集まりました。役員會に於きまして、數多の議案がありましたが、規則の小改正などは大體決定し、會名變更の問題は、伍連德と宮川博士が說明をして、殆んど反對者だけの樣な狀態でありまして、小委員會を作つて討議することになりました。次に、次回開會地の件になつて、會長から日本側の申出でを報告しましたが、其時になつて比律賓の代表から、マニラで、引受けたいと云ふことを突然に申出まして、此に對して、反對を主張する人も、かなりにありましたが兎に角、此役員會だけでは、決定に至りませんでした。此日から四日間毎日さきに申した樣に演說があり。每參觀があり、又連日一回又は二回の園遊會、午餐會、晩餐會、其他の社交の會合がありまして、諸國の專門家や、名士などゝ會談することを得まして、非常に、愉快を感じました。參觀の主な

ものは「セーント、ヂョーンス」島の檢疫所の參觀で、五日の早朝から參りました。此は、歐洲航路の船が、シンガポールを出帆してマラッカに向う時に、右側に見へる島にありまする檢疫所と隔離所でありまして、自らは東洋一だと謂ふて居ます。只構内をぐる〳〵歩行くだけで、說明を殆んどしないので、不得要領でありましたが、收容所は大仕掛なもので、「デッキパッセンジャー」の收容所は立派なものでありました。今度の會で論文を讀むやうに申出た數が七十八あり、申出て讀ないのもあり、申出でなくて讀んだのもあり、ザット八十でありまして、其の中日本人が出しましたのが、十六でございます。恰度五分の一日本か占めて居ります。先づ演說した數に於ては可成優位を占めたものと思ひます。社交的の集會、招待等のことは一切省略いたしますが、支那の伍連德氏が、外交的に日本側に熱心に接觸をはかりまして、數回、兩國側で招いだり招がれたり致しまして、親交を致しました。

八

八日の午前に、總會がありまして閉會の式を致しました。次回の開會地に就ては、宮川博士と比律賓側との交涉が、うまく行きまして、要求を止めて貰ひ日本が引受けると云ふことに話を附けて閉會式に宮川博士が日本側の副會長として挨拶朗讀演說をして無事に終りを告げました譯であります。いろ〳〵の小委員會の決定を總會で承認しましたが、「マラリア」の脾臟肥大の問題の委員會の決定はさきに述べました。會名變更に關する委員會は、其は否決したのでありますが、規則の內容を、可なりに變更して、落著しました。今まで申上げませんでしが、脚氣の問題の委員會も、次會まで、引續き研究といふので決議に至りませんでした。此の委員會のことは、後に本名醫長からお話がありますから略します。それから、も一つ東洋の防疫法に就

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

て相談會であります。東洋全般の防疫方法を協定することの必要は夙に認められたことで、其協議をすることは前から話がありました。その會を前回の「バダビヤ」の會を機會に、各國から委員を派遣して會議をする豫定でありましたが其の時にそれを延期したのであります。其理由は國際聯盟の衞生部に於て、此の計畫があり。從來巴里にあります萬國衞生事務局「L' Office internationale d' Hygiène（國際聯盟には合衆國が加盟して居ないが、此に加はつて居るので好都合である）でも、會議を開く企があるので、其の結果を待つといふになつたのであります。國際聯盟からは衞生部の次長ノルマン、ホワイト氏が今年の春東洋に參りまして各地で視察調査をなし、日本の滯在は短かく、特に臺灣には僅か四、五日でありましたが來られました。かゝる次第でありましたが、其等を期待せずに、東洋諸國自體が協議をするといふ原案を實行することがよろしいといふ案が、日本側から提案されました。此は國際聯盟の事務局に居りました金井博士の盡力でありました。此提案は役員會で可決されまして、國際聯盟、萬國衞生事務局にも通牒を發し、次回の開會を機會に此を行なうことを計畫することになりました。夫から、も一つの計畫が可決されました。其はロックフエラア財團の後援によりて國際聯盟の事業として行はれて居ります。各國衞生技術者の交換研究會を、次回の開會の折に日本で行なうやうにしやうといふことであります。此は各國の衞生技術者が一箇所に集まりそこで講演を聞き其國の衞生狀態施設を見學調査しやうと云ふ事業でありまして、第一回は白耳義、第二回は英吉利で行なひ、第三回は合衆國で行なうことになつて居ります。此を行なう樣に計畫することを議決したのであります、それでありますから第六回の極東熱帶病學會には、前回からの引繼きの脾臟問題の委員會、脚氣問題委員會の續きがあり、その機會に「ロックフエラア」財團の衞生技術者交換研究會と、海港衞生協議會が開かれる計畫になつたのであります。さて臺灣は、日本唯一の熱帶地でありますし、各國の學者は臺灣に參つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

て見學することを希望して居ること、考へられます。臺灣としては之を歡迎しなければならぬと思ひます。今日からボツ〳〵用意をして置きまして、甚だよい機會でありますから、何んとか一つ、臺灣の眞價を諒解させ、出來ますことならば、臺總の醫事衛生のために氣焔を揚げることが出來ますならば、非常に臺灣の爲に慶賀すべきこと、思ひます。

九

閉會式が終りまして、翌日から、七日間、馬來半島の「エツキスカアシヨン」がありました。それに日本側が參加するかすまいかと云ふので可成議論をしました。實は二日の夕方に大地震の電報が參りまして、其後連日の電報は非常に惡い報告ばかりでありました。江ノ島が消失して東海道の海岸が陸地へ三浬だけ海に沒したとか、東京の死傷者五十萬と云ふ風で、何れも「シヨツク」を受けました。外國人の同情は非常に高まりまして、其一面には、私共が社交的の場處に出るのが目に立つ様な風になりました。そして「エキスカーシヨン」は、見物、社會の意味が可なりに大き部分を占めて居りますので、此が參加の可否を議論の一つの理由にもなつたわけでありました。結局、震災地に職務上の關係がなく、家族のない人が代表になつて行つたら可からうと云ふことに一旦きまり、東北大學と滿洲からの代表者が行くやうになつたのでありました、其の二人も行くことをやめてしまい、閉會後、便船のあり次第に、歸國の途に就きました。日本側の次會引受けの交渉や事務に當つた、傳染病研究所の宮川博士、內務省の飯村技師等第一回の歸國の組が、シンガポールを出帆しました後に、內務省から電報がありまして、次回引受けは見合せといふ命令が參りました。しかし、既に總會で決議も決した後でありまして、其場で、急いで、かれこれと致すべきことでないので、會の當局

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

には通告をせずに一同引上げました。私が先日滯京中に知りましたところでは、いよ〳〵引受けることに決定したといふことであります。私は蘭領印度地方其他を視察する命令を受けて居りましたが、電報で、一時歸朝を願ひ出ました所が、許可の電報が參りましたから、私も「エッキスカアシヨン」に加はらずに歸朝致しました。開會中は殆んど連夜晩餐會があり、醫學會、病院等の「リセプシヨン」等がありましたが社交的のことは全部申上げぬことに致し開催側としては可なりに來會者の便宜をはかつて呉れました。接待委員の方針として、來會者をなるべく各國の在住者で宿をするといふことで、私共も、總領事の宿舍や、大會社の社宅に御世話になりました。連日、會の方で可なり多數の自働車を會員用に提供してありました。最後に、一つ切實に感じましたことを申して終ります。其は、あれだけの會をしますのに、人を甚だ少數でやり、それで迅速に始末をつけて居ることであります。詳しく調らべたのではありませんが、俸給を拂つたのは、たつた女事務員が一人らしく看護婦一、二人手傳つて居り、「ボーイ、スカウト」が大層手傳つて居り、開會式と閉會式の日には「ガール、ガイド」が手傳つて居りました、會の仕事振りは私の非常に教訓になりましたことで、日本のいろ〳〵の會もだん〳〵、能率發揮的にする要があると思ひます。甚だ雜駁なお話で恐縮でありました。（完）

——大正十二年十二月四日總督官邸に於て——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

調査研究

上海の概況

臺灣總督府稅關事務官　井出季和太

一　序言

上海は其の實際の人口二百萬に垂んとし、東亞の大市場たるのみならず、出入船舶數二千餘萬噸、總貿易高八億萬兩にして、世界六大港の一に屬し、又支那に於ける唯一の工業及文化の中心たり。（註、一）其地位長江を遡る六十餘浬、支流黃浦江口に在る吳淞港を去る十二浬の左岸、支那東沿海の中央に位し、歐米・南洋・日本等の各市場と相連絡し、前記貿易額は支那の總貿易高の約四割、長江地方の約八割內外を占め、其背城たる長江流域は支那人口の約半部一億八千餘萬の住民と、支那本部の約半部に當る七十五萬六千平方哩の面積とを包容し、中外物資集散の樞紐たり。蓋し世說の如くに將來或は大築港計畫の實現せむか、吃水數十呎、六、七萬噸級の大船も自由に出入することを得べく、其港灣の延長三十六浬、水面積六、七平方哩に達し、漢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

堡の二倍半、倫敦の數倍に當るべしと云ふ。

又上海は貿易上の大都市たると同時に、近世支那に於ける最も廣汎にして進步したる居留地（租界）を存す。即ち從來の上海縣城等約三平方哩の支那市街の外に、十平方哩餘に亘る共同租界及佛租界あり。自ら上海の研究は支那自體の研究を意義するを以て、上海發達の沿革を始めとし、逐次上海に於ける各種制度並に其經濟事情を敍說せんとす。

（註、二）一九二一年世界重要貿易港に於ける呑吐船舶の噸數を示さん（一千萬噸以下之を略す）

港	千噸	港	千噸
倫敦	三四、一〇一	メルボルン	一七、三九二
紐育	三一、九三九	神戶（一九二〇年）	一六、四七七
アントワープ	二五、九三九	マルセーユ	一五、三九九
リヴアプール	二四、六二一	シドニー	一四、四七二
香港	二四、一六五	カーデーフ	一三、九〇二
上海	二四、〇八二	ミユーカツスル	一三、八九〇
ロツテルダム	二一、七四九	リオデヤネロー	一三、四六〇
モントリール	一九、四七〇	カルカツタ	一二、八三七
ハンブルグ	一八、八六四	パナマ運河	一一、四三五
蘇士運河	一八、一一八	ベイノスアイレス	一一、二九〇
新嘉坡	一七、九三三	橫濱	一一、二六二

二　沿革

（一）開港前　上海縣は往昔禹貢九州の一たる揚州の跡にして、春秋時代には吳に屬し、西紀前五一三年迄は蘇州の北方約十六哩に當り、首都と定められたることありしが、後越に歸し、戰國の世には楚に入り、申春

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

君の封邑たりしより、上海の別名を申城と稱し來りたり。秦漢には會稽婁縣の地たり。其後唐以降宋代に至る迄、華亭縣と稱したりしが、元代に迨び始めて上海縣として分立したり。蓋し上海の地たるや古來水路の要衝にして、西紀一〇七五年宋神宗の世には上海鎭なる市場として知られたりしが、加ふに今日の稅關に該當すべき市舶司及推貨場を設け、其後元明を通じて各種制度を施行し、殊に元及明の永樂以降、國都を燕京に置きたるが爲に、上海は漕米解送の基地として元明兩代には其運送船九百隻を越えたりと云ふ。

上海は他の多くの都城と異り、往時は比較的重要ならざる處たりしこと及平和的地方なりしとの爲に、西紀一二六四年宋理宗當時縣城たりし以來、約二世紀に亙り城壁を設けざりしが、明代に至り倭寇の襲來あり、嘉靖年間には縣署及市街を燒燬せられ、上海は殆んど荒廢に歸せんとしたるが如く、乃ち同世二年（西紀一五五四年明世宗の世）市民顧從禮等の請に依り、松江府知府方麗始めて之を築きたるものとす（註、一）清代に至り康熙雍正及乾隆等、數度城壁の修繕をなしたりしが、一九一四年に於て之を撤去し、城濠を埋め馬路を建設したるなり。

外交關係としては、古來日本南洋諸國に對し船舶の交通を見たりしも、其外國との交涉を開始したるは廣東・寧波・廈門等より後代に屬し、卽ち廣東が上海の搖籃をなしたるものとす。而して蘇杭二都と異り十二世紀マルコ、ポロ一行に閑却せられたりしと雖ども、東印度會社は廣東に本據を置き、夙に上海に著目する所あり。同年間卽ち西紀一七五六年同社廣東出張員英人フレデリック、ピゴウ（F. Pigou 比谷）の報告書に依れば、上海は貿易港として將來有望なることを明かにしたるものあり。數年後汽船「フリント」號は北支、港灣調査の爲に派遣せられたるあり。越えて一八三二年（道光年間）同社の荷物監督人（シユーパーカーゴー）エッチ、エッチ、リンドセイ（H. H Lindsay 林德賽）代表として、曩に戎克船に依つて上海及天津を訪問したる所の通譯ドクトル、シー、グ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ッツラッフ（Dr. C. Gutzlaff）を帶同し、「ロードアムハースト」號に乘り込み呉淞を通じ上海に入り、道臺に會見し、極力貿易の開始を説く所ありたれど、上海商民が間引を熱望したるに反し、官憲の頑迷なる抗拒に遭ひ廣東に還れり當時リンドセイの報告中には呉淞江には日々百噸乃至四百噸級の戎克船四百隻以上碇泊しつゝあり、其貿易の利益一箇年百乃至二百（パーセント）に達せりと記せり。

次に一八三五年にはドクトル、メッドハドストは上海に航し通商を企てたりしが、グッツラッフ及リンドセイと同様の對遇を受け、不成功に終りたり。

（註、一）上海城壁は延長三哩より三哩四分の三の間に在り高凡ソ二十呎乃至二十四呎にして二十個の衛塔あり、六門を有す、構造は單純にして內壁は土を以て固め外壁のみ煉瓦造さしたれど、後年に至り東壁には內面に煉瓦を補綴して防禦用さして厚さ約十五呎させり
(G. Lanning, the History of Shanghai P. P. 258-9)

（二）開港の由來　前記の如く英國は上海の開港に努力して其目的を貫徹し得ざりしの際、一八四〇年英支間に阿片戰爭勃發し、英國は廣東を攻取し、英國派遣の大使ポッチンガーの率ゆる艦隊は北進厦門・寧波等を侵襲し、一八四二年六月十六日には呉淞に進軍し、十九日には上海に入り、更に同月二十五日には鎮江・南京を襲ひたるが爲に、清廷和議を決し、耆英・伊里布及中鑑を全權大臣とし、便宜事に從はしめ、遂に一八四二年八月二十九日即ち道光二十二年七月二十四日南京條約を締結し、清國は英國に對して阿片損失の補償及軍費金賠償として二千百萬弗を約し、香港を割讓し、福州・厦門・寧波・廣東と共に上海を開港せしめ、上海發達の期限を劃せり。翌一八四三年六月二十八日講和條約の批准交換をなしポッチニガーは上海に至り居留地設置の必要を認め、一行中のバルフォーアは上海駐在の當初の英國領事に任せられたり。南京條約締結の結果一八四三年十月八日英支虎門條約、一八四四年七月三日米支「ワンギア」條約及一八四四年十月二十四日佛支黄埔條約の締結を見たり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

開港當時の上海は、縣城外に蘆荻茂れる沼澤地にして外人の居住適地なく、城內を其の住居に充てたるが如く、一八四三年末上海に在りし英國籍民は僅かに二十五名にして數個の商社あり、就中借地人として著名なりしは、ジャーデイン、マヂイソン、キツブリ、ヴイングストン、ホリデ、イーワイズ、ウォルコット、ベイチユ及エルデント等の會社商會となす。蓋し當時の記錄に徵すれば、兩三年後の一八四七、八年頃には上海は既に相當殷賑の市場にして、河岸碇泊の民船は三千餘隻に達せりと稱す。

(三)太平亂と其影響　一八五〇年(道光三十年)以降一八六四年(同治三十年)迄十五箇年に亘る長髮賊反亂の上海に及したる影響中、特筆すべき事項を述ぶれば、髮賊は一八五三年三月南京及鎭江を陷し、上海に侵入し、上海に於ける英米等居留民は其聯合の義勇隊を組織し、防備の爲に塹壕を掘鑿したり。當時上海內には髮賊の外に淸政府と相快からざる三合會又は小刀會なる秘密結黨の劫掠あり。一八五三年三月(咸豐三年)小刀會の一派たる七首黨に在上海の廣東人、福建の靑巾黨、江西の編錢會等參加し、縣城に闖入して知縣を斬り、道臺吳健彰を脅迫し、吳は難を居留地に避け、英米人の保護に投す。稅關亦其侵略を蒙りたり。匪徒は南京の大平王の援助を受くることを得ず、孤立に陷りたるに際し、淸兵は賊徒と接戰し、居留地の外國人は兩者に對し中立の地位に立ちたり。然るに官兵は前後十七箇月にして匪賊を驅逐したりしが、居留地內に出沒し外國人に危害を加へ、其の害匪徒に勝るものあり、乃ち英米聯合軍は淸軍を居留地外に擊退し、其後英米佛三國領事共同して防備し、事なきに至れり。一方佛國は曩に賊徒の侵略に對して單獨防禦に出て、一八五四年十二月佛軍艦より陸戰隊を上陸せしめて城內の賊徒を砲擊し、翌年二月佛軍は更に匪賊を驅除し、之に依つて租界擴張の素地を作せり。

小刀會の匪徒と淸軍と、對抗中には、髮賊は上海に迫らざりしが、上海城が淸軍の爲に恢復せらるゝや、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一八六一年李忠王兵を卒ゐて上海に進み、徐家滙の天主教會堂を占領し、更に城内に侵入するや、租界の外國軍隊は官軍を扶けて髪賊に當りしが、髪賊は租界に入りたるを以て、外國軍艦より之を砲撃したると同時に、租界は支那官兵の侵入をも許さゞることを宣明したるあり。又其後偶々英佛聯合軍と北京政府との間に於て天津條約成立し、スタヴイリー將軍の率ゐたる英佛軍隊の上海を撤退するや、一八六二年髪賊に對して上海の周圍三十哩間は不可侵の區域たることを宣言したり。然れども同年初忠王は十萬の兵を率ゐて上海を攻撃したるが、外國軍隊並に清軍の共同防戰に依つて上海を略取すること能はずして退却したり。其後一八六三年一月八日スタヴイリー將軍の報告に依れば、前記三十哩の半經を以て劃せる上海地方には賊徒の隻影を止めざりしとあり。

尙髪賊上海侵入の結果にして注意すべき現象は、内地人民が兵燹の災を蒙り、上海に避難し殺到したる其數著しきものあり。上海居留地は所謂避秦の桃源たり。例へば當時人口一萬より百萬に激增し、食糧品の價格前後四倍に騰貴したりと云ふ。但し其後一時は地方人民の多數復還したるものあり。再び寂寞を感じたることあり。

次に貿易上の影響に於ては、例へば輸入に關して殊に木綿商の蒙りたる打撃は甚大なるものありと雖ども。一方阿片の取引は尙繼續せり。又絹及茶の如き内國の需要を減退したるに反し、外國輸出は增加せりと云へり。

(四)太平亂後　長髪賊平定後、上海に於ける歷史的事實としては、海關制度、租界行政の組織、其他重要事件發生あり。例へば一八六五年には上海吳淞鐵道の計畫あり。海關總稅務司制度の確立あり。一八七二年には上海吳淞電車の計畫あり。一八七四年五月には佛租界には寧波人の騷動あり。蓋し佛租界は當時市場とし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て重要ならずと雖ども、支那住民中寧波人多數を占め勢力を有したりしを以て、偶々佛租界官憲が寧波會館に屬する墓地を道路布設の爲に撤去せむとするに當りて大騷亂を起し、多數外國人の家屋を燒棄し、又は支那人の死傷者を生じたるが、上海義勇隊は之を鎭壓し、一方佛國領事は寧波會館及其墓地をは現狀の儘に存置すべきものとして解決せり。而して其後一八九八年に至り再び動亂を發生したれど、佛租界官憲は道路建設の目的を達成せり。

一八七六年二月には上海吳淞鐵道に對する支那人の反抗甚しかりしが、同年六月其開通を遂げたり。一八七八年十二月には海關郵政部の開始あり。一八八一年十二月には上海天津間電信の開通あり、一八八八年一月には保稅倉庫の設置あり一八九三年十一月十七、八兩日には上海租界設置五十年祭の擧行あり。當日迄に上海を訪問したる外國人の數は約五十萬人に達したりと稱せり、一八九四年には河岸支那人街に火災ありしを機會として、更に支那人家屋の取拂を命じ、佛租界の海岸通りと連絡する大道路を布設することを得たり。

(五)**日清戰爭以降日露戰爭迄**　一八九四年日清戰爭の勃發に當り、日清貿易研究所(東亞同文書院の前身にして明治二十三年より同二十七年迄存在せり)學生の拘禁斬殺せられたる事件あり。支那駐在日本使臣の退去となり、同年七月には上海道臺が領事團に對し、必要に應じて吳淞江を閉鎖すべき旨を通告したるに、領事團は當時支那總貿易商の五十三「パーセント」の一億五千餘萬兩の貿易額を占むる上海の發達を阻害する重大事件なりとして、支那政府に向つて抗議を提出する所あり。東京駐在の英國使臣は日本政府より「上海を作戰地帶外に置くべき旨の保障を得たれど、吳淞江は一部封鎖せられたり。尙又江南機器局よりは兵器彈藥を軍隊に供給したるが如き事情ありしが故に、日本側に於ては上海中立地帶に關する宣言を撤回せんと期したることあり。米國は英佛と連合して干涉し、日本新聞紙の反對宣傳あり。而して翌年一月には英國は海[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

司令官に對して中立協定の維持に必要なる手段を講せむことを訓令する所ありたり。

戰時中、日本と上海との交通は英國々旗の下に汽船「アンゼロス」號に依つて行はれ、戰前には男女八、九百名に達したりし日本人は、戰時に際し殘存者三十餘人に減少せり。

一八九七年四月には、一輪車の稅金增徵問題に關して動亂あり。義勇隊及陸戰隊に依り抑壓せられたるも、納稅者大會の開催となり、工部局委員の更迭を見たるあり。又佛租界に於ても同種事件の發生あり。

一八九八年には滬寗鐵道に關する英支協定あり。一九〇〇年六月には佛租界の擴張あり。

同年六月十四日の團匪の亂は天津に勃發し、各國聯合軍の北京攻擊となり、上海地方の風聲鶴唳よりして避難民の移動著しく、市場紊亂して經濟界の恐慌を來し、收拾すべからざりしを以て、時の道臺袁樹勳は領事團に向つて援助を請求し、租界內の支那紙及旅館等を取締り、謠言を鎭靜し秩序の恢復に努め、七月三日には上海巡撫の長江流域中立の協定あり。日英米佛獨五箇國軍隊をして。一九〇二年十二月迄駐在せしめ。各國義勇隊と共同して上海の防備治安の維持に當りたるものとす。

一九〇二年六月には上海會審衙門に關する協定あり。同年九月には關稅問題上の「マグナカータ」たる英支「マツアー」條約の調印を見たり。

一九〇五年の日露戰爭に際しては、上海道臺は二月十五日局外中立を宣言し、當時上海に在る邦人數は男女二千五百餘人、同年末には三千三百餘人を占めたり。

同年十二月には、會審衙門に於ける英國會審官の權限に關して英支當局者間に爭議あり。外國軍隊の出動となり、支那人は一般的排英運動をなし、騷擾を惹起したることあり。

（六）**革命と其影響**　上海は交通の要衝にして國際都市たる租界の存在するを以て、從來政治運動の中心たり。

國事犯人の避難處たり。自ら毎期革命の策源地たり。假令廣東・武漢地方又は香港等ありと雖ども、上海租界なくば清朝は尚ほ倒潰せざりしなり。

三期革命亂中、最も上海に影響を爲したるは第一革命となす、即ち一九一〇年十月十一日武漢の地に革命の火蓋を切り、數閲月足らずして南支一帶獨立を宣言して以來、就中上海及漢口は貿易上密接の關係を有し、倏ち金融界の恐慌を來し、銀貨缺乏し、爲替相場暴騰し、南京總督の張人駿は同月十八日新造貨幣五十萬元を撥出し、官銀號に融通し、又南京より新貨四百萬弗を得て之を市場に放出し、焦眉の救濟に資したるも、民立銀行錢莊等は悉く支拂を停止し、一千萬元に近き不拂手形を生じ、錢莊は殆んど將棋倒しとなれり。

又支那街の住民は各地騷亂の情報に接し、租界内に移住するもの多く、市街の商取引は休止の情態となり、閉店者頻出し、上海漢口間の電信は十月二十七日に不通となり、又支那招商局の長江航路は全然閉鎖せられたり。

曩に陳其美を隊長とする革命軍は江南機器局を略取し、陳は滬軍都督となり、軍政府を組織し、滬寧鐵路公司及英國領事に交渉して該鐵道の交付を受け、之を管理したり。而して上海の支那住民は當初革命に同情する者多く、紳商五一亭等は大清・交通・通商等三銀行の官金を封印し、清國政府に對抗の態度に出でたり。然れども其後袁世凱の高壓政策よりして、一九一三年春夏の頃所謂恐怖時代を現出し、李烈鈞、黄興等の討袁軍の組織となり、第二革命を勃發したるや、日本を始め上海・北京・南京方面の外國人は革命軍に同情せざるのみならず、却つて北軍の便宜を計りつゝあり。又支那人間に在りては革命派を目して亂黨と呼び、殊に上海商務總會は革命軍は上海の秩序を紊亂するものとし、反對の決議をなしたるが如く、南京の革命軍敗走後、自ら南派の首領孫文は臺灣に亡命したり。其後第三革命に於ても、上海は香港と共に唯一の策源地たり。革

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

命實行上重大關係を有したりしも、第一革命當時の如くに之が反響を及さゞりしなり。

(七)**歐洲戰爭後の事情**　一九一四年七月二十八日勃發したる世界大動亂は、亦上海に影響する所著大なるものあり。而して戰後平和條約及華府會議等國際的事件の勃發は獨り政治上のみならず、思想文化の上に於てもも特筆すべき結果を齎らせり。就中、上海に於て注目すべき事項は左記の如し。

第一　一九一七年八月十四日支那が對獨宣戰布告以來、上海に於ける獨墺人の退去を命じ、其官有財產を沒收し、當時千四五百名の獨墺人は、一九一九年には五百餘名に減退し、百有餘個の商社は同年中に於て悉く撤退せり。

第二　一九一七年中の露國共和制の布告、帝政の顚覆、露獨講和締結以來、對支關係にも亦相當波動を及ばし、其後莫斯科又は極東政府等の赤化宣傳に依り、上海に於ける過激派露人の侵入となり、同時に日軍の避難民增加し來りたる爲に、露國帝政時代の一九一六年頃には、露人數五六百人に過ぎざりしが、一九二〇年には六千餘人の十倍に增加したり。而して過激派に屬するものは約千五百名內外を占め、彼等の宣傳機關たる日刊紙「上海ライフ」(一九二一年「ニユー上海ライフ」と改名)周刊誌「ニユーロシア」等を發行し、「ロスタ」通信を利用し、又は「セントロスユース」「ザクスビツト」等の購買機關を有し、義勇艦隊の如きは交通運輸に從事するの外、現在未だ露國領事の承認せられざる關係上、旅券査證事務をも執行しつゝあり。其他「ボリシエウヰキ」宣傳の爲には支那の新人又は上海「エスペラント」協會員、其他不逞鮮人又は日本の無政府社會主義者とも時々連絡し來りたり。

第三　一九一八年末以降、一九一九年初頭に亘り開催したる巴里會議に際し、從來內外に呼應したる排日鮮人等は、米國大統領の民族自決主義の影響を受け、同會議に對して獨立援助の旨を打電し、爾來上海を中心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

として活動する所あり、一九一九年四月中旬には同志七百名に上り、同月下旬に至り佛租界に於て高麗國民共和大會を開催し、遂に五月假政府を創設し、閣員を任命し、議院憲章其他法令を編製し、爾來獨立運動を繼續し來りしが、鮮人の先天的疾患とも云ふべき地方別黨派心より來る不統一及資金缺乏の爲に、支離滅裂に終焉せんとしつゝあれど、假政府なる不可解の政治團體として數年間存在せるは、彼の政治上自由放任主義を採りたる佛租界政廳の庇蔭が一原因をなしたるものとす。

又假政府と直接關係を有せざるが如きも、彼の破壞殺人を目的とする義裂團なる不逞鮮人の秘密團體あり。彼等の上海に於て實行したる一事件として附記すべきものは、一九二二年三月二十八日、日本の軍事參議官田中大將が麻尼拉よりの歸途、上海埠頭に於て鮮人金益相・吳成崙の爲に狙擊せられ、命中せざりしが偶々續て在りたる米國婦人スナイダーを即死せしめ其他二、三英支人を負傷せしめたるものとす。其他多數不逞鮮人の團體ありたれど多くは有名無實のものに過ぎず。

●第四● 歐洲戰爭後、紡績其他工業の發達と同時に、新思想の宣傳物價騰貴等主因をなし、勞働運動の勃發を見るに至り、例へば郵便役夫・海員・紡績工・生絲工・煙草職工・印刷工・鐵工夫・人力車夫・電車夫・金銀業工・棧館夫・木器工・染工・扶夫・石工等各業に亘りて罷業あり。一九二三年の工部局年報に依れば、罷工回數一九二〇年には四十五件、一九二一年には三十六件なるに對して、一九二二年には七十件に達し、租界内に於てのみ四十八件を占め就中大規模のものは、同年春香港海員大罷業の影響を受けて發生したる、同年八月五日より二十五日迄繼續したる上海々員同盟罷業となす。其他郵便配達夫煙草職工又は紡織工等の罷業比較的廣汎に行はれたり。而して一九二三年三月頃軍隊に對する勞働者及學生の反抗あり。京漢線大罷業に伴ひ全國的罷業計畫ありたるは注意すべきなり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

而して勞働問題の解決に關しては、未だ有效なる法制又は設備なく、只僅かに一九二三年三月三十日暫行工場法を發布したれど不備多く、殊に獨り百人以上の工場に之を適用すべく規定したるを以て、大部の工場は其取締を免ることゝなる。又現に租界の外租界外と雖ども之が實施を見ざるなり。但し幼年勞働者の保護に就ては内外人より輿論の興起あり。同年六月上海に於ては幼年勞働者委員會(Child Lobour Committe)なるものを組織し、外支人十名より成り、日本人一名加入せり。

第五 支那全般に亘りたる排日運動は又上海を中心としたることあり。上海市場に反響を及したること著大なるものあり。一九一五年五月の日支條約締結前、同年二月頃東京に於ける支那留學生大會を出發點として、同三月歸滬したる支那留日學生及對日同志會等の協議宣傳を以て排日の氣勢を高め、排日諸團體の聯合大會又は商業團體の決議に依り排貨を實施したりしが、當時尚ほ運動の根據薄弱なりしのみならず、經驗に乏しく殊に一般商人の利益を損傷すること少からざりしより、日ならずして終熄したり。又一九一八年五月三十日公文書を交換したる日支軍事協約締結に際し、留日學生等は叩りに主權侵害論を高唱したるも、排貨運動の繼續を見ずして止みたり、然るに一九一九年五月以降勃發したる所の排日運動は、山東問題に關聯して北京學生より火蓋を切り、上海を中心として各地に蔓延し、恰も驟雨の如く急激にして暴動化し、數箇月間持續し、八月頃一時反動期に入りたれど、又偶々福州事件突發の爲に運動を再發し、一九二〇年尚各地に於て排日の宣傳・罷市・排日貨の實行あり。學生無賴漢等は一種職業的不法手段を講じつゝありたり。次に第三回の排日運動は、華府會議以降支那利權恢復の一端として、偶々一九二三年三月二十五日を以て、所謂二十一箇條約に定められたる旅大租借期限が滿期日に相當するが故に、一九二二年十二月日本の靑島無償還付を實行せるに滿足の意を表せずして、二十一箇條約廢棄・旅大還付を高唱し、日本政府の拒絕に遭ひ、益々排日

氣勢を熾盛ならしめ、同年三月以來上海各商會・學生・勞働者等の團體決議となり、主たる排日團體數十に達し、其組織的にして有力なるものは、各種團體を其分子とする所の市民對日外交大會及國民對日外交大會となし、殊に上海總商會の如き之が中堅となり、畫策する所ありたるは注目すべき事實なりしなり。而して、上海日本商業會議所の如きは同年七月十二日より十六日迄、臨時連合大會を開催し、決議する所ありたり。

●第六　租界内に於ける支那人參政權運動の勃發あり。即ち上海工部局に向つて、納税義務者たる支那人に對して行政委員會員たるの特權を附與せむとする要求は、既に一九一九年四、五月頃に其端を發し、一九二〇年に至り又工部局增税問題發生せる際に、交換的に其要求をなし、上海商業團體の代表者は英國領事を訪問し、又は工部局に對して意見を提出し、納税拒絶に出て、又は一部罷市を實行したるものありしが、支那人加入案は納税者會議に於て多數決の結果否決となりたり。但し同年五月には恩惠的に支那人五名を顧問に任選し、共同租界内の支那人關係事項に就ては協議に參加し得べきこと、せり。

三　人口の增進　附　商社

上海往時の人口に關しては支那政府の調査記錄杜選にして到底信を措くべからず。又近年工部局或は海關の統計稍、據るべきものありと雖ども、尙多數支那住民の計表外に洩る、ものあり。即ち上海の人口は百萬乃至二百萬の間に在ると云はるも、諸資料を參酌して推定せば、少くとも百七、八十萬を下らざるべしと思ふ。而して外人數は三萬餘人と看做さば大過なきが如し。

由來、上海の支那人口は、十數年に亘りし太平亂の爲に地方人民の避難し來りたるもの多數を占めたること前に述べたるが如く、サー、エフ、ブルースが、アール、ラッセルに致したる報告に依れば、既に一八六二年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

末には百五十萬人に上り、英租界四百七十「エーカー」內に五十萬人を包容したるものとす。一八六三年一月三日の「ノースチャイナ、ヘラルド」紙に依れば、當時上海の人口は急激に三倍せり、然るに兵亂後一八六五年初頭より避難民の內地歸還者相踵ぎ、同年四月一日の同紙に從へば、英租界七萬、佛租界四萬七千五百、虹口(米租界)二萬、計十三萬七千五百に下れりと雖ども、其後又內亂騷擾の爲に避難民の移住及通商の發展に伴ひ益〻上海の人口を增加し、今日の大をなせり。

一八八〇年頃の人口は、共同租界支那人十萬七千餘人、一八七八年佛租界支那人三萬三千餘なりしが、一八九〇年頃は租界內支那人二十萬八千餘人(共同租界十六萬八千餘人、佛租界四萬餘人)あり。リチャードの中國坤輿詳誌が日露戰爭當時の「センサス」を引證し、租界內支那人五十三萬七千餘人(共同租界四十五萬二千餘人、佛租界八萬四千餘人)とし、城內人口凡そ三十萬人と推定せり。最近工部局調査に依れば、一九二〇年現在に於て、租界內支那人九十三萬餘人(共同租界七十五萬九千餘人、佛租界十七萬餘人)及租界外七十三萬一千餘人にして、合計百六十六萬一千餘人に達せり。次に外國人口の增加は、上海開港史上興味ある問題たり蓋し上海の開港後に、英米商社十一にして代表者二十三人の外に、英國宣敎師二人及英國官選領事一人にして、合計二十六人あり。何れも城內に住居を有せり(註、一)其後一八四七年には百八人に達し、英國人八十七人(妻帶者十名)米國人十七人(同上三名)波斯敎徒四人とし、一八五〇年には英佛の官選領事二人館員六名あり(米國は尙商人領事を任用す)商社員十九名の外に、醫師五名及新敎の宣敎師十七名あり。而して商民等總て百二十人中の十四名及宣敎師十七人中十六名は妻帶者なり。二三例外を除く全部は、河南路と江岸との間に住居し、又宣敎師は米國敎會が虹口に在りたる外は、城內に其布敎所を置きて住居せり(註、二)次で租界章程制定の翌年卽ち一八五五年頃には、外國住民數二百四十三人に增加し、新敎の宣敎師は三十名を含む。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

就中英國宣敎師九名、米國宣敎師二十一名となす(註、三)

次で十箇年を經過し、共同租界成立二箇年後の一八六五年頃には、租界地の發達及貿易の進展に伴ひ、外國人の居住數著しく增加し來り十倍以上の二千七百五十七人に達し、約半數は英租界に在り。其後一八七〇年共同租界の外人數は一千六百六十六人より、一八八〇年に二千百九十七人、一八九〇年に三千八百二十一人、一九〇〇年に六千七百七十四人、一九〇五年には一萬一千人となり、戰爭當初の一九一五年には一萬八千五百餘人より、戰後の一九二〇年には二萬三千餘人となり、而して佛租界の外人數は前者に比して遙かに少く、佛租界確立後十餘年を經過したる一八七八年に、尙三百七十人に過ぎず、一八九〇年に至り漸く四百四十四人となり、而して最後の租界擴張以降一九一五年には二千四百五人に增加し、一九二〇年には三千五百六十人に達せり。

外國人の同籍別人口は、居留地の沿革上從前は英國人を主としたれど、近年日本人の居住者頓に增加して第一位に在り。又露國人の移住英國人を凌駕したり。例へば一九一四年には外國人總數二萬三千餘人中、日本人一萬一千餘人に對し英國人三千八百餘人にして次位に在り。一九二一年には日本人一萬六千七百餘人に對し英國人は三千八十一人に過ぎず。露國人は最近例へば一九二〇年には約六千人を算したるが、一九二二年には著しく減退し、一九二二年には白軍關係者の避難に依つて再び增加したるが如し。日本人の上海に於ける居住は、開港後英米佛等の國人に比して遙かに後れ、明治元年(一八六八年)以降同十四、五年迄は、十人乃至百人內外に過ぎず。同二十三年日淸貿易研究所設立當時は、在留民八百餘人に增加したることあれど男子は三分の一に過ぎず。雜貨商・陶器商・小間物商・其他一部の商社員又は官吏等となす。女子は三分の二を占め、大部は洋妾・淫賣婦なりしと云ふ。而して日淸戰爭の際には大部退去したれど、其後再び渡來者を增

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

加し、日露戰爭當時には數千人に上り、一九一九年頃は一萬八千人臺となり、今日に於ては朝鮮人臺灣人等の增加數を加へば、優に二萬人以上に達すべし。但し小商人等多數を占め、其質に於て英米人等に到底匹敵すべからず。各國商社數を見るに、最近に於て日本は又第一位に在りと雖ども、其商勢力に屬しては、英國に劣ること遠し。戰爭當初の一九一四年には、外國商社の總數六百六十二社中、英國は二百三社にして筆頭に在り。日本は百十七社にして第二位に在り。一九二〇年には總計千八百三社中、英國の二百六十五社に對して日本は一千百二十五社にして、半數以上を占めたり。殊に下記一九一六年以降の日本商社の計表中には、從前と異りて小商店を含みたるが故に、數に於て著しく增加したれど、商勢力上比較の標準となす價値なきなり。

今租界確立後の一八七〇年以降、最近に至る迄の人口概數を示さば左記の如し。

共同租界	外國人	支那人
一八七〇年	一・六六六	七〇・〇〇〇
一八八〇年	二・一九七	一〇七・八一二
一八八五年	三・六七三	一二九・六六五
一八九〇年	三・八二一	一六八・一二九
一八九五年	四・六八四	二四〇・九九五
一九〇〇年	六・七七四	三四五・二七六
一九〇五年	一一・四九七	四五二・七一六
一九一〇年	一三・五三六	四八八・〇〇五
一九一五年	一八・五一九	六二〇・四〇一
一九二〇年	二三・三〇七	七五九・八三九

佛租界	外國人	支那人
一八七八年	三〇七	三三・三九三
一八九〇年	四四四	四〇・七二三
一九〇五年	八三一	八四・七九二
一九一五年	二・四〇五	一六六・五九五
一九二〇年	三・五六〇	一六六・六六七

支那人の地方別人口は、江蘇省人を主とし、浙江人之に次ぎ、例へは公共租界支那在留民中、江蘇省民は二十九萬二千餘人、浙江省民二十二萬五千餘人、廣東省民五萬四千餘人を占め、其他遙かに下れど一萬人臺を越ゆるものは、安徽・湖北・直隸・山東等の省民を擧ぐることを得。而して同租界の分布は、中央・虹口・東・西・

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

北・五區中東區を最多とし、二十三萬人餘を占め、北區は次位にして十九萬餘人、中區は十五萬七千餘人、西區は十五萬二千餘人、虹口は十一萬四千餘人となす。(上海指南參照)

一九二〇年に於て租界內外總人口數を見るに、工部局調査に依れば左記の如し。

	外國人	支那人	計
共同租界	二三・三〇七	七五九・八三九	七八三・一四六
佛租界	三・五六二	一七〇・二二九	一七三・七九一
租界外	—	七三〇・〇三〇	七三一・〇三〇
計	二六・八六九	一・六六一・〇九八	一・六八七・九六七

郵便局調査に依れば總人口百五十三萬八千五百人とし「滬指南」載する所に從へば百五十七萬八千餘人とし、大差なきも、一九一七八年頃の海關統計には八十四萬乃至百萬とし、又リチャードの「中國坤輿詳誌」其他に引用する所亦た八十四萬臺とし、過少に失す。實際數は左記推定に近きものゝ如し。

(上海日本商業會議所上海概覽參照)

租界	約	一・二九〇・〇〇〇
城內及南市	約	四〇〇・〇〇〇
浦東	約	一五〇・〇〇〇
閘北	約	二〇〇・〇〇〇
計		二・〇〇〇・〇〇〇

一八八〇年以降共同租界內の各國別人口統計左記の如し。

	英	米	佛	獨	日	葡	露	墺匈	伊	西	丁	其他	計	支那
一八八〇年	一・〇六一	二三〇	四一	一五九	一六八	二八五	三	三一	九	一七六	三二	一〇三	二・一九七	一〇七・八一二
一八八五年	一・五二一	二七四	六六	二一六	五九五	四五七	五	四四	三一	二二二	五一	一九一	三・六七三	一二五・六六五
一八九〇年	一・六六二	三二三	一一四	二四四	三八六	五六四	七	三八	三三	二二九	六九	一六二	三・八二一	一六八・一二九
一八九五年	二・〇五五	三二八	一三八	二一四	二五〇	七三一	二八	三九	八五	一五四	八六	四七八	四・六八四	二四〇・九九五
一九〇〇年	二・九八七	五六二	一七六	五二五	七三六	九七八	四七	八五	六〇	一一一	七六	四二三	六・七七四	三四五・二七六
一九一〇年	四・一六九	九四〇	三三〇	八一一	三・三六一	一・四九五	三一七	一〇三	一二四	一四〇	一二三	五三四	一三・五三六	四八八・〇〇五
※一九〇五年	五・五九九	九六一	八六一	八八六	五・九三五	一・三二九	三七七	一〇七	一三一	一四〇	一三三	六八五	一七・五九五	六九〇・〇〇〇

※は共同租界外の人口なども包む

(H. B. Morse, Prude & Administrution of China Г. P. 266)

更に其後一九一四年以降一九二一年に至る各國別人口及商社數を掲げば左記の如し(海關調査に依る)

人口

國籍	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
米	一·七八五	一·八七三	一·九九九	二·〇〇〇	二·二〇〇	二·六〇〇	三·〇二八	三·〇二八
墺	一三九	一三九	一七二	二〇四	二〇四	七	七	七
白	四一	四五	五八	五四	六三	五八	五八	五〇
ブラジル	—	—	—	—	一八	—	一〇	四二
英	四·八〇二	五·〇七六	五·〇七六	四·〇七六	二·五五一	七·一八五	五·八〇〇	四·〇八一
チェックスロヴァキア	—	—	—	—	—	—	—	九〇
丁	二〇六	二二〇	二二六	二五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	三三六
和	一五〇	八一	八九	九二	一三九	一三五	一二八	一八五
佛	一·〇〇〇	六〇八	六〇八	六二三	五〇〇	六七〇	六七〇	八四六
獨	一·〇〇〇	一·四七五	一·四〇〇	一·二八九	一·二八九	五五四	五五四	五六八
匈	—	—	—	—	—	一	一	—
伊	一二五	一六二	一七五	一七五	一七八	—	二五〇	二五〇
日	一一·一三八	一一·四五七	一一·四五五	一三·九四四	一六·四一三	一八·三一二	一五·一三二	一六·七一七
諾	一〇四	一〇七	一〇六	一〇六	一〇六	一五〇	一四二	一四二
葡	三·〇〇五	三·一二一	二·〇六五	二·〇六三	二·〇六〇	二·〇二五	二·〇四〇	二·一四六
露	五〇〇	四五八	六七六	五四五	一·六七五	二·五〇四	六·〇〇〇	三·一〇四
西	一五五	一五二	一八七	一七八	一八六	二〇一	一八七	一九一
瑞典	七四	八四	八六	一七四	九〇	三〇九	一一〇	一一〇
土	—	—	—	—	—	三五	—	—
無條約國	—	—	—	—	—	二三九	八六	—
計	二三·三二三	二五·〇六八	二一·三七六	二四·七七五	二六·七四七	三六·四六五	三四·四八五	三一·八九五

商社

國別	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
米	七一	七五	八二	一〇〇	一〇八	一三五	二二六	二二六
墺	一三	一四	一四	一二	一二	—	—	—
白	三	四	六	七	八	八	八	一〇
ブラジル	—	—	—	—	一	—	一	六
英	二〇三	二三五	二三五	二三五	二三〇	二三二	二六五	二六六
チエックスロヴアク	—	—	—	—	—	—	—	五
丁	六	七	八	八	八	九	九	一二
和	一〇	一〇	一三	七	九	一〇	一二	一三
佛	三四	三三	三三	三七	四二	四三	四三	五五
獨	一〇二	九一	九五	五〇	五〇	—	—	三〇
匈	—	—	—	—	—	—	—	—
伊	三	二三	二七	二〇	一四	—	一五	一五
日	一一七	一七五	七五六	九四八	一・二九六	一・三六三	一・一二五	九八四
諾	九	九	七	七	一〇	一二	一三	一三
蘭	二四	二四	三六	三六	二八	三三	三六	五六
露	四〇	二〇	二七	二二	三三	二七	四四	五〇
西	八	二	四	八	八	八	八	七
瑞典	—	—	—	—	—	—	五	五
無條約國	—	—	—	—	—	—	五	—
計	六六二	七一九	一・三三三	一・四九五	一・七五九	一・八七一	一・八〇三	一・七四一

（註、一）英國の上海初任領事キャプテイン、バルフオーアは一八四三年十二月八日廣東より上海に到着し翌日道臺を訪問し翌々日船員及一行を紹介したり一行中には通譯ダブリユー、エッチ、メドハースト醫官ドクトル、ベール書記エー、エフ、ストラチヤンの外に定海の英國軍隊に屬したる倫敦教會のドクトル、ロックハートは數日前に入滬したりロックハート夫人はサーハリーパークスの姉にして上海に足跡を印したる當初の婦人にして後未亡人となり九十五才の高齢を以て一九一八年死亡迄上海に在住し上海開設の恩人たりしなり一八四三年

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十二月三十一日現在の外國人は二十五名にして上海に於て英國臣民として登錄したるが當時の商人中には「ホリデー、ワイズ」社のジョンワイズ「ギッブリヴィングストン」社のジョンデー、ギッブ、ジェーマッキレル、スミス「デント」社のテー、シーベール及「ジャーデン」社のエーザー、ダグラス等あり (G Lanning, the History of Shanghai P. P 275-282)
（註、二）一八五〇年八月三日の「ノースチャイナヘラルド」紙ノ創刊號に依れは一八四六年當時には上海に於ける宣敎師は英國人三名米國人五名とせり又一八五〇年現在の上海外國人數は不在者を含めて百五十七人にして三十七人は妻帶者なりと記せり
（註、三）一八五五年の「アングロ、チャイニースカレンダー」に依れは當時の宣敎師數は香港十名、廣東十一名臺灣六名福州七名寧波十七名に對して上海は最高三十四名を算せりと云ふ

四　貿易其他の發達

上海の發達は廣東に比し遙かに後世に屬すと雖ども、其地位が廣東に比し自然的恩惠に浴するの外、幾多優勝なる特點あるを以て今日の大を成せり。今重要なる發達の事情を述ぶれば即ち。

第一　長江の廣大なる作用に依る「ヒンターランド」の富源は廣東・西江等「デルタ」の比に非ず。殊に廣東諸河川の如き汎濫の害なきなり。蓋し長江流域は、古代に在りては四川方面迄、亞細亞の地中海を形成し、比較的後世に至るも尙ほ宜昌附近に河口を存し、順次杭州地方に及び、遂に今日の上海流域を組成し、地下四百呎以上は仲積土なりと云ふ。黃浦江の排水區域と雖ども約七千七百平方哩に亘り（大湖外湖水面積約千二百方哩を含む）蘇州江・吳淞江は其重要なる支流をなし、全降雨の三十八「パーセント」は黃浦江に注き、他は蒸發し又は土壤に吸收せらる。又ハイデンスタムの言ふが如くに、水量の二十二億四千萬「ガロン」に對し、流水量の二十八億八千八百萬「ガロン」の差額六億四千八百萬「ガロン」は、排水區域を浸潤するものとす。而して一箇年間に於ける長江の排泄には土砂は、八十億萬立方呎或は六十三億萬立方呎にして、二百呎餘の高さを一平方哩に埋積し得べしと稱す。ハイデンスタムは、百十一億立方呎即ち一億萬噸に當り一呎の高さに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

じて四十平方哩の地積を得べしと云へり。該土砂の實際堆積地域は長さ六百哩幅員五十哩に亘り、即ち總計三萬平方哩に達すべしと云ふ。(G. Lanning, the History of Shanghai P. P 248-255)

第二　上海地方の人種は、廣東人種の如くに革命的排外的に非ず。從來外國人に對して親善の精神を抱懷し、現に開港前リンドセイが上海を訪問したるときの報告中には、市民は何れも溫和なる態度を持し、外國人と直接貿易を喜び居れりと云ふ。尙開港後に上海を尋ねたるヘンリー、チャールス、ミルの記事に依れば、同じく上海土民の性質は平和的にして、行動は道德を重んずるが如く見えたり。但し他の福建等より來住したる水夫には粗暴の徒少からず。闘爭を事とし、恰も英國に於ける愛蘭人の如き觀ありと云ひ、現に當初より上海に在りては廣東と異り、外國領事・商人・傳道師等は入城居住を許され、生活愉快にして又彼の貿易所に於けるが如き制限あるなく、地方旅行自由にして通商及租界の發展を來したるものとす。

第三　廣濶なる租界が上海の大部を占めたるを以て、歐米の文明的諸制度を移植したると同時に支那地方人口の多數を吸收したるものにして、彼の廣東が僅かに沙面の四十四「エーカー」の居留地を有するのみにして、動亂の際には地方人民は却つて香港に避難し去り、自ら廣東の繁榮を香港に奪はれたるものと異る。即ち廣東は戰亂に依つて瘠せたるに反し、上海は戰亂に依つて肥りたるものとす。

第四　上海は長江及支流の恩惠に依り、水陸交通機關の利便大なるものあり。天然資源開設の結果、燃料竝に工業用原料の供給自由なると共に、土地亦た比較的餘裕ありしを以て、近世工業の勃興を來したること廣東及香港等に異るものとす。

是に於てか、諸方面より上海の發達を觀察せん。

(一)貿易の增進　往時上海の貿易は英國主たり。輸出には茶・生絲を大宗となし、輸入には阿片大部を占め、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不正の取引多かりしなり。開港當年、貿易總額は只僅かに五十七萬餘弗にして、開港後も漸く二百五十餘萬磅に過ぎず。其後一八六五年には三千八百萬兩となり、十箇年後の一八七五年には四千四萬餘兩臺を上下したれば、日清戰爭後に至り急激に增進し來り、一八九七年には一億萬兩に上り、日露戰爭當時の一九〇五年には一億七千六百餘萬兩を越え、其後兩三年間は一時稍々減退を示したれど、歐洲戰爭前には既に二億萬兩を突破し、戰後物價騰貴と共に其額を倍加し、一九二二年には六億三千餘萬兩となり、總貿易高は十億に垂んとせり。

更に船舶の增進には一層著しきものあり。例へば一八五四年海關及工部局組成當時の船舶は、其半箇年に於ける入出港數は、英國船三萬四千九百九十九噸、其他諸國船三萬二千六百六十三噸に過ぎざりしが、十箇年後の一八六四年には百七十八萬噸を上り、英國船の如きは九十九萬餘噸を占め、二十箇年後の一八八四年には四百萬噸を上り、二十箇年後の一九〇四年には三倍して千二百萬噸を突破し、最近一九二二年には倍加して二千七百餘萬噸に達したり。

(二)工業の發達　支那が日露戰爭後、利權恢收熱の勃興となり、革命期に入り自覺的に產業の奬勵、工業の保護に著目し來り、今日國貨維持を提唱しつゝあるが如く、就中上海の工業が最近急激に發達したるは顯著なる事實にして、地方產品の輸出は一九〇四年以降一九一四年迄十箇年間は、八千萬兩內外に止りしが、歐洲戰爭時に至り急激に增加し、一九一九年より二億萬兩に上り、一九二二年には三億六百餘萬兩を突破せり。

工業中最も盛大なるは紡織業にして、一八九〇年李鴻章の上海機器織布局創設後、一八九四年以來實際事業を開始し、殊に一八九五年下關條約後其發達を見たるものにして、一八九六年頃は支那全部を通じて十二工場四十一萬餘錘に過ぎざりしが、一九二二年には上海附近のみにて五十五、六工場百五十有餘萬錘に達し、全

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國に對し工場數は約五割、錘數は約六割を占む、其他重要なる工業としては、既に一九一九年頃に於て新式製粉工場十六、製米工場四十一、大製絲工場十五、豆粕工場六、造船工場五、大印刷工場六、製紙工場六、二大煙草工場二及同小工場數箇、發電所五、其他多數諸工場あり。

工業の發達上最も興味ある現象は、最近短期間に於て左表の如く電氣の使用を激增したることに存す。

一九〇四年	一、一八九、四八〇	一九一九年	一〇二、三三八、一三七
一九〇九年	五、六九七、九八〇	一九二二年	二三二、四五七、三六一
一九一四年	三二、六一三、六七一	（工部局賣品數量を示す）	

（三）租界の發展　上海居留地の濫觴は、英國領事が開港後一八四五年、領事館敷地として僅かに二十三「エーカー」の土地を賃借したるに在り。翌一八四六年英國人の住居地として百八十「エーカー」に增加し、一八四八年には更に四百七十「エーカー」に擴張せられ、佛租界は一八四九年以來約二百「エーカー」の土地を得、一八五五年頃には英國領事館に登錄したるもの三百五「エーカー」、米國領事館に登錄したるもの七十六「エーカー」を占めたるが如し。而して其後人口の增加に從ひ、時に應じ租界の擴張をなし、現在は共同租界面積五千五百八十五「エーカー」即ち約八平方哩三分の二を占むるに至れり。

居留地に於ける地價は、開港當初は一畝(モウ)(我二百坪)四萬文乃至八萬文とし、支那人に對しては一萬五千文乃至三千文に過ざざりしが、其後急激に騰貴し、一八八〇年頃は一畝千六萬四十七兩に上り、一九〇七年には平均九千六百五十六兩となり、最高十一萬兩に達し、而して最近數箇年は空地稀有なりしかば著しく騰貴し、現に一九二二年末の評價々格最高十七萬五千兩とし、實際賣買値段は三十萬兩を出づべしと云ふ。自ら一九〇二年の土地評價は六千萬兩なりしが、一九〇七年には一億五千萬兩に上り、一九二一年には共同租界のみの地價一億八千八百萬兩に達せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

工部局豫算の如きも、當初は僅かに收支共各二萬五千弗に過ぎず。而して支出の大部卽ち一萬五千弗餘は警察費を以て占め、收入の大部卽ち一萬四千弗は埠頭税たりしが如く、當時の都市經營は一寒村に似て市街には瓦斯又は電燈の設備なく、石油「ランプ」の費用全區域に亘り毎月僅かに十二弗にして、衞生設備亦之に準じたりと云ふの情態なりしが、最近共同租界の豫算は、數百萬兩を越え、道路百三十八哩に亘り、一九一九年末一千百餘萬兩の借款中、電氣部の費用は六百餘萬兩を占めたるが如し。

五　上海に於ける各國の勢力

上海に於ける列國中、最も勢力を有するものは、先客たる英國にして、其商勢力は通商貿易又は租界行政上の地位に關し、或は諸般設備に就ても、第一位に在り。日本は英國に比して約半世紀後れて市場に現はれ、實際今日迄僅かに二、三十箇年の經營活動に過ぎざるものとしては、其進歩驚くべきものあり。居住者の數に於ては、總外人の約半部を占め、事業中獨り最近發達の前記紡績業に關しては、其錘數に於て五六十萬を占め、支那と伯仲の間に在り。英國を倍加するが上に其成績一層優良なるものあり。然れども船舶入出港及貿易額に於ては、英國に比して戰後益々軒輕する所あり。例へば最近一九二二年英國船の一千二十萬餘噸に對して七百萬噸を示し、第二位に在り。同年の貿易額は、英本國の一億三千九百萬兩、香港及其他屬領を加算したるもの二億四千七百餘萬兩、卽ち總額三十八パーセントを占むるに對し、日本は一億九百餘萬兩にして十七「パーセント」に過ぎず。彼の米國の一億六千四百餘萬兩の二十五「パーセント」に比して遜色あり。第三位に下れり。

更に沿海貿易を見るに、一九二一年支那は四十二「パーセント」餘、英國三十九「パーセント」餘に對し、日本は十四「パーセント」餘に過ぎず。而して長江航路の例に於て、英國は四會社二十隻四萬三千噸に對して、日本船は日淸汽船會社十三隻二萬九千噸に過ぎず。支那船の十一隻二萬四千噸と大差なし。自ら港灣設備の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

利用に就ても、日本郵船會社の如きは夙に其施設經營する所久しと雖ども尙英國に及ばす。例へば上海の沿岸碼頭延長約三萬呎内外中、英國は四割餘を占むるに對して、日本は二、三割に過ぎず。又倉庫收容能力約八十萬噸中、英國は四十五、六萬噸を占むるに對して、日本は十八萬噸にして其半數に及ばず。

次に租界政廳其他政治機關の地位に關しては、英國の勢力殊に優越にして、英國人大部を占め。米國之に亞ぐ。而して佛國は經濟上の勢力として認むべきものなく、其居住者の如き僅かに七、八百人商社五十餘に出でざると雖ども、尙半世紀以上專管居留地たる佛國租界を存し、政治上は正に勢力を有しつゝあり。

共同租界政廳たる工部局の最高執行機關たる行政委員の如き、其數九名中英國六名、米國二名に對し、日本は漸く近年に至り一名を有するに過ぎず。而して其投票權數總て二千五百餘中、日本側は三百五十有餘を占むれど、連記投票なるが爲に他の同情聲援に依つて資格を得るものとす。自ら又工部局吏員七百餘名中、多數は英國人にして日本人は四十名内外の巡査を除かば、通譯其他下級職員兩三名に過ぎず。蓋し曾て租界政廳に大英國工部局なる門標を掲げて上海の支那人の敢て奇とせざりしは良に以なきにあらず。

支那海關組織に於ても、五、六百名の吏員中多くは英國人にして日本人は僅かに十名を上らず。殊に上級吏員は兩三名に過ぎず。其他支那官廳に於て日本人は郵便局に三名、鹽務官署に一名を見るのみなり。

商勢力に於ては、前述の如く一九二〇年には英國の二百六十五社、米國の二百十六社に對し、日本は一千百二十五社に達したるが、英米商社と比肩し得べきものは數十社を出でざるべく、大部は個人の小商店に屬し、又大商社と雖ども支店級のものたり。而して日本人居住者は、所謂米國租界と稱せられたりし蘇州河以北の虹口・北四川路又は租界外に比較的密集し、小店舖相連り、恰も日本町の如き觀を呈す。由來日本人も租界政廳經營の施設を利用し得べしと雖ども、風俗習慣を異にするを以て、彼の學校の如きは別に日本人居留民團を組織し、二重の負擔を忍びつゝあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

領臺前噶瑪蘭の蕃務

臺北州調査

二　蕃務考（承前）

□開疆設官に於ける楊廷理と賽冲阿との意見の異同並に部議の因循

同十三年、是より先き楊廷理は益々開疆の初志を奮ひ、自ら阡陌を履勘し険要を詳査し、再び賽冲阿に請ふに設官陞科の上奏あらんことを以てす。賽冲阿許さず廷理を促して府に還らしむ。流民大に望を失ふ。廷理乃ち繪圖を製し携へて府に還り、形勢を指陳し主張益々力めたりしが、今年の春に至り賽冲阿は先づ設屯免陞の奏請あり。顧るに楊廷理は新に地方官衙を蛤仔難に設け、田園を丈量して科に陞せ、以て國帑の收入を計るにあり。賽冲阿は仍ほ之を將て淡防廳に歸せしめ、屯田の制を布きて其の陞科を免するにあり。蓋し楊廷理の議を以てするときは、生蕃の防禦は屯蕃を用ひずして隘丁を用ひ、並に土地の開闢は業戶に由らずして散佃に由るを以て、隨て歳入を多からしむるを得べく、但た土蕃熟蕃の保護政策に就ては別に撫綏を講せんとするもの丶如し。又賽冲阿の議を以てすれば、設屯免陞名は恩惠を蕃に與ふるが如くなるも、其の實は彰化淡水の覆轍あり。官司は壅蔽せられ、蕃社は欺凌せられ、佃人は其の利益を得る能はず、政府は其の缺陷を免る丶能はざるなり。既にして賽冲阿の奏疏は京師に至れり。部議之を可とせず、事乃ち停止せりと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

云ふ。夫れ楊廷理と賽冲阿との所見、孰か是孰か非、暫く言を容れざるも、獨り怪む政府が開蘭の議を藐視せることを。顧るに流民は海寇蔡牽を破りて、土を保ち堵に安んじ土蕃は朱濆を掃ふて官の爲めに力を致せり。是れ民の已に流民に非ずして、蕃も亦我が民に非ずや。宜しく彼が請ふを竢たず、我より進んで流治を策すべきなり。聞く當道は蕃地の稽査し難く、釁端を滋くすべきを論ずと。何ぞ知らん民蕃を界外に放置して雜蹂せしむるの、却て釁端を多からしむることを。終に後年に至り蛤仔難蕃をして山前の覆轍を踏ましむるを致せり。

□梁上國の開蘭奏請

同十二月、部議が開蘭を可とせざるや、少詹事京官梁上國は蛤仔難情形を陳奏し、早く版圖に收入せば以て洋盜の窺伺を絶ち、且つ海疆を開くべきを以てせり。蓋し蛤仔難の問題久しく解決に至らず、福州の卿官亦開蘭を贊するあり、梁上國に託して協力周旋せしめ、乃ち此に至るなり。是に因て皇帝は諭を督撫に下し、妥議奏聞を爲さしめたりしが、未だ勸辨を爲すに至らず。翌年分類の擾あり、社蕃は大痛恨の事に遭ひたり。

□漳籍と泉粵籍との分類械鬪、熟番社の顚覆

同十四年、初め粵人は已に地を失ふて羅東の蕃に依り、泉人も亦狹小の地に在り、固より滿足の生活に非ず。毎に漳人に快ならざる所あり。亦蕃社と相依るに至りしが、是歳五月鳳山の泉粵兩籍と漳籍との分類の亂あり。延ひて淡水廳の八里坌に及ぼしたるを以て、忽ち波動を此の地に傳へ、歲の六月漳人は不意に起つて羅東阿束を襲ひたりしが、往年の奸民李祐等之が引路者たり。潘賢文等支ふる能はず、漳人即ち羅東を佔

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

奪し、社蕃遁れて阿里史に投ず。尋で阿里史も亦其の佔奪する所となる。既にして漳人は復泉人と和し、泉人は溪洲より海に沿ひ大湖に至り、粤人は冬瓜山の地方一帶を開きたりしが、獨り潘賢文等の各社蕃は或は土蕃社に入り、或は山地に入り、或は蘇澳方向に遷移したり。噶瑪蘭原始は漳泉又鬪ふと述べたるも、漢人には彼我械撃の跡あるに非ずして、却つて熟蕃を襲ふて其の地を取れり。而して其の地を取るや、本來の敵に對しては相忘れたるが如く直に講和せり。豈に泉粤皆蕃社に依るも戰鬪力の觀るべきものなく、卽ち蕃が獨り其の衝に立ちたるに因るか。抑も事を分類に始めて社蕃の地を奪ふに終はる。蓋し流民が土蕃を逐ひ盡し地を略し盡し、然る後互に械鬪するの例に比すれば、殆ご反對の情形を爲すもの自ら因由なくんばあらず。漳人を導きたる李祐は往年朱濆に通謀せし縣漢にして、當時搜拏を謀りしものは潘賢文以下の熟蕃なり。則ち彼が漳人の饔飧を助けて其の報復を逞ふせるものなり。呑舟已に網に漏れ復跋扈して忌憚する所なく、奉公實心の熟蕃を驅りて分類の犧牲たらしむ。顧ふに亦當道が開蘭を稽延せしめたるに因らずんばあらざるなり。

□熟蕃の土蕃地内流寓

而して熟蕃が土蕃地域に避逃するや、幾穆撈(今の奇武荖庄)阿里史(今の阿里史庄)打蚋米(今の月眉庄)九份庄(其の時土蕃なし東螺蕃往て之に據る)馬賽(今の馬賽庄、新城の地なり)庄、隘丁庄高々(今の頂叟庄)水尾(其の時土蕃なし盡し今の下清水庄に屬す)等、羅東以南蘇澳間の荒埔に就き、僅かに部落を構設したるもの、如し。姚瑩の所謂「阿里史の衆驚潰し走りて土蕃社内に入る」云々乃ち是なり。當時土蕃は已に羅東開墾の實例あり。素より其の移墾を拒まず。潘賢文も亦之を凌壓する如き事實あるなし。

□噶瑪蘭の開疆、楊廷理の開蘭委辨

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同十五年四月、政府は始めて蛤仔難を收めて版圖に入れ、疆名を改めて噶瑪蘭と稱せり。初め閩浙總督方維甸等は事を以て臺灣を巡り、方に艋舺に次せり。是に於て頭目包阿里等は嘎里阿完等の社番を帶同して迎謁し、蛤仔難を收め版圖に入れんと請ひ、民戶頭人何繪等も亦既墾田地を陞科し官を設けられん事等を請へり。方維甸乃ち民番に諮問を加へ、更に臺灣總鎭武隆阿知府楊廷理に命じて實地を勘査せしめ、乃ち蛤仔難を版圖に收め、改めて噶瑪蘭と稱し、左の奏疏を爲したり。

竊に照す、臣は旨を奉じて臺灣に赴き、械鬪案件を査辦し、業に訊結定擬を經て摺を具し恭しく奏するの外、上諭を欽奉し、淡水玉山の後を査するに、地は噶瑪蘭と名け、蕃語に係れり。閩音の正しからざる訛りて蛤仔難と爲せり(中略)民人の居る所は五圍の外、倘員山・溪洲・羅東・湯圍・大湖圍・三十九結圍・都美鶴圍・勞口圍・下溪洲・幾穆撈・辛那罕等の處及圍外の零戶あり。濁水溪故道の北は盡く漳人たり。開墾を爲す十に八七あり。故道の南は泉人粤人の開墾に係り、又岸裏・阿里史・阿束・東螺・牛馬頭社の熟番あり。其の中に遷居し荒埔尙未だ全く墾せず。是れ噶瑪蘭地勢の情形なり。臣行て艋舺に次るとき、卽ち噶瑪蘭の生番頭目包阿里等が嘎里阿完等の社の生番を帶領し、前來叩見するあり。戶口淸册を呈送し、業に已に制に遵ひ薙髮し、卽ち收めて版圖に入れ、竝に熟番潘賢文等が此れが地を侵佔(因に曰ふ土番は推熟番が侵佔するを言明するも亦漢人の侵佔が熟番に十倍するを言はず一面には民戶頭人が既墾地の陞科地界分定等を請ふさへあり乃ち知る是の間生番の歸化は全く漢人の籠絡に出づるものにして卽ち東勢番も亦漢人の樂籠に入りたることを)するを以て、請ふ熟番の例に照らし、通事を設立して欺凌を免れん(因に曰ふ熟番の欺凌を免る爲め通事を立てんとする蓋し漢人に依て熟番に當るの意なり)と。又該處の民戶頭人何繪等が呈請に據るに、已墾田地は則に照らし科に陞せ、官を設けて彈壓し地界を分定する等に在り(中略)隨つて總兵武隆阿・知府楊廷理をして勘査を爲さしめたるに、噶瑪蘭南北約長さ六七十里、東西約寬さ二三十里にして、漳人四萬二千五百餘丁、泉人二百五十餘丁、粤人一百四十餘丁あり。熟番は五社九百九十餘丁、歸化生番は三

十三社四千五百五十餘丁あり（中略）其の員山東北の地は適中に處るを以て、官を設け營を安んずべし。頭圍は水陸扼要の處なり。分汛を設くべし等の事を以て復命せり（中略）現に鎭道等の稟議を經るに、倶に設官經理を以て宜きと爲せり。然るに該處は數十年來王化の及ばざる所たれば、一旦繩すに法度を以てするも、亦立どころに安貼に就く能はざらん。知府楊廷理、丁憂巡檢胡桂は、該處の情形に於て最熟悉を爲せり。臣は已に委ねて田甲を淸査し、地界を分劃せしめたり。其の査明具稟を俟ち、臣は再び撫臣と會同妥議し、詳悉具奏せん。

右の奏疏を提出せる後、楊廷理を以て委辦開蘭事宜と爲し、胡桂を以て彈壓委員と爲したり。

口噶瑪蘭三十六社及位置未詳の十一社

是の時に當り噶瑪蘭土蕃は三十六社にして、濁水溪を以て分界とし、其の溪北を西勢と稱し二十三蕃社を分布し、溪南を東勢と稱し、十三蕃社を分布せり。蓋し東勢西勢の名は蕃人の稱謂に係るも、地理を以てすれば南勢北勢と爲さゞる可からず。因つて楊廷理及總兵武隆阿之を改稱し、又蕃社名の如きは開疆以前より蕃語を譯するに閩音を以てせるものなりしが、亦武隆阿に由つて之を改正せられたり。而して其の名稱及其の時代の分布地域は左の如し。

噶瑪蘭平埔蕃族

原譯 乾隆三十年代以前	同上 乾隆三十年代以後	改譯 嘉慶十五年以後	位置
蛤仔難	蛤仔難	噶瑪蘭	東南は蘇澳零工圍に至り西は沈頭山後大坡山等さし南西は叭哩沙喃に至り北西は宰牛寮の內山に接し北東は海を限り北は烏石港に至る
西勢蕃社	西勢蕃社	溪北蕃社	濁水大溪を以て劃分し其の北岸より烏石港に至る

吵嘮美仔遠	吵嘮妙婉	吵嘮里遠	廳の東北十二里に在り頭圍堡の海濱沙崙の地に分布す（社頭なり）
奇立丹	農立穆丹	棋立丹	廳の北十四里にあり同堡湯圍の東方に分布せり（礁溪の東なり）
抵馬悅	都巴嗎	抵把葉	廳の北東十四里に於て同堡奇立丹の東北に隣して分布せり
未詳	達瑪嗎	打馬烟	廳の東北二十里に在り初め頭城を建つる前は其の處に分布したるも尋て海岸沙崙の地に移れり即ち今の頭圍堡の打馬烟社なり
抵美簡	都美幹・	抵美[illegible]簡	廳の北東二十里に在り同堡の沙崙に近接する地（塭底庄）に分布せり
未詳	撈々	流々	廳の東二里にあり民壯圍堡西勢大溪の分溪に沿ひ七張、新興兩庄の間に分布す
奇立援	幾立板	奇立板	廳の東十里に在り西勢大溪分流の東岸に沿ひ分布す即ち民壯圍堡なり
未詳	瑪嗎穆罕	蕨里目罕	同上に在り奇立板の南畔に分布し即ち其の下流に沿へり
抵美福	都美鶴	抵美福	廳の東南六里に在り民壯圍堡に屬し西勢大溪の分流と濁水溪との中間に分布す
新仔羅罕	新那嘮罕	新仔羅罕	廳の東北二里に在り民壯圍堡に屬す大溪の分流に沿ふて今の西關堡七張庄の西南に隣りせり
擺里	擺立	擺離	廳の南五里に在り員山仔堡に屬し今の擺里庄一帶の地に分布す
屏仔貓力	賓那馬拉	珍仔滿力	廳の西南五里に在り員山仔堡に屬し擺離の南一帶に分布す
未詳	瑪立丁洛	麓支鎮落	廳の北四里にあり淇武蘭堡に屬す
新仔罕	新那罕	新仔罕	廳の北四里に在り淇武蘭堡に屬し新仔罕溪の北に沿ひ分布す
奇五律	農穆堅	奇武暖	廳の北六里に在り同堡に屬し新仔罕の北に隣接し及溪に跨り分布す
抵美抵美	都美都美	抵美抵美	廳の北八里に在り同堡に屬し奇武暖の北に隣接せり
踏々	達普達普	踏々	廳の北東八里に在り同堡に屬し打那岸と溪を隔て相望む即ち溪の東に分布せり
打那軒	打那岸	吵嘮岸	廳の北八里に在り同堡に屬し抵美抵美の北に分布せり
未詳	[illegible]乳	馬賽	同上同堡に屬し打那岸と抵美抵美との中間に分布せり
未詳	優普蘭	奇蘭武蘭	廳の北東十二里に在り同堡に屬し棋武蘭溪に沿ふて分布せり
東勢番社	東勢番社	溪南番社	濁水大溪を以て劃分し其の南岸より蘇澳に至つて止む

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

奇毛字老	讚穆撈	奇武荖	廳の東南二十五里に在り羅東堡に屬し里荖即ち補城地庄の南畔に分布す
女老	里腦	里荖	廳の東南二十五里に在り羅東堡に屬し里荖溪の南畔に分布す
未詳	達普安	打朝巷	廳の南東二十里に在り羅東堡に屬し打那岸溪の北岸に沿ひ分布せり
珍汝女簡	丁普里幹	珍珠美簡	同上に在り羅東堡に屬し補城地里荖等庄の西に分布し里荖溪に沿へり
勿罕勿罕	穡罕穡罕	武罕	同上十五里に在り羅東堡に屬し里荖溪の上流冬瓜山街の對岸に分布す
未詳	達拉糜	打納米	同上に在り同堡に屬し武罕社の西に分布せり今の月眉庄の地なり
歪仔歪	外阿外	歪仔歪	同上十四里に在り清水溝堡に屬し羅東溪の上游に沿ふて分布す
巴老鬱	芭撈屋	吧咾吻	同上に在り同堡に屬し歪仔歪の南畔に在る蓋し新に員山仔堡より移りしなり
未詳	沙轄沙轄	掃笏	同上に在り二結堡に屬し五結庄の北に分布せり
毛老甫淵	瑪拉胡嫣	馬荖武烟	廳の南東十五里に在り打那美堡に屬し羅東、里荖兩溪の間に分布す
毛搭吝	瑪魯烟	南搭吝	同上に在り同堡に屬す其の分布地界は馬荖武烟と同一なり
未詳	嘎里阿完	加禮遠	廳の東南十六里に在り利澤簡堡に屬し加禮遠溪の南に分布せり
丁仔難	巴嘮新那完	婆羅辛仔宛	同上に在り同堡に屬し加禮遠の北に部落し加禮遠港なる今の頂清水庄の地に毗連せり
未詳	里德幹	奇澤簡	同上に在り同堡に屬す蓋し加禮遠の分社にして今の利澤簡堡の處に分布せり
未詳	留々仔庄	留々仔庄	同上に在り同堡に屬す蓋し婆羅辛仔宛と祖を同ふし其の西隣に在て溪に沿ひ分布せり
猴猴	高高・	猴々田猴	同上二十五里に在り同堡に屬す大坤の北に分布し及武荖坑溪より馬賽に至る
○	瑪賽	馬賽	馬賽は武荖坑溪南の地なり而も蕃社の有無未だ詳ならず

右表に揭ぐる第一欄に原譯未詳のものあり、今臺灣府志の（乾隆二十九年ノ纂修）載する所に據れば、仍は左の十一社あり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

是なり。

卓高旺	勝採丹	鮑涼灣
哆　門	奇班宇	東拂東
尾	雞	拂
寶仔	四	猫
扣雞	勝灣	姜瀾
毛社	奇宇	
陳賬	猫氏	

是の十一社を以て右表の未詳欄を塡すれば卽ち三十六の數を得べし。然れども其の社名が本地蕃社名と毫も髣髴する所なき所以は、或は當時の蕃酋の名を以て直に蕃社名に列ねしものなるや、或は當時其の社ありて後に至り滅絶せるものなるや、鴻荒草昧の時に屬し、得て考ふ可らずと雖、抑も蛤仔難蕃が三十六社なりしことは康熙三十三年臺灣舊志の載する所にして、今後新修府志に其の社名を載せたるを以て、乃ち乾隆二十九年に於て現に三十六社を形成せしことを證するに足らん。但開蘭前までは其の二十三は西勢に分布し、十三は東勢に分布せるに、流民の驅逐を受け、西勢の三社が東勢に遷移し、卽ち西勢二十東勢十六の數を成したること右表の如し。然るに此の地の土蕃は西班牙に占領を試みられしとき、沿海に四十七の部落を成せるを傳へられしが、是れ實に淸の康熙開臺に先たつ五十二年にして、爾後西人の去ると同時に再び草昧に復し少しも進化する能はず。康熙開臺の年代に尙下文の事跡を傳ふるあり。

口提督萬正色が見たる山後の食人蕃族

尹氏臺灣志略に曰「陸路提督萬正色なるもの海舟もて將に日本に之かんとし、行て鷄籠山後に至るとき、風なきに因り東流の牽く所と爲り、一山に抵り暫く息ふ。舟中七十五人皆何地たるを識るなし。蓋し其の時未だ蛤仔難の名あらず、四人あり岸に登り路を採るとき、異類數輩疾馳して至り、一人を攫み共に之を啖ふを見る。三人逃れ歸り一人に莽中に遇ひ、之と語る亦泉人なり。之を携へて舟に登り、具さに妖物が人を啖ふの狀を道ふ。其の人曰、彼れは妖に非ず、此の地の人にして蛇首猙獰として能く飛行す。然るに越ゆる所は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

尋丈に過ぎず。幾きに余が舟至り、同侶は皆噉はる。惟余が獨り存するものは、項間に懸けたる雄黄を畏れて彼れ敢て近づかざるのみと。衆皆喜び其の籠より百餘斤を出し、各一握を把る。頃くして獰猙數百飛行し來り、將に舟に近かんとして皆地に伏し仰視せず。之を久ふして逡巡して退く。既にして水は西流に轉し、其の舟は仍て回りて廈門に至れり。乃ち康熙二十三年甲子八月間の事也」如上の傳説中には時に蛇首飛行等の荒唐文字を架するも、是れ混沌狀態を誇張して自ら實に過ぐるを致せるなり。顧ふに烟の生ずる所未だ火なくんはあらざるべし。蓋し彼れ其の獰猙の蛇面に似たるを形容し、又蕃の奔走する獸の飛ぶ如きを形容せるものか。若し夫れ人を攫み之を噉ふに至つては、現に「ヘウマシュ」が烏石港の南に分布せる一大蕃社にして、即ち食人の習俗ありし證跡を有せり。而して是の「ヘウマシュ」蕃族は蛤仔難三十六社以外の社蕃なりしと傳へられ、其の他の猴々社の如き、哆囉里遠及里腦社・吧老鬱社・珍仔滿力社・擺里社・歪仔歪社の如き、現に三十六社中に列すと雖、是等は孰も其の種族を異にするあり、又之を異にするやの疑ひあり。顧ふに亦「ヘウマシュ」と同じく西班牙時代の四十七部落中に關係せるものに非ざる無からんや。要之、蛤仔難の名は古るくより傳へられしも、三十六社の數は康熙三十年代の後に見はれ、其の間幾多の新陳代謝を經たるもの、如し。

口蕃語の「クブアラワン」の用義

爰に噶瑪蘭蕃社を列叙するに先たち、金包裏社蕃の記せる元朝年間源本蕃属なるものを摘載して參照する所あらんとす。蓋し金包裏社は噶瑪蘭蕃の所謂「バァゴウ」にして、頗る哆囉里遠等の社に關係すべきを以てなり。其の記錄の大要によれば左の如し。

始祖は山西に在り、子孫繁昌を爲したりしが、日月並ひ食し天地昏黑なるとき、大蛇出で衆盡く咋はる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幸にして仍ほ兄妹二人を存するあり。相議し夫婦と爲り。子孫復滋息せり。然るに再び大凶厄に遭ひ、山西の地は洪水に淹されたるを以て、衆は高山の上に避け、更に相議するに、此の地は數ば災あり、他處に移居するに如かずと、各刀斧を執り、竹を破り檨を伐り、籐を用ひ排數百隻を絞し、各干粮衣物等を備へ、一齊に桴に上り、風に憑り飄流し、臺灣大鷄籠の八斗仔海邊に抵る。岸に登るとき、犬子を隨帶し山に登り、水を挖り井を成す。衆喜び議して各地頭を分ち安居せり。尋て祖先は其の長房武𡍼勝也に金包里・鷄籠・三貂の三社を與へ、次房礁簡勝也に蛤仔難・奇萊の地を與へ、三房邦彥勝也に臺北諸社を爲さしめ、四房野邦勝也に竹塹・大甲下社を爲さしめ、五房砂簡勝也に彥里・埔里社を、六房栕字勝也に下臺灣・卑南の地を與へ、七房女に內山を與ふ云々。

平埔蕃の本源を支那民族とすることは未だ世の確認せざる所なり。況や其の最奥區に位する山西の人民なるをや。蓋し康熙開臺以來、頻に漢人の凌壓を受け、嘉慶に至りて益〻甚しきを見るや、或は名を漢人の裔孫たるに籍り、幾分の苦槩を免れんとせしものに非ざる無からんや。故に單に其の出處を名に拘束せられず、惟其の兄妹二人が生存して同族を滋息せしめたる事、竹木を伐り籐を以て桴筏を編み、一齊に放洋したる事、風に憑り大鷄籠に飄著したる事、次房礁簡勝也が蛤仔難及奇萊の地を領したる事、蛤仔難と奇萊とが古昔より特種の關係を有する事等に就き噶瑪蘭蕃を考査するにいは甚だ趣味あるべきを信ずるなり。乃ち左に噶瑪蘭蕃族に關して熟蕃の陳述及口碑に就き之を論ぜんに。

噶瑪蘭は、蕃語之を「クブアラワン」と呼ぶ土蕃が己れを稱するの名にして、猶「クブアラワン」種族と謂ふが如し。而して彼は異種族を言ふには「フス」の語を以てす。卽ち他の者と謂ふの意味なるが故に「クブアラワン」は亦之に對する名稱とも見做すを得べし。然り而して支那人は曾て之を「ハマラン」と聞き做せしが爲

め、昔時に於て蛤仔難の譯字を附したりしを、嘉慶開蘭に際し噶瑪蘭即ち「カマラン」と改正し、稍蕃音に近づきたるものなり。而して「クブアラワン」の語は更に地名にも用ひられ、蛤仔難或は噶瑪蘭を指せば、寧ろ蕃よりは地名なりと思惟するに至れり。

□「クブアラワン」蕃族の先住に就ての各説

然るに「クブアラワン」三十六社蕃族が土著なりや否やに就ては、何人も其の土著ならざるを認めしが、其の果して何れの地方より來りしやに就ては未だ確詳なる能はず。蓋し或は比律賓群島若くは南洋諸島等より來り、或は西部の平原部落より來りしものにして、彼等は暴風に吹かるゝよりし、或は異種族の壓迫よりし、或は地力の衰耗よりし、或は病疫の流行、風災水害等よりして、此に至りしものゝ如し。又熟蕃の多くは「クブアラワン」は最初に來りし祖先に依り人口繁殖に、漸次各地に社を成したりと陳述するも、實際は幾回にも遷移し來れるものにして、彼等が到著せる地點は大南澳の海邊、蘇澳の南方澳、利澤簡の馬賽の海濱及東港、西勢沿岸の沙崙、烏石港等と推測す可く、左に蕃社現用の基數の呼び方及二三の蕃語を載せ參照に資す。

對照蕃語

各蕃社語／日本語	哆囉里遠	里腦	猴猴	加禮遠打馬烟	其の他の土蕃
一	ウッツアー	ウッツアー	イス	イッサ、イサ	イッサ、若クハ、イサ
二	ヅサー	ヅサー	ヅース	ルサ、ズヅーサー	ルサ、或はヅサ
三	ウツー	ウツー	ドール	トールー、ツールー	トールー
四	スツパ	スツパ	ソーブ	スパ、シパ	スパ

五	ウチマー	ウチマー	リーム	リマー	リマー
六	ヌン	ヌン	ンー	ンヌン	ンヌン
七	ヒヴー	ヒツー	ビー	ビヅー、ビツー	ビツー、若くはビツー
八	アワッー	アワッー	アール	アル、アルー	アル若くはロール
九	シュター	シュワー	シュ	シュワ、シュワー又シイワ	シュワ、若くは、シュワー、シイワ
十	タアン	タアン	トル	シタガイ、スタガイ	シタガイ若くは、スタガイ
東	ワレー	ワレー	未詳	ワゲー、ワリー	ワゲー、若くはワリー
西	サヤー	サヤー	未詳	サヤー、テイヤ	サヤー、若くはサイヤ
南	テーポツ	テーポツ	未詳	テーポツ、テーポー若くはチームツ	テーポツ、テーポー若くはチームツ
北	ヤミス	ヤミス	未詳	イメース、イミス、若くはヤミス	イメース、若くはイミス、又ヤミス
天	ジエン	ジエン	未詳	リザン若くは、ジンラン又はウラン	リザン、若くは、ジンラン又はウラン
地	ラナムー	ラナムー	未詳	マラナイ、若くは、パナン、又はパーナン	マラナイ、若くは、パナン、又はパーナン
日	チエーナン	チエーナン	未詳	マタスラン若くはマタルサン、又はマッナラナン	マタルサン、若くは、マタスラン又はマツナラナン
月	プーツアン	プーツアン	未詳	プーラン、同上	プーラン
晝	ウーシエン	ウージエン		タギー、タゲー、若くはヅラン	タギー、タゲー、若くはヅラン
夜	ラーペ	ラーペ		トワピー	トワピー
雨	ウーサン	ウーサン		ウザン、ウーサン	ウザン若くはウーサン
風	バーチー	バーザー		ワーリー、パーリー	ワーリー若くはバーリー
火	ザーマツ	ザーマツ		ラマー、同上	ラマー
水	ザースム	ザースム		ザースム	ザースム

父	ターマー	ターマー	タマー	タマー或はタマ
母	ザナー	ザナー	ザナー	ザナー或はテナ
夫	マター	マター	パコヤン、パクエン	パコヤン又はパクエン
婦	カンパナー	カンパナー	ナツパワン	ナツパワン
兄姉	カカー	カカー	ハハー或はハハタツガン、又はカハー	ハハー或はハハタツカン、又はカハー
弟妹	マニー	マニー	ソワニー或はソワニーツガン	ソワニー或はソワニーツガン
子孫	クヷナー	クヷナー	スーニツス	スーニツス或はスーニス
祖父	パキー	パキー	パヘー或はハイ	パヘー或はパイ
祖母	パイー	パイー	パチー或はパイ	パイー或はパイ
男	ニーナイ	ニーナイ	マユナナイ	マユナナイ或はキユナナイ
女	ピーナナイ	ピーナイー	タツガン、ツールガン	タツガン或はツールガン
生るゝ	ミーワナ	ミーワナ	ピンヌスピンヌー、又はピンヌツク	ピンヌス、ピンヌー又はピンヌツク
死ぬる	マタイ	マタイ	パタイ	パタイ

右の蕃語の關係に就て其の種差の上より言へば、曾て種族の異なることを示すが如きも、亦往々にして語の質及構成の甚だ相近きものあり。又其の同一言語を爲す上より言へば、自ら人種系統を同ふするの觀あるも、是れ唯日常言語の一部分に止まり、該社蕃語の總體に於ては其の本質及構成の全然別異なるを示せり。蓋し是等の現象は彼我の交通接近により何れかの勢力多き一方に風靡するに因つて生じ、並に或る事物にして甲社に適當の用語なき場合に、之を適用するより生ずるものなり。由是觀此言語の同異は未だ以て人種上の系統を判斷するに便ならず、則ち骨骼と相貌とを以て之が考證を求めんとするも、由來噶瑪蘭三十六社は己に相互婚娶に因り血肉を混和せしめ、尙且つ漢人と婚するさへあり。故に骨骼相貌も亦遂に人種統屬を辨別す可らず。然れども三十六社蕃の出處を討尋するには、社蕃の口碑を推考するの外は、此の蕃語を以て參

考に資するの一事あるのみ。

□土番三十六社の出處と口碑竝に社名の由來

哆囉里遠は又哆囉美遠と譯す。番語のヒトルビワンなり。蓋し奇萊方向より遷移し馬來人種系の地方より出て、火燒島に栖息したるもの、如し。乃ち番歌に曰。

ヒニジ(來たか)ス(汝は)タニアン(何處より)ヒニジ(來た)ク(我は)タ(助語)シナサヤン(卽ちシナサイ、地名)

而して「シナサイ」とは何處を指すかを問へば達奇里なるを答ふ。其の口碑に據れば、二百餘年前には今の花蓮港の北大濁水の南なる「シナサイ」卽ち達奇里の地に居たりしが、其の部落を擧げて遷移を行ふこと、爲り、舟にて「シナサイ」を出でたるに、途に暴風に遭ひ大南澳の南方に抵るとき、舟破れて陸に登れり。是の地には少許の平地あるを以て姑らく栖息の計を爲したるも、生番の壓迫甚しきを以て、海岸に沿ふて再び移動し、遂に「クブアラワン」に入り、更に復海濱に從ひ北進し、卽ち是の沙崙の地に止りたりと。顧ふに「シナサイ」は新城に非ざるなきを得んや。是の地は達奇里の南に在りて之を毘連せしめ、實に大濁水と花蓮港との適中に位するなり。抑も「シナサイ」を達奇里卽ち「タツキツレー」とするも、譯音扞格して似るべくもあらず。寧ろ新城卽ち「シンシャー」の音の相近きを認む。然り而して該社番は何に由つて新城に住み、又何に由つて新城を棄てたりしや等に就きては猶未だ的確の考證を得ざるも、蓋し聞く「アミス」族が東海岸に來るや、南部は卑南一帶に分布し、北部、花蓮港一帶に分布したりしが、其の北部「アミス」の口碑によれば、該族は初め火燒島に來り、其の地を「サナサイ」と稱したりしと。又「クブアラツン」の口碑中には、祖先が移住を企

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てては人口增加の爲め原地に住む可らざるに因るなり云々と。彼此を綜合すれば彈丸大の火燒島は永く生口增殖の「アミス」蕃を容るゝに足らず、乃ち本島の東海岸に來り、仍は其の地を「サナサイ」と稱し、一轉して「シナサイ」となり、更に漢音に譯せられて新城の字を用ひられしもの、如し。又南部の「アミス」族は「プユマ」族が卑南社を建つるに當り其の征復する所と爲り、一部落を卑南に留むる外は悉く驅逐せられしを以て、爰に「アミス」は輾轉遷徙を始め、隨つて花蓮以北に其の影響を及ぼし、北部「アミス」も亦幾多移動を免れざりしもの、如し。是れ康熙の中年代以前に係る事跡にして、今を距ること二百年乃至二百四五十年前に屬せり。而して哆囉里遠社蕃の「シナサイ」を去るは獨り上文の事情のみならず、新城は「アタイヤル」中の猛者たる太魯閣の分布域内に係るを以て、又彼が激烈なる壓迫に堪えざる事情等もありしが如し。是に於て「シナサイ」を棄て去りしも、纔かに大南澳に至つて復南澳蕃の壓迫に遭ひ、再び間關して今の西勢沙崙の處にト居せしなり。蓋し哆囉里遠は屢ば生蕃の爲めに厄せらる。故に可及的之と遠さかる可く安土を求めして以て、其のト居の地は東西勢海濱の適中にして最生蕃界に遠き位置に在るなり。然れども過去の境遇閱歷等より、社に鍛匠あり以て刀槍弓矢を製し得るのみならず、俗驃悍にして遂に西勢に十社中の强大蕃と爲り、西勢蕃の牛耳を執るに至りしと云ふ。嘉慶開疆の時代には二百三四十戶、一千數百口を數へ、且つ社名の「ヒトルピワン」は人丁衆多を意味せりと云ふ。

打馬烟は蕃語之を「ヘヅママー」又「ヘムヅナン」と呼ぶ。鹽を製造するの義にして「ヘヅ」は潮水「ママー」は火を以て煮るの謂ひなりと云ふ。其の祖先の出處に就きては未だ得て確む可らざるも、該蕃の言に依れば祖先は原と東と南との間に當れる一島に居りたり。一日洋上に出漁して暴風に遭ひ、是の地方に飄至し、馬賽の海濱に漂著せり。是れ二百餘年前の事なり。其の後海濱に沿ふて來り、今の頭圍街南門外の一帶即ち新興庄

大樹所在地を中心とし、南北「ヘヅマヽー」社を建てたりしが、生蕃(恒後生蕃卽ち「ガオガン」或は溪頭生蕃を指す「ガオガン」族の如きは當時は多く此の地の青山に棲みたるものゝ如し)の出擾に堪へず、更に溪を渉り今の海濱沙崙の地に移れり。其の「ヘヅマヽー」卽ち製鹽の業は舊部落時代より之を繼行せしなり云々。顧ふに此の口碑に觀れば該蕃は南洋中の一島若くは火燒島の如き地界より來りしものにして、決して山に住みたるに非ざる可し。仍は蕃歌あり左の如し。

クザイニタホマニパイー(最初東方より來りし祖先は)マヌギナシャンナー(天の裏にて是の樂土に下たりて)アーカウカウスアー(子孫を生み繁榮し)バキラムシャヌム(耕作を敎へて)カアカウソワニー(種子を下だし雨風を降たし)ラルムヌタキラウ(家を興へ衣を興へ)マチユウチプラン(男女相合)マルヅパサン(子孫永久なり)

是れ蕃歌によれば、打馬烟が東方より來りしを證すべしと雖、東方は琉球群島の方位を除き別に島嶼あるなし。但「クブアラワン」は現に濁水溪以南を東勢と稱し、以北を西勢と稱し來れるさへあり。所謂東方なるもの南方若くは東南方の誤認に非ざる無からんや。又其の敎訓的口碑に曰。

往古兄弟の孤兒あり賴るに親戚故舊無く、野草木實を食ひ露命を繫ぎ居りしが、一日馬賽の海濱に呻吟して食を求むる際、竹筒二本漂著せるを以て之を引揚げたるに、重量異常なるより、石にて割りて之を檢すれば、光輝ある赤色の珠仔なりき。近隣相傳へて多價の米穀を出して交換し、兄弟は爰に豐富なる生計を爲すを得たり。故に辛苦は喜樂の種子なり。鰥寡孤獨は人之を憐まざれば、天が代り之を憐む。云々

是の口碑に據るも亦打瑪烟が馬賽の海濱に由緒あることを徵すべきを以て、彼が南方若くは南東方位の島嶼より來りしことは略々已に認め得らるゝも、其の出處の確證は猶未だ探明する能はず。試みに蕃語に就き一より十までの基數を對照するに、固より山前の平埔蕃と似るべくもあらず、稍々「アミス」族に近き所あるが如く、又略「ブユマ」族に近からんとする所あるが如し。然れども火燒島を出たる「アミス」とすれば、哆囉

里遠と同一言語たらざる可らず。又「サナサイ」の口碑を傳へざる可らざるに、毫も其の事あるなし。是に由て此を觀れば南部「アミス」と同系統を有する南洋島嶼の「アミス」族が巤賽の海濱に漂著し、幾多の歳月と與に生口を增殖せりと爲すも殆ど不可なきが如く、或は又南部「アミス」が卑南洋上に風に遭ひ、是の地に飄至せる事實と、其の祖先の原住島嶼を出てたる事實とを混合せし口碑とするも亦妨げなきが如し。然り而して該社は噶瑪蘭開治の時に當りては、戸數百二十餘、人口三百六十餘を有したりと云ふ。

打馬烟社に關係を有するが爲め該社に附記すべき一蕃社あり。彼は固より一社を形成する衆力あるに非ざるも、正しく其の系統を存するものなり。即ち哆依汚瑪珠及「バアガウ」蕃是れなり。哆依汚瑪珠は之を「ヒフマシユ」と呼ぶ。但未だ其の意義を詳にせず。蓋し該蕃社は平埔に住めるも、哆囉里遠・打馬烟等の系統以外に屬するを以て、之を噶瑪蘭三十六社外に置けりと云ふ。顧ふに最古の蕃社に非ざる無からんや。其の分布地は打馬烟の原聚落に毘連して下埔庄一帶に亘り、戸二百以上、口一千以上を有する大聚落にして、打馬烟が未だ來らざる時已に其の地に住みたるもの、如し。該社は食人の惡俗を有せり。然れども是の時代には他社人を害するの風熄み、己れの兒女を食ふを常とす。凡そ人肉を要するの場合は狩獵して獲る所なきときに在り。乃ち家に歸り其の幼兒(二歳乃至四歳なるを常とす)を殺して之を食ふと云ふ。蓋し人を食ふは徒に腹慾の爲めのみならず、祭儀牲供の目的をも有するものなるべきも、其の所在の兒女を殺し且つ之を食ふに至つては、曾て「アタイヤル」生蕃の爲さゞる所なり。既にして惡疫あり、俄に痙攣症を竝發して社内に蔓延し、舉社皆死亡す。當時代社蕃は謂らく悖逆の天罰なりと。獨り「アンガウ」なるもの、祖先が曾て其の惡俗を厭ふが爲め、家を携へ打馬烟社に避逃せしに因つて其の病に免るゝを得たりしが、該社は既に城を成したりと雖、仍は「アンガウ」一家に線つて「ヒフマシユ」蕃の系統を存するあり、大竹圍に住めり。「アンガウ」は漢姓の潘を稱し、名

を南枝と曰ひ、打馬烟の女を娶れりと云ふ。

「バアガウ」社は一名「ヒスバガワン」と呼び、淡水金包里堡に分布せる平埔蕃なり。口碑によれば今より百七八十年前、外洋に出漁せる該蕃が暴風の爲めに舟を破られ、辛ふして打馬烟に漂著するもの二人あり。一を禮木と曰ひ、一を籠爻と曰ふ。二人乃ち社の入婚と爲りて系統を該社に存し、禮木の孫を林謳爻と呼び、籠爻の曾孫を林猴々・林武里と呼べりと云ふ。聞く「バアガウ」蕃は哆囉里遠と祖先を同ふせりと。然るに該蕃は打馬烟に收容せられ、其の最近に部落せる同族に倚らざりし所以のものは、蓋し彼等が漂著せし緣故と其の社に姻戚たるに至りし爲めなるか、或は又蛤仔難・奇萊は金包里・雞籠等の祖先と長次房の關係を有するより、蛤仔難蕃は彼此の別なく金包里蕃に接應したるに非ざる無からんや。

棋立丹は蕃語之を「ヘミジタン」と呼ぶ。湯泉の義なり。其の祖先の出處は未だ詳ならざるも、各蕃は其の打馬烟等と同種族と稱せり。然れども該社蕃の分布年代を考ふるに、恐らくは打馬烟と同時に非ず。蓋し其の人口滋息の後に於て礁溪附近に分社せしもの丶如く、或は又打馬烟と同種なるも、其の分社にあらずして別に部落を擧げて是の地に移住し來れるもの丶如し。大抵土蕃の分布狀態は其の一同族中の一部が先づ其の棲止せし處に滋殖して各地に分住せしもの、其の二先住同族の消息を聞知して相踵き移住せしもの、其の三一部落若くは數部落を擧りて遷徙したるもの丶三種類を出でざるもの丶如し。而して棋立丹は實に湯泉の義を有し、其の社名を臺灣府志に留むるを以て、乾隆二十八年には既に立派に建社したるを徵すべく、少なくも百五十年乃至二百年以前より是の地に分布せるものなり。然り而して噶瑪蘭開治の當時に在りては人口約二百五十を有したりと云ふ。

抵馬葉は蕃語之を「ヘトバイヤッ」と呼ぶ。燒地の義なり。燒地も亦蓋し礁溪火山脈の痕跡に名づくるものに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して、乾隆中年代には抵馬悅と呼ばれ、是の處に分布せるを以て、棋立丹の同時の建社に係り、亦固より其の祖先を同ふするものなり。噶瑪蘭開治の時代には人口約三百を有したりと云ふ。

抵美簡は蕃語之を「ヘットウブカン」と稱ふ。浮地の義なり。是の社名も亦臺灣府志に見えたるを以て、遲くも乾隆二十八年前の建社たるを知るべし。但し抵美簡は打馬烟と同じく馬賽の海濱に漂著したりしが、尋て「ボハー」即ち西勢大溪に沿ひて「ヒフマシユ」社の南畔なる荒原に聚落を建て、其の後溪の北岸なる荒原に移れり。今の塭底及王通塭の地是れなり。是の時は恰も噶瑪蘭開治に際し戶數五六十、口數百四五十なりしと云ふ。

流々は蕃語の「ヘムラウラウ」より來れり。即ち細長の義にして、該社が西勢大溪の分流に沿ふて、聚落を今の七張・新興・同興等の南邊を經て、壯六庄の境に連り、東西に長く南北に狹き地界を爲すの謂なり。其の祖先の出處は未だ明かならざるも、亦南方の島嶼より來りて先づ新仔罕社を成し、次に流々を分社せしもの、如し。而して其の建社は蓋し乾隆の晩年に係り、嘉慶設官の時代には戶四五十、口百四五十を有する小社なりき。

新仔罕は蕃語之を「ヘシナハン」と呼ふ。乃ち人名を取り社に名つけたりと云ふ。蓋し祖先の名に非ざる無からんや。是の社も亦府志に其の名を載するを以て、无慮二百年以上を經たるものなるべく、其の祖先の出處は未だ確據を得ざるも、大抵打馬烟等と其の方位を同ふし、相前後して遷徙したるものにして、或は彼等よりも古く棲住せしやを想はしむ。即ち其の分布地界の海濱にあらずして、溪を溯り較や奥區に位せると、又「ヘムラウラウ」を分社せしむる迄に生口の滋息するには、許多の年代を經ざる可らざればなり。然り而して該社は古來相應の勢力を有せるものにして、現に噶瑪蘭設廳の當時に於て戶數約一百四五十、口數約五六百を有し、哆囉里遠・珍仔滿力と與に西勢の三大社と稱せられたりと云ふ。

奇武暖も亦小部落にあらず。開蘭當時は戶數約一百、口數約四百三四十を有し、打馬烟と比肩して新仔罕に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

亞く所の勢力ありしもの、如し。奇武暖なる蕃語は「ヘブルワン」にして、乃ち川の義に取れりと云ふ。蓋し西勢大溪の流域に分布するを以てなり。其の種族の關係は新仔罕と同一に屬するもの、如し。或は其の分社なるやの疑ひあるも、該蕃亦夙に奇之律の社名を乾隆二十八年の志乘に止むるを以て、遲くも百五六年乃至二百年前に獨立せる一社を成したるを推知す可し。然り而して奇武暖の名稱は後年に至り單に武暖を以て通用せり。

高東は武暖と系統を同ふす。初め頂社下社の如き關係を有せしも、噶瑪蘭開治の後之を一社と認め轄治したるもの、如し。該社は今の瓦瑤庄一帶に分布し、戶數二三十の小部落を成せり。

抵美抵美は蕃音の「ヘトウビトウビ」より來る。濁藤と稱する植物の義なりと云ふ。後世に於て抵美と單稱するも意義には異なるなく、地に該植物多きに因り社に名づけしなり、其の種族の關係は奇武暖奇蘭武蘭等と同じく南方の島嶼より遷せしもの、如く、其の年代は亦少なくも百五六十年乃至二百年前なるを推測すべく、即ち府志に淡水廳を距る四百餘里として抵美抵美社名を留めしなり。而して噶瑪蘭開治の時代には戶數約四十餘を有せりと云ふ。

踏々は蕃之を「ヘタブタブ」と稱ふ。無水地の謂ひなり。蓋し該社は淇武蘭溪を北に望み、奇武暖打那岸溪を西に望み、西勢大溪を南及東に望むも、其の流域圈內の中央に居り、自ら水に遠き位地に在り。其の建社年代は抵美抵美に同じく種族も亦相異ならず。府志は之を紀して城を距る四百餘里と爲せしを以て、往昔より抵美抵美と相竝びて此の處に分布せるものなるを徵す可し。而して噶瑪蘭廳開治の際は約五十餘の戶數を有せしなり。

奇蘭武蘭は蕃之を「ヒバヌラン」と稱ふ。其の意義は鳩なり。蓋し鳩の蕃殖多きを謂ふなり。該社も亦小部落に非ずして開蘭設官のとき人口五百を有したりと云ふ。其の祖先の出處は未詳なるも、踏々抵美・哆囉岸等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と種族を同ふし、又蕃の言によれば二百餘年前に於て既に此處に分布せしものなり。臺灣府志所載の奇班宇難社城を距る三百餘里云々は、或は該社を指すものに非ざる無からんや。

哆囉岸一名打那岸と譯す。蕃語の「ヘタラガン」にして鹿樹の義なりと云ふ。府志に打那軒社は城を距る三百餘里とせるは卽ち是なり。故に該社も亦約二百餘年前の舊社たるべきなり。然れども小部落にして開蘭當時は戸數三十內外にして人口は百餘なりきと云ふ。

馬鄰は蕃語之を「ヘマタリン」と呼ぶ。祭獻の義なりと云ふ。原と哆囉岸と一社なりしが、漸く頂社下社の關係を成し終に獨立せるものなり。

奇立板は蕃語之を「ヘムルブハン」と稱ふ。沙の義なり。其の口碑に曰ふ、祖先は約二百餘年前に南洋の島嶼より二隻の船に乘り、六七十名にて渡來せしが、乃ち此の處に上陸して社を建てたり云々。而して原地は紅頭嶼なりとの說あるも、是れ未だ信ず可らず。顧ふに打馬烟等と頗る移住の關係を異にするも、其の言語風俗を同ふする上より、殆ど同種族たるを信ずべく。蓋し打馬烟等が蛤仔難の安土に就きしを知り、乃ち跡を趁ひ遷徙せるものに非ざる無からんや。其の遷徙年代の如きは府志に奇立板社の名を留むるを以て、亦二百年前の建社たるを推測すべきなり。

蘇里目罕は後年に至り猫里霧罕と改譯せるものにして、或は「ヘムルブハン」社の蕃耆又は土目の名に取りたるものゝ如し。蓋し蘇里目罕は卽ち奇立板社蕃にして、前項述ぶる如く二隻の船に同乘し來つて此の處に分布せるものなればなり。但し奇立板を頂社と稱し、蘇里目罕は下社と稱したるなり。

抵美福は蕃語之を「ヘトウミホツ」と呼ぶ。鷄の名產の義なり。該社も亦抵美福と譯し、府志に揭げられたるを以て、百五六十年乃至二百年以前の建社たるを知るべく、且つ奇立板の海濱沙土に分布するに比すれば、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

較や奥區に居り、濁水溪に沿ふて耕地を有するを以て、寧ろ其の以前に建社せるを知るべく、其の出處及種に關しては、奇立板と大差異なかるべく、噶瑪蘭廳のときは戶百五十內外にして口五百を算し、民壯圍堡に於ける大社なりしと云ふ。

新仔羅罕は蕃稱「ヘシナホハン」にして渡船の義なり。該社も亦乾隆の府志に掲げあるを以て、其の年代に於て既に下渡頭の北方に分布せることを徵す可し。其出處及種族に就きては未だ確據を得ざるも、新仔罕及奇武暖社と最親近なる關係を有し、殊に新仔罕とは僅に一溪河を隔て、建社せるさへあり。

珍仔滿力は蕃音の「ヒバナガバッチ」より出て、漢譯されしものにして、公平の義なり。蓋し公平の文字を標榜するには何等かの歷史を有すべきも、未だ之を詳にせず。臺灣府志に屏仔猫力社の名を掲げ、淡水廳城を距る三百六十餘里とせり。願ふに百五六十年乃至二百年以前に建社したるは言ふまでもなく、或は蛤仔難最古の蕃社に非ざる無からんや。而して該社は吧咾吻・擺離等の社と與に總稱して「ビナバガアタン」と曰ひ、且つ其の主力とも觀るべき勢力を有し、開蘭當時は人口六百五六十あり、哆囉里遠・新仔罕と與に西勢二十社中の大社に位し、又擺離及吧咾吻と均しく青山に接近するを以て、叭哩沙喃の「アタイヤル」生蕃と貿易交際し、或は系統上の親族と爲るものあり。隨つて悍猛の性を加へ、漢人之を呼んで生蕃種の平埔蕃と稱するに至れりと云ふ。

擺離は後年に至り擺里の譯字を用ふ。蕃語は「ヒバリール」即ち織布の名產を意味せりと云ふ。「ヒバリール」が此の地に栖住したるは果して何年代なりしやは之を詳にせざるも、府志は屏仔猫力の次に擺里社の文字を揭げたり。則ち兩社は是の時代に於て均く已に建社せるものとす。而して前項述ぶるが如く「ヒナバガアタン」の稱呼を有する上より、又口碑の上より、擺離は珍仔滿力と同族にして乾隆修志以前に於て既に分社せる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものと測知せらる。

蘇荳鎭落は初め瑪立丁落と漢譯せしものにて、蕃音は「ヒマテンロッ」なり。低下地の義にして蓋し西勢大溪の北畔に在り。其の祖先の出處は未だ詳ならざるも、亦「ピナバガアタン」と同種族なるもの、如し。但乾隆の府志に未だ社名を掲げざるを以て、當時珍仔滿力若くは擺離社の中に在り。嘉慶開治の時に於て始めて一社を爲したるものなり。

奇武荖は蕃語之を「ヒポカオ」と呼ぶ。占尾螺の義なり。或は曰ふ「ヒポカオ」は該社祖先の名なりと。蓋し少なくも二百年以上の時代に蛤仔難の地に建社せるものにして、東勢の大社なり。當時加禮遠・掃笏と偕に東勢十六番社中に勢力を有し、戸數二百内外人口六七百なりきと云ふ。

里荖は蕃之を「ヒリザオ」と稱す。木の名卽ち臭青仔の義なり。是の蕃は他蕃社と大抵習俗を同ふするも、獨り言語は哆囉美遠社と一致せり。蓋し彼我其の祖先を同ふせざるまでも、其の原住郷里を同ふせるものなることを知る可し。開蘭當時は戸數三四十、口數百二三十を有せり。又社名に就ては後年に至り開蘭以前の里腦の字を用ゆるものあり。

打朗巷は或は打那岸の字を用ふるも非なり。蕃語は之を「ヘタヅオアン」と呼ぶ。婦人の名なりと云ふ。加禮遠等と種族を同ふし、開蘭當時は戸五十を有せり。又是の社は後年に至り改めて鎺橄社と譯せり。蓋し原譯の妥當ならざるに因ると云ふ。

珍珠美簡は蕃語の「ヘットヌリカン」にして、烏老珠の名なり。種族の關係は前に同じ。蓋し奇武荖・加禮遠・掃笏に亞ぐ所の大社にして、開蘭時代には七十乃至一百の戸數と二百乃至三百の口數ありしと云ふ。

武罕は蕃之を「ヘッポハン」と稱ふ。沙崙の義なり。小社にして開治の當時戸數三十に過ぎざりしと云ふ。其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の種族の關係等前社に同じ。

打蚋米は番語「ヘタラビ」にして婦人の名を取用せるものなり。開蘭當時は七十以上の戸數を有し、珍珠美簡と伯仲せる社運を持したりと傳ふ。

歪仔歪は番語之を「ヒヤワイ」と呼ぶ、籐の義なり。又古は「ヒナウサャン」の稱あり。最今は歪々の譯名をも用ふることと爲れり。蕃社の口碑に曰。我が祖先は各社同時に宜蘭に來り。夫々分布區域を定め、各處に住みたるものにして、其の以前の故郷は東と南との間の方角に在り。地名は祖父に聽きたりしが甚だムツカシき語音故終に忘れたりき。初め其の故郷より次の故郷に移住せる後、尙人口の増加に因り生活に困難を告たり。而して其の如何にして宜蘭に平原あるを知りしにや、舟にて「シナサャン」まで來れり。其の舟はた籐にて編み、社蕃各自に造り得るものなりしと云ふ。斯くて此處にて方角を失ひ、進むにも進まれず、歸るにも歸られず、姑らく此に居りたりしが、遂に宜蘭に來り、人口増殖し三十六社に分布するに至れり云々（以上の口碑は歪仔歪の番阿邊か口述する所なり）右の口碑は三十六社を將て一概に同族と看做したるも、「ヒヤワイ」の如きは寧ろ哆囉里遠と同一團のものに非ざる無からんや。現に人口の增加に因り生活に困難すと曰ふか如きは、他族の壓迫を意味するものにして、頗る哆囉里遠が逵奇里卽ち新城を去れる消息に似たるを見る可く、且つ熟番間に於ても歪仔歪が打馬烟、抵美簡等と其の祖を同ふせるを告ぐるものあり。而して該社は開治の初め戸二十五六、口七八十を有せりと云ふ。

吧咾吻は又芭荖鬱とも譯せり、蕃語は「ヘバラウ」にして湯泉の義なり。該社は打馬烟・抵馬葉等と同種族にして、曾て濁水溪上流の北畔（今の員山）に沿ふて珍仔滿力の西南に分布したりしが、由來該社が青山より山脚に住む「アタイヤル」生蕃との關係は、「ヒナバガアタン」に比し一層の密接を加へ、随て最猛悍なりしと傳へられ、又一說には該番も亦山地番の平地に移住せしものなりと傳ふるさへあり、且つ地が水利倶に宜しきを得たる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が爲め、夙に漢人の視線を集めたるもの、如く、終に其の反間に陷ち「ヒナバガアタン」と抵馬葉と隙あり、壓は械鬪し、又漢人の攻むる所となり、竟に員山を棄て浮洲堡の山脚卽ち今の分布地に移れり、蓋し此の遷移は嘉慶十五年の開治以前に係れり。故に噶瑪蘭廳志は該社を東勢卽ち溪南十六社の內に列したるなり、曩には該社の生口三百餘有りしが、是に至つて痛く毀敗を受け、存するもの什の二三に過ぎざりしと云ふ。

掃笏は番語の「ヘッサウッウ」にして、大喝して脚腿を打つの意なりと云ふ。其の種族は加禮遠・奇武老等に同じく、且つ兩社と偕に東勢の三大社と稱せらる。開蘭當時は戸數殆ど一百、人口五百を有せりと云ふ。

馬荖武烟は又貓里府烟の譯字あり。番語は之を「ヘブルヤン」と呼ぶ。籠の義なり。其の種族は掃笏等の社に同じ。開治の當時戸數六十を有せりと云ふ。後年に至り單に武淵社と改稱せり。

南搭吝は又馬魯烟と譯す。番語は之を「ヘッタリン」と呼ぶ。蓋し居を移すの義なり。而して該社は「ヘブルヤン」と其の系統を同ふし、且つ隣接して分布し、殆んど雜居の勢を成せり。開治の當時戸數三十五六有り。

加禮遠は番語の「ヘッカラヤワン」を譯せしものにて、占尾瑪老珠の義なりと云ふ。該社は東勢三大社（加禮遠、奇武老、掃笏の三社）の隨一に居るものにして、其の何年代に蛤仔難に捿住せしや未だ之を詳にせざるも、其の口碑は創世的番歌を傳ふるあり曰。

ハリシホン、チボクタ―バナカン、(風が地に落ちて)モガワラテ、ビノステシ、(活きたる人と變し)ソバワシ、(船を造り)ブスラルベー、(文字を書きたい)ヤバソス(漢人は)チスラヌ、(文字あり)マダバットワン(木板に書きあり)クワラン、(平埔蕃人)チスラヌ(文字あり)ヤダバットワン、(石板に書きあり)マチル(船は破れ)マイテスラヌ、(石板は沈みたり)ウヤテ、ユタテホ、(南に行き)ウイタ、イミス、(北へ行き)ウイタ、ワレイ、(東に行き)オイテ、ザヤ、(西に行き)ビノス、(繁榮せり)云々。

此の歌詞は蓋し「クブアラワン」種族が前住地に於ける創世時代を說き、故に漢人との關係及遷徙と其の遷

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

徒者の若干部分が此の地方に來り、蛤仔難各社形成の緒を開けることを述べたるもの、如し。是に由つて此を観れば加禮遠及同系統の各社番は、非律賓群島若くは南洋諸島の某地よりして一旦臺灣に來り、多くの年所を經たる後漢人の驅逐する所と爲り、舉社遷徙を行ひたるに風濤の爲めに船を破られ、此の地に漂着せしものに非ざる無からんや。而して又該社及同系統の蕃社に下文の如き意味の歌詞を傳ふるあり。是れ則ち該社が蛤仔難に於ける創始的と認むべきものなり曰。

我等の祖先は姉と弟との二人の男女にてありき。其の姉と弟とか來りしときは曠漠たる未開地にて人類を見ず、因つて己を得ず同胞が夫婦と爲り、始めて人口あり。斯く繁昌せしなり。我々は姓(漢人の如く)を有せざるも、斯の如く系統は一なるか故に、漫に混淆するを許さず云々(歪仔歪の番阿邊か陳述)

此の歌詞に藉つて之を観るときは、上文の如く此の地に漂着して加禮遠の祖と爲りしは同胞二人の男女にして、又打馬烟の祖先が馬賽の海濱に栖息したるが如き、殆ど之と同時なるを推定するを得べく、猶他を推し之と同一情形を以て各地に分布したることをも概想するを得べく、且つ歌詞の所謂南北東西に行き繁榮すと述べたる事實をも證するに足るべきなり。然り而して加禮遠は爾來漸次に生口の増殖するあり。頭圍街耆老の言によれば、加禮遠は溪北の海濱卽ち今の民壯圍堡の三碗厝・過嶺仔の地に其の一部を分布し、哆囉里遠に隣り亦強悍を稱せしが、嘉慶の初年漢人の侵擊に抗し、竟に駆逐せられて今の處に合せり。噶瑪蘭廳志も亦蕃社の項に加禮遠を以て廳の東に在りと載せ、婆羅辛仔宛以下四社(平埔蕃族實參看)を以て廳の東南に在りと記せり。顧ふに悉く今の處に在らんには廳志は四社と同じく東南と記すべきなり。則ち耆老の説の偶然ならざるを知る。又其の歌詞に異種族血統の混ずるを忌み、漢人に對抗するの意あるは是れ其の勢力ある大社たりしを證す可し。而して噶瑪蘭開治の當時は戸數二百餘、人口一千二三百を有し、且つ頗る裕なる生活を爲し居たりと云ふ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婆羅辛仔宛は番語之を「ヘブルシナワン」と稱す。竹の義なり。其の種族は加禮遠に同く且つ是れより分れしもの、如し。蓋し婆羅辛仔宛は臺灣府志所載の丁仔難なりとすれば、該社は遲くも乾隆年代には已に此處に建社せるものにて、噶瑪蘭廳開始當時の戶口等は略、珍珠美簡と同地位に居りしもの、如し。

奇澤簡は又其澤簡と譯し、後年に至り利澤簡と改譯せり。番語は「ヘデカナン」にして休息所の義なり。該社は開治以前には加禮遠と同社なりしが、開治の際分れて一社を建てたりと云ふ。

留々は番語之を「ヘムリウリウ」と稱す。祖先の名を以て番社に命じたりと云ふ。婆羅辛仔宛と其の系統を同ふし、乾隆晩年より嘉慶に至る間に建社せるもの、如し。蓋し婆羅辛仔宛より分れしものなり。噶瑪蘭廳志は時々流々の譯字を用ひたるも原より別社に系れり。

猴々田寮は蓋し猴々社番が寮を構へ田業に從事する所の謂ひなり。而して猴々は番語之を「ハウハウ」と稱す。蓋し祖先の名より來ると云ふ。該番は原と山地番にして平埔種族にあらず。故に噶瑪蘭廳志に曰、猴々一社は蘇澳の南風澳より東勢に移來す。其の語言風俗獨り衆と異り、各社と嫁娶往來せず云々。口碑の傳ふる所によれば、彼は同族（蓋し「アタイヤル」種族なり）と紛訌を生じ、百三四十年前に南方澳に遷徙し、更に利澤簡の海濱に出でて大埤の北畔に棲住せるものなり。然り而して其の開蘭の初めに於て之を平埔番族の東勢十六社に加ふるものは、顧ふに平埔に在つて多くの年所を經たるを以て、深く之が査核を爲さゞりしに因るのみ。

馬賽は猴々番の罟漁打獵の地なり。噶瑪蘭廳志に馬賽は原と淡水の流番に係ると載せ、新に三十六社に加へたり。然れども古來此の處には番社あるを聞かず。惟馬賽は番語の「バサイ」にして猴々社の屬地なりしに、流番が溪南に遷徙するに及んで淡水廳轄の蓬山番（大甲吞霄等）が此に來り開墾を爲せるものにして、蓋し噶瑪蘭廳は其の遷徙原因の彰化流番に異なるを以て、一旦之に與ふるに土著同一の保護を以てせるもの、如し。因りて從來の蛤仔難三十六社は茲に噶瑪蘭三十七社と稱すること、爲れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七十五と七十二

——和漢の對照——

葉鹿夢

我が德川時代に於ける、一世の高德澤庵和尚が、嘗て初瓜を贈られたるに對せし挨拶に「初瓜贈物、打置かず賞翫、七十五日の齡、先づ安堵仕候」といへる尺牘がある、是れは説明するまでもなく、「初物を食へば、七十五日を活き延びる」てふ、俚諺の筋を把捉して、諧謔を眞情の流露に加味した、好笑の詞藻であるが、さて此七十五日といふ、大體二箇月半に當れる日數に向ひ、古來日本にて、積極的に、將た消極的に、或る自然の時效を確認せんとする、民族慣習があるのも面白い、手近な他の一二の例を擧げて言ふなら、「人のウハサも七十五日」といひ、「紺屋のアサッテ七十五日」といふ類、取りも直さず是れである、孰れは暦日觀念發生の以後に於ける因習たるに相違なきこと勿論だらうが、其出發の根據を探ぐるに、甚だ以て明瞭を缺きつゝある、併し乍ら、之を過去の歷史に見るに、筆傳の初期も、餘程悠久を告げつゝあつて、鎌倉時代の頃に溯ることが出來る、夫れは建保三年の八月二十一日巳の刻(午前十時)に、鷺が鎌倉御所の西侍の上に群れ集ひ、次で未の刻(午後二時)に、地震がした出來事はあつた、鷺の群れと地震の現象と、そ

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こに何の依從があるか判らぬが、當時幕府も漸くに衰老の期に近づき、彼れ此れ迷信に囚はるゝ傾きの頻々たりし頃の事とて、軈て件の地震鷲の怪事に就きて、御占ひを行はれたところ、果して重大なる變事がある前兆であるといふ啓示を得た、そこで、早速將軍家は、御所を立ち退かれて、北條相州の私亭に避くることゝなつた、斯くて丁度七十五日を經過せし、同年十一月八日といふに、最早禍根も消滅に歸したであらうといふ詮議で、御所に還御の儀あり、夫れ夫れの御引出物、竝に供奉の人々に贈物などがあつたと、傳へらるゝ一事例に徵證すべきで、要するに、啻に人のウハサばかりでなく、神や佛の冥罰も、亦七十五日を時效とするとの信念の顯はれかと想はれる。

飜て支那の漢民に一顧すれば、七十二といふ、不思議な數の慣用がある、最も古るいところでは、彼の泰山に封じ、梁父に禪する者、七十二家といへるを初めとし、聖人孔子の弟子三千、中に就き、身の六藝に通ずる者七十二人、又齊の威王因齊が、諸縣の令長を朝せしむる、七十二人であつたと傳へらるゝ類、其著るしき事例であつて、由來何かの信念に、基調を置ける、此數に因み、故らに史實を以て、附會せしめんと試みられしものらしくも假定される、漢の高祖が、左股に七十二の黑子があつたといふ如きは、更に斯種の數的因緣を、相徵の上にまで及ぼさんとせしに幾く、知らず、七十二の數、其原義に於て何の意味する所かある、兎に角に、此等のすべては、民族關係の數と時との特殊發達といふ問題に、結局引き付けらるべき點に、多大の感興があるであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雑録

印度支那の諸種族（上）

臺灣總督府囑託　高橋惇

茲に云ふ印度支那とは佛領印度支那を謂ふのである。其住民は多種多樣にして一見孰れが孰れと判別し兼ねる程で、これは諸種族間の交渉が夙から行はれてゐて其血は混交錯雜せられたので種族的區別が判然せぬやうに至つたものである。

印度支那の諸種族中重きを爲すは、安南人、柬埔寨人、タイ人の三大族にして、就中前二者は海岸又は河川附近に占居してゐる。換言すれば、紅河、メコン河、其他支那海に流入する諸河川の肥沃なる沿岸盆地に群棲してゐる。今其大體の分布地を示さう。

一、安南人―東京紅河三稜洲、安南海岸並に交趾支那メコン河三稜洲の低地々方に播布し印度支那總人口の約五分の四を占めてゐる。

二、柬埔寨人―古代クメール族の末にしてメコン河上流三稜洲地方より大湖附近に散分してゐる。

三、タイ人―紅河及びメコン河上流地域、即ち高地東京と老撾とに棲住してゐる。

尙ほ人口の點よりしては近來の移住民たる支那人だに遠く及ばぬが、歷史上の見地より重大の意義を有するチャム族を第四位に置く可きであらう。此種族は現今南部安南と柬埔寨の一部分に僅かに餘喘を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

保ちつゝあるに過ぎない。更に先住土著族と見做さるゝモイ族又はカー族も看過し難く、人種學的に價値尠なからざる種族である。

タイ、又はモイ、カーの如き土著種族は現在の優秀種族の爲めに奥地に驅逐せられ、定住地となれる地域の先住土蕃と混血し、更らに支那、安南又は暹羅より追はれ來つた異人種と混交して新種族を出現せしめた。卽ち東京北部に於ては老撾人より脱化せる種族を見、カオバン附近にてはトー族、紅河を限る山嶽地に於ては蒙族と稱し、此等二種族が更に支那人と混じてフンダン族、蠻族、ミエン族となつた。

印度支那中央部又は南部に於てはフォン、タイ、スウイ、バーナン、ボロヴエン、スチエン、モール、クオン等の諸族を散見するも、要するに孰れも馬來系に屬するものが印度支那の各種族と混血して出來た雜種族たるに過ぎない。

次に老撾地方から東京奥地に棲住する種族も亦雜多なるが、大體に於てタイ族、多數の土族を包括するカー族、支那人種の分族たる苗族、猺族、玀々族等に區分し得るのである。

前記諸種族を區分すると大體左記の如くなる。

一、安南人
二、タイ人
三、東埔寨人
四、インドネシヤ系―カー、モイ、ブノン等
五、馬來系―チャム、フォンタイ、スウイ、バーナン、ボロヴエン等
六、玀々族系

最後に此等諸種族の人口を掲示して置かう。

安南人	一二、六〇〇、〇〇〇
東埔寨人	一、五〇〇、〇〇〇
タイ人	一、二〇〇、〇〇〇
未開蕃人	五〇〇、〇〇〇
支那人	三五〇、〇〇〇
チャム人	一〇〇、〇〇〇
印度人	一、〇〇〇
合計	一六、二五一、〇〇〇

次に通俗を專ら旨として極めて概括的に各諸族の特質に就て說明して見やう。

安南人

起元と體質 現在行はれてゐる學說に隨へば、安

南人は西藏と雲南の國境附近を發祥地とせるもので、印度支那へ移住し來つた徑路には二方面あるらしい。一部は徐々に高地老撾及び南京を經て東方へ進出したのであるが、其移住の途すがら先住せる諸蠻族と混血し、東京デルタへ出づる頃は現在見るが如き安南人となつてゐたらしい。又他の一部は雲南を横斷して廣西界へ出で更に東京へ進出したらしいのであるが、之れ亦途中諸蠻族の血を交へて居つたことは勿論である。此兩移住安南人が端しなくも紅河附近に於て再び一團となつて其處を永住地と定めたのであつた。此民族移動は一時的に行はれたのではなくて徐々と行はれ、其間實に數百年を閲みしたことであらうと思はれる。又移動の時代も隨分古く、傳説に據れば、支那の三皇五帝時分には既に安南人の遠祖が支那本土に於て相應の勢力を有してゐたかのやうに傳へられてゐるから、其移動は周代の前後に於て行はれたものと見られるのである。其後安南人は一方現在の安南の一部に其王國を建設して居つたチャム族に對して、又は他方には北境を絶へず脅威せる支那人に對し數百年間抗爭を持續し、幾多凄愴慘憺たる爭鬪を繰返して居つたが、遂にチャム人を征服して其領土を併合した。けれ共其半面に於ては一千年以上に亙り幾度獨立を圖れるにも拘らず、遂に支那の桎梏の下に屈服せざる得なかつた。其南下は單にチャム族征服が目的たるのみならず、一方支那の覊絆を遠く逃るゝ意圖も動機となつたことは勿論であつて、更に一意南下の方針を採つてメコン三稜洲に出で交趾支那をも其勢力圏内に入れて了つた。

前にも述べた通り安南人は幾多異種族の間に介在し、之れと爭鬪し、且つ混血せるに拘らず、他種族とは人種的差別の顯著なるものがある。彼等は專ら安南及び東京交趾支那の兩三稜洲に分布棲住し、高原地方には彼等の姿を見る事僅少である。由來高原地方は飲料水惡く、熱疫に犯され易しとして之れを惧れること甚しいのである。萬止むを得ざる場合には一時假住ひを爲すも永住することはない。

安南人は勿論黄色人種に屬するのであるが、其皮膚の色合は古色を帶ぶる象牙色から始つて鈍暗色に至るまで社會的階級、職業又は地方等の如何に因り其間幾多の相違がある。殊に安南海岸及び交趾支那三稜洲に於ける低地に在る者は幾分馬來系を引ける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

チャム人との混血に因り、若しくは單に海氣の作用に基く燬熱に因り其皮膚は往々殆どチョコレート色に近い暗褐色を呈してゐる。

身長は概して支那人に比し短矮ではあるが、躰軀強健、筋肉も良く發達してゐる。けれ共孰れかと云へば一見柔和の感を與へ、且つ表情に豐かな趣がある。眼瞳は突出し、鼻は扁平にして口脣は稍や厚いが、決して印度人に見るが如き肥大にはなつて居らぬ。口顎頗る發達し、齒並も割合に美しい。毛髮は皆一様に漆黑にして其量多く、長髮粗毛である。容貌は狡黠譎詐の相を顯はしてゐる、髭髯稀有にして發生遲々、假令發毛を見るも伸長せぬ。蓄髯の者あるも概して疎髯の方である。四肢は典雅な趣をそなへ、歩行は確乎にして敏速活潑で、爾かも軟歩する際の如きは俗も猫に類するものがある。

●風俗　安南人の生活様式は極めて簡粗にして、米飯と魚肉を主要食と爲し、住宅の如きも田舍の農民は殆ど竹の柱に茅の屋根式の至極手輕なものである。然し市街地に於ては瓦葺にて煉瓦造の構造のもの多く、現今歐風建築が盛んに行はれ、安南固有のものは特殊建築物でなければ見られない。尤も夫れとても南方支那建築と大差ないものである。地方農民は概して棕櫚又は水椰子の葉を以つて屋根を葺き周圍を板圍ひ又は前記植物の葉を以つて圍ふに過ぎない單純な小屋懸けで、濕地に於ては地上に打込める杙を基礎として其上に建造してゐる。

村落に於ける稍や富裕なる農家の住宅の模様を大體述べて見やう。先づ宅地の四圍を外部より透視出來ぬやうに密植せしめた竹林又は生籬にて圍ひ、其入口を入るも決して住宅に直通せず、必ず外圍の植込と内側の植込の間を縫ふて迂回曲折せる小徑を辿りて漸く第二の門、（實はこれが實際の門である）を潜つて住宅に出るのである。

被服とても簡單にして、庶民階級にては褐色に染めたる木綿にて製せる「ケ・アオ」と稱する上表と「ケ・クワン」と云ふ緩袴（太きズボンに類す）を着け、男女共赤、紫、綠等の色せる兵兒帶様のものを前結びと爲して其兩端を長く垂すのであるが、此帶は彼等には至極重寶なるもので、或は手拭となり、或は財布となるのである。男子の上衣は胸の中央にて開き釦止めとなつてゐるが、女子の夫れは右肩より垂直に金屬製のホック様のものにて止め、或は我が國の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衿織の様に前開きにしてはおるのもあるが後者は概して下層社會に多く行はれてゐる。此場合には必ず胸掛のやうに頸にて紐結びとせる「ケ・イエム」と稱する白木綿製の肌着を着けるのである。尤も上中層の社會にあつては絹布を纏ひ就中女子の服裝には目も醒る程の華美なるものも見受けられる。尙ほ此階級の男子は大概白の下着の上に身分に應じて布帛の別はあるが、黑の上衣に白の袴を着けるのを通則と爲してゐる。

男子は斷髮してゐるが、女子は長髮を頭上に渦型に束ね、黑布又は褐色の布にて鉢卷樣に外側の束髮を包み、外出の際は笠を逆しまにせる形の大笠を被るのであるが、其笠紐と笠の內側の裝飾とに據つて身分の判別が出來る位ゐ、餘裕あるものは夫れに頗る凝つたものを用ひてゐるのである。斯う云ふ風で女子の服裝は一見我が奈良朝時代の服裝を聯想せしむるものがある。女子は概して姿勢良く、長く垂れた笠紐と上衣の裾を軟い風になびかせて纖細な手を緩く振りつゝ街行く姿は仲々趣深いものがある。男子も亦黑布を環狀に纒める「ケ・カン」を頂いてゐる。勞働階級は男女共裸足にて往來してゐるが、其他のものは鼻緒はなく幅廣のつゝかけ緒のみある木製下駄（我が女兒の用ふる木履の如く刳り拔けるもの）又は「ケ・ジャイ」と云ふ一種の革製スリッパを用ひてゐる。

安南人にも一般に檳榔子を嚙む風があつて、我が南部臺灣の本島人や南方支那人と選ぶ所はない。

安南人は男子二十歲、女子十八歲に至れば結婚するの習俗を有すが、幼兒の中に許嫁の約を爲す場合も尠くなく、其爲めに結婚後に於て種々の破綻を生じ易く、往々別居生活を爲す者も稀れではない。普通結婚の際に於ても子女の婚期愈々近けば雙方の兩親が當人の意志を詢ることなく、獨斷にて取り極め、各祖先へ奉告したる後婚約を取り極めるのを常則とする。愈々婚約が決まれば、婿たる可き男は婚約の贈品として寶玉、織物、漆匣、蠟燭、檳榔子、米酒、肥大なる豚等を一種の賠償品の意味で外家の舅姑に提供するのであるが、婿が貧困の爲めに其力がなければ、外家に入りて或期間勞働に從事して其代償となすのである。

結婚式當日は福祥の徵色たる赤色を以て塗染又は裝飾せる魚菜類を外家へ贈るを通側としてゐる。而

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して、新郎新婦の兩家では當日夫々祖先に對して幟帷を供し新郎は新婦に對して一番の鵲を誠實の表象として贈り、新夫婦は打ち揃ふて結婚の守神とされてゐる嫦娥と織女星とに鵲を供へて其將來の幸福を祈念禮拜し、次で新郎は新婦の祖先の靈位に參拜し、最後に披露の祝宴を催ふすのである。翌日新婦は美裝して始めて新郎の家に伴はれ、結婚の守神、夫家の祖先を禮拜し、新郎の兩親、親戚に挨拶の禮を爲すのである。新婦が一旦新郎の家に入るや既に其家族の一員と成つたのであるから、必ず夫家の信奉する宗敎を信ぜねばならぬことは言ふまでもない。

安南土民の慣習は殆ど支那よりの輸入または模倣なれば、安南婦人の地位は支那婦人の地位に類似してゐるは勿論である。隨つて東埔寨の婦人の如く地位高く婦權を享有することはないが、一家の主婦となり、母となる時は概して世人もそれに對して相等の尊敬を拂ひ、其位置を認むに至るもので、隨つて商家等に於ては却つて夫よりも信用を有する場合が稀れではない。殊に近來安南婦人の位置が向上しつゝあるは顯著なる傾向である。

富裕なる社會にありては一夫多妻にして、妻は假令儀をつくして結婚式を擧げても、一般に主婦としての空位を擁するに過ぎぬ傾向が未だに失はれてゐない、これなどは純然たる支那の多妻婚が現存してゐることを物語るものである。けれ共、加特力敎會員の家庭に於ては嚴重に一夫一婦主義が墨守されてゐる。夫は結婚後容易に其妻を離婚し得るの權利を有し、殊に支那固有の七去の箇條を嚴守するの風があるが就中不姙、多辯、嫉妬の三疾を以つて最と爲してゐる。然るに一方妻にありては離婚請求の權利は殆ど與へられてゐないと云ふ風で、支那の慣習を其儘踏襲してゐるの狀態である。

安南人は元來が農耕種族なるを以つて如何なる磽确の地であつても、必ず犁鋤を加へて之れを開墾するの特徴を有してゐる。加之安南に於ては海岸線延長して居る地理的事情ある爲め土人は自ら海洋生活に向ひ、東京、交趾支那には河川縱橫し沼湖尠なからざる故、頗る漁業にも長じてゐる。彼等は又手工藝に巧みにして彫刻、象眼、刺繡等に特殊の技能を有してゐる。然るに一般に商賈の業を厭ひ、小商は之れを婦女子に委ね、大規模のものは支那人に利權を與へて省みぬ風がある。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●宗教● 安南人は諸々の宗教、就中殊に儒教、佛教、道教を信奉し、基督教は多年印度支那に於て布教せられたるにも拘らず、僅かの信者を庶民の間に得たるに過ぎぬ故、其勢力に於ては甚だ微弱にして言ふに足るものがない。

一千年來支那の勢力に因り扶植せられたる儒教は國教の位置を占め、安南王を始め、學者、官吏の如き上層階級に於ては之れを堂廟に於て祀るのであるが、庶民階級に於ては寧ろ各戶の登壇に於て祀り、一種の祖先崇拜に變形して了つてゐる。尙ほ荒神地祇の類をも併祀し、其上鎭守をも崇むる風がある。此等宗教上の形式は或は儒教に準じ、或は外國宗教の感化の跡を示してはゐるが、鎭守尊崇の風は各村落に祀らるゝ土語にて「チーン」と稱する土神の尊崇を殊に認めることが出來る。

佛教も多少行はれてゐるが、其教儀の如きは柬埔寨、殊に老撾の佛教に比較する時は頗る低級淺薄に墮し、純粹佛教の俤は殆ど失はれてゐる有樣で、多くは儒教又は道教と混淆してゐるのが多い。現在土民の間に行はれてゐる道教は支那の現況と大差なく、墓地選定、惡疾驅逐等の場合に祈念せらるゝ邪教的色彩を有してゐる。

家庭に於て祭祀を取り行ふ場合には必ず老年者を尊敬し、且つ之れに對し鄭重なる款待を爲すの美風がある。啻に普通の家庭が一般行路者を款待するに止まらず、「チーン」神の祠堂は常に旅行者の避難所又は旅宿となるのを常とする。

安南人の宗教は前者の如く祖先崇拜が殆ど家庭宗教の根本にして死亡者は葬儀を經て祖先の列に加はり得るを以て、宗教的儀式としては葬禮を第一義と爲し、其儀禮は頗る復雜を極め、死亡者に對し相應の葬儀を行はざる時は死後の冥福を得ずと信ぜられてゐるのである。

瀕死の者愈々臨終となれば、直ちに白絹を病者の胸部に置き、最期の呼吸の後、肉體を脫離せる靈魂を之れに包む模倣を爲すのであるが、之れを白靈と稱してゐる。僧侶は佛前に線香を燻じつゝ通夜を爲し、戶外に銅貨を散布して之れに惡鬼を集めて戶內に入れぬ用心を爲すのである。入棺の前に先づ淨閼伽にて屍體を淨拭し、死者の男子又は男孫の手にて更衣せしめ、更に最後の食事と稱して長男が死者の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

口中に白米數粒と一片の硬貨とを挿入したる後、華麗に裝飾せる棺に收め、次で巫術者は六道の辻の通行劵を死者に交附するのである。斯くて入棺前の諸式が濟みたる後始めて埋葬日が決定せらるゝのを通例とする。

葬送日には棺に呪符を貼付し、家族は所定の寸法に裁ち故意に所々を引き裂いた白衣を纒ひて哀痛の意を表はすのである。棺は金色と赤色とにて塗飾したる木製の塔形の大柩に納める。葬列の序次は本島にて行はれる夫れと大差なく、先づ第一に魂魄を東導する意味にて燈火先頭に立ち、次で夫々形狀色彩を異にせる流幟旛幡續き、其後に金銀紙にて模造せる各種の物品を携へたる者隨ひ、行く〳〵之れを散布して他の冥魂の追從をふせぐのである。次に靈牌輿緩かに行き、其前後に伶人が哀樂を奏しつゝ進み、之れに續きて生前死者の愛好せる物品の紙製雛型、着衣、器具等竝び、最後に靈柩行き、柩の前後には長男を先頭にして男子及び女婿徒歩にて扈從し、所謂泣き女を先きに立て家族と知人は孰れも白衣を纒ふて其後に從ふのである。齋場に於て式を終れば導師白靈に向ひて埋葬する旨を三回告げて地中に埋めるのである。白靈は再び行列を爲して位牌と共に携へ歸り、後者は祖先の靈位を祀れる牌壇に安置する。葬儀後十五日乃至一年を經て嗣子は會葬者を招待して法宴を催すのである。

尙ほ注意すべきは家婦にして其家の舅姑を見送れる者は夫より離婚の要求あるも、之れを拒絶するの權利を有するに至ることである。

東埔寨人

起元と體質　現在の東埔寨族は往古のクメール族の後裔にして爾かも其退化せるものである。元來クメール族の發祥起元に就ては學者間に異說があるが、要するに現今の暹羅北方に當るシャンステートから北部緬甸方面に蟠居せる白晳の血を交へた印度族であつたらしい。歷山大王の印度侵入に因る民族の大移動に影響せられて東漸し來れるものらしく、而かも其東漸の途次馬來系の種族をも倂せて之れと混血しつゝ東埔寨の地に侵入して遂に王覇を稱ふるに至つたのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

而して其柬埔寨侵入は果して何時頃行はれたか。馬來系のチャム族が印度に移住し來れるは恐らく西曆紀元初頭の頃なるべく、クメール人は其後に於て擡頭して王業を定め、現在の柬埔寨より交趾支那の西部地方、更に北方に於ては老撾の一部分までも其版圖として威勢を震ひ、所謂燦然たるクメール文明を起したのであつた。

往昔クメール文明の如何に偉大であつたかと云ふことは、現存せるアンコール・ワット、アンコール・トム、バイヨン、メトボン、プラカーン等の宏壯雄大なる石造建築物に名殘を留めてゐる。又其廢趾中に櫛風沐雨幾百年僅かに剝脫崩壞を免れたる石彫の藝術品に就ても察することが出來る。然しこのクメールの王業も不幸タイ人の入寇を受けて衰滅し、アンコールは優勝種族の爲めに蹂躙破壞の厄を蒙つて遂に荒廢に歸して了つたのであつた。其間數百年に亙り柬埔寨人は絕へずタイ人、安南人等の近接諸種族の襲擊を受け、一日として不安の狀態を脫せず、隨つて遂に佛國干涉の結果、其保護下に隷屬するに至つたが、其當時までも其首都は幾度となく所々に遷された。

柬埔寨人は現在の柬埔寨全土に散布してゐるのであるが其人口密度は極めて稀薄にして、僅かに一平方基米突當り十人たるに過ぎぬ。然し交趾支那西部地方の附近に多少稠密してゐる。

體格上より謂ふ時は柬埔寨人は前記の如く白皙印度系と馬來系との二重原系の面影を傳へ確然たる二重體型を併有してゐる。一は長軀にして鼻梁隆準、他は體軀短大にして稍や低鼻である、斯く兩者の間には多少の相異點があるが又一面に於ては共通特質を有してゐる。膚色は幾多の混血を經たるを以つて變化して昔日の面影はなく、黃色人種と印度有色人種との中間に在るのである。眼は濃厚なる眉毛の爲めに稍や釣上がり、幾分斜視の傾向が見へる。齒牙は天性美麗ではあるが、涅齒の風が行はれ、頭髮は漆黑にして豐富且つ密生し、男女共短く斷髮してゐる。姿體は寧ろ華奢にして體質は優れて頑健と云ふ方ではない。肩は角張り、兩脚は眞直、足は短少で拇指特に開き步調堅實にして稍や典雅の趣がある。

●●風俗　男子は短袴を穿ち胸部に於て釦締めの裝置ある胴衣を著、婦女は長き袴を著け、軀幹は勿論手

頸までも包める上衣は僅かに頸部に於て開くだけである。此等服装の代用としてサンポートと稱する腰及び大腿部を掩ふ腰卷を纏ふのである。其際には胸部に鮮かなる色彩ある廣き布を捲きつけるのであるが、背と腕とは露出せしめて置く。富裕なる者は金飾せる絹製の帶を用ひる。

東埔寨の家屋建造は市街地以外に於ては簡單なる茅屋にして老撾の夫れを聯想せしむるものがある。元來大湖附近は勿論河川沿岸一帶の地は雨期に至れば一面に氾濫して沼澤の地と化し易きを以て家屋建造の際は一般に床を高くするの風がある。且つ又夏日の炎熱甚しく日光强烈なる爲め、檐を深くして光線の射入を避けてゐる。彼等は日常必要とする丈けの食料を得る事容易にして、魚類は到處に豐富なるのみならず、漁撈亦極めて容易である。加之毎年大湖河川氾濫する爲め土地肥沃にして隨つて耕作物豐饒、稻の野生を見る程であるから自然自發的活動を爲さゞる傾向がある。

東埔寨人の家庭生活は迷信的色彩濃厚にして、小兒生るゝや六箇月目に迷信上の假名を附し、斷髮式を終りて後始めて命名し、男童は此時期より結婚期までサラと稱する青年合宿所に宿泊し、女子は妙齡期に至るまで兩親の膝下に起居し、此間「インドラ神の寵鳥」と稱して世人の敬愛の的と成るのである。

結婚期は普通男女共十六歳前後にして、近親間の結婚は嚴禁してゐる。多くは男子から檳榔子、アレカ、檳榔膏、米酒、煙草等の結納品を新婦の家へ納れて始めて婚約が成立し、其後は男子は婿として行動するの風がある。許家の兩人をば世間側にては實際に結婚せる者と見做すのである。結婚式を擧ぐる場合は新郎側に於て多大の出費を負擔せねばならぬので、多くの場合婚姻の式を擧行せずに其儘結婚生活を續けて行くのである。

宗教　クメール族が東漸し來れる當初は廣義の印度教を奉じてゐたことは其遺趾に殘存せる彫刻物に就て認められ、リンガ、ヨーニの類が累々として路傍に、または遺跡地の祠裡に發見せらるる位ゐである。然るに其後十二世紀の頃澎湃として殺倒せるタイ族は其侵入と共に佛教を齎したのであつたが、東埔寨人は忽ち之れに歸依し熱心なる信仰を捧ぐるに至つた。要するに平和を唱導し忍從を敎ふる敎儀は當時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意氣阻喪せる彼等の人心に驚く可き程適合せる爲めであつた。而かも渡來佛教は南方派、即ち錫蘭佛教であつたので、教僧は貧窮に甘んじ、住むに茅屋食ふに一握の米飯を以つて滿足したるのみならず、其教旨は心靈の平和と社會的安寧とを保證した。

一度佛教の渡來を見るや從來行はれてゐた婆羅門教の勢力は忽ち前者の爲め壓倒する所となつて、殆ど其跡を絕つに至つた。

柬埔寨人は一方厚く佛教に歸依するにも拘らず、又他面に於ては一般に邪神淫祠を祀るの風がある。即ち古樹の精「ナクタ」神、家庭の守護神「アラック」神を崇め、惡神「ブライ」や產死せる婦人の靈を怖るる事甚しい。加之チャム族、暹羅族、安南人と同樣に占星を重視して吉凶の日を卜し、鳥聲を聞きて運命を判じ、吉祥の瑞徵として白象を珍重し、當然之れを國王の所有と爲す風習がある。

死者ある場合は普通佛式に據り火葬に附するも、稀れには供養の爲めに屍體を曠野に曝露して鳥類の啄食に委するの蕃風も行はれるのである。（未完）

大正十二年版
臺灣事情
發賣所
新高堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

生蕃行脚（一）

丙牛生

序説

臺灣の過去は生蕃の郷土であつた。平地にも山の手にも等しく彼等祖先の、或は狩り或は耕した地があつた。吾々日本人は久しく鎖國主義の下にあつたが爲に、異邦の土地を開拓し、異民族と接觸するなどの機會は極めて乏しかつた。明治維新の頃、北海道や千島の問題からアイヌ人に接したが、恐らくは近代に於てはこれが未開民族を扱つた始めかも知れない。アイヌはアゝした溫柔退讓な民であるが、而かも夫れが官僚の手に依つて治められたのでなく、東北地方より移住したる勇敢なる民衆、主として事業家の該方面開拓に伴れ、無爲のうちに彼等アイヌ人を追ひ込め、或は化して今日の如くならしめたものである。其最初に於ては、この厄介な未開人と云ふて居たものが、現今此種族の衰亡の傾向を見て、アイヌ保護などを道ふに至つた。此アイヌに對する研究も皆な熱心な外國人に依りて大成され、殊に人類學的調査のものは、立派なものが、英、露、佛の各國の文字で記載されて居るに、日本人の學者で邦文で記された權威ある記錄を出して居らない。僅に金田一文學士のアイヌ語研究あると、鳥居博士の坪井説を駁したるアイヌ説と、坪井博士に依りて唱はれたるコロボックルなる挿話的の説明とがある位に過ぎなからう。

啻に北海道の例のみでない。私は日本人が我日本の領土内に於ける民族の研究さへ、從來等閑にされて居たのが不思議で堪らなかつた。科學の發達の西洋に後れたる日本としては無理も無いが、實の處日本人夫れ自身の人種學的研究にしても、矢張りベルツ博士など他國人に依りて爲された位であるから若し臺灣蕃人の研究にしても、吾々日本人が相變らず手を染めなければ、屹度機敏な外國學者が來て立處にこれを調べて發表するであらう。臺灣には幸か不幸か他に比較して歐米人の宣敎師の入り込み方が甚だ少なかつた。此種の研究が等閑になつて居つたのも是等の事情が與つて居るであらう。

せめて臺灣の蕃族でも日本人の手に依りて研究

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

し、學界に於ける日本學者の名譽を維持したい。これは生意氣なやうではあるが、日清戰役で臺灣が我領土に割讓され、其土地に未開の生蕃が棲んで居ると聞いた際の私の直覺であつた。

其後に於て坪井正五郎博士の主張が容れられ。地形民俗の未だ變化少き此際に於て、新領土の所有學術的問題に對し愼重なる研究を爲し置く必要があるとのことを認められ、これが經費の支出に就て議會の協賛を經、之に依り明治二十九年より數年間、東京帝國大學から專門の學者を本島に派遣することゝなつた。人類學方面は其頃敎室助手であつた鳥居龍藏氏が擔任された。私はこの仕事に對し非常の懽びを以て共鳴させられた。

二十九年に鳥居さんは東海岸地方を調べ、三十年には恒春蕃地を三十一年に紅頭嶼を、三十二年には枋寮以北の山地から中央山脈に沿ひ北上して埔里社に至り、更に八通關を越えて東海岸に出で、宜蘭を經て臺北に歸つた。此時の旅行が最も大旅行で、鳥居さんの蕃族研究上、基礎的知識を得たものであらう。私は二十九年の際も東海岸で、其次ぎの時も恒春でお會ひしたが、此第四回目の探檢には、私が嚮導の位置に立ちて共に旅行することになつた。第一回の節は單獨であつたが、第二回の際は鹽田氏と云ふ青年彫刻家を、第三回の時は中島氏、これは同郷の人類學的研究家を伴はれたが、此中島氏は不幸紅頭嶼で不慮の厄に客死せられた。第四回の際は私が進んで鳥居さんの忠實なる助手となり、地理の嚮導から土語蕃語の通譯、調査補助までやることゝなつた。これは一には自分として實地學問の指導を受ける爲であり、次にはこの犧牲的奉仕に依つて此探檢に大なる收穫を齎らし、聊かなりとも學術進歩の爲に貢献したいとの希望と、實は出來得る限り鳥居さんの仕事の完成に助力を捧げたいとの念慮から出でたものである。大學に於ける最初の計畫は、これ迄の例に依り約三月の豫定であつたが、更に三月を延期し、夫れが遂に歸京まで約一年に亙つたことも、畢竟私との關係が事こゝに至らしめた主たる原因であつた。

私は明治二十八年の秋から生蕃に接したが、自ら蕃地に入つて直接これに接したのは、二十九年一月大嵙崁蕃地行が最初であつた。其後臺東地方に、恒春・阿緱の蕃地に、中央山脈の横斷に、阿里山・東

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勢角の蕃地に、新竹・宜蘭の蕃地に、尚ほ東海岸一帶の中央山系を縦斷旅行し、更に西海岸を北上して阿里山に出て、其頃まで殆ど寧日ないまで蕃地踏査に從つたが、科學的に完全なシステムを以て具體的に蕃族調査にかゝつたのは此時を以て嚆矢とする。私は過去を語ることを餘りに好まないが、而し私のこの旅行當時からすると、約二十五星霜を經過して居る。其思ふた處の仕事の成否は別として、瓦全して今に尚ほ健在し、依然この事に從ひつゝあるのを衷心から快しとするものである。當時のことを今日に比せば、多少時代變遷の跡を考へ得べき資料ともならうと思ひ、過ぎし二昔半前の勇敢なる二少年に依つて行はれた生蕃國巡禮の、彌次喜多的の行脚の樣を、古い記憶を辿りながら記しませう。

基隆から高雄へ

雨のそぼ降る基隆の港。大沙灣の先に燻されたやうな洋館建物がある。これが臺灣總督府の基隆稅關だ。これは建物こそ貧弱であるが、支那政府時代の海關の遺跡であり、基隆攻略後第一番に臺灣總督府が置かれた處である。附近の海岸にはグツタベルチャ樹の護謨の巨木や、モンパノ木パンダナスなど茂れる濱邊には、軍配ヒルカホ、ハマボー等の海岸植物が地を掩ふて居る。汀の中には紅樹林が點々してヒルキの果莢が面白く木に面して下つて居る。名も知らぬ海鳥が數知れず飛び交はして居る。遙かに眺むる小基隆から大基隆の方は。雨と煤煙でどんよりして、支那式の戎克の旗が風に飜る下には、銅鑼や太鼓に鐘の聲、つゞいて轟く爆竹、これは大型のもので恰も小砲のやうな爆音がする。多分船子がお祭りをして居るのであらう。向ひの陸軍運輸部に往復の兵隊さんが參々伍々に通り過ぐ。物賣りの聲、コトン／＼と云ふ豆太鼓、これは吳服太物行商。法螺貝のうなり、これは肉賣りだ。汀に客待つ船頭が彈ずる胡弓の音など、雨にこめられ陰に聞こえる。

こゝは稅關横の官舍、高木隆次君の部屋だ。君と同郷の友なる鳥居さんは、四度目の渡臺に先づ此處に笈を卸した。臺北に行つて總督府に交涉して島内旅行の打合せをする。文書課長の木村匡さんから各方面への添書を貰ふ。學務部のお世話で新教育を受けたと云ふ張君楚なる青年を雇ふて貰ふ。張君は士林の人で學校出だ。私は支那語は少し喃つたが臺灣

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

話となると餘り達者でない。張君を煩はして旅行先で苦力のお世話など願ふ爲だ。入蕃に對する種々の準備も臺北と基隆の兩地で整へる。何は兎もあれ先づ正月の三ヶ日を濟してとの事で、稅關官舍の高木邸で高雄行の船を待つことにした。

今からすれば二十五年の昔、明治三十三年一月四日、こゝ稅關わきの陸軍運輸部の假設棧橋から此地の知友に見送られて、私達三人は高雄行の汽船に乘込むべく稅關のランチに搭じた。紅葉のやうな手をかざして、高木令息の一さんは母堂の背に負はれて、守備隊時代の友であつた加藤・河內・鈴木・青木・諸兄其の他市內の友人も、降る雨の中を遙かに送つて吳れた。

私達の搭乘した汽船は一千五百噸位の何丸とか云ふた御用船だが、今から考ふれば實以て汚ない、又た貧弱なものであつたが、而しこの時代としては上等の方だつたのだ。本船は途中淡水に一寸寄港し、直ぐ馬公に向つた。恰も繪に書いた龍宮城の如き媽宮城、當時は此處にも今より澤山な陸海軍の軍人が居られた。碇船時間があつたので、島廳？陸海軍衙の舊知を訪ね、新しい魚でチリなどつゝきながら、過ぎし軍政時代の懷舊談に耽けつた。私が澎湖島を訪問したは、これで丁度三度目であり、鳥居さんが此處を過ぎたは、これが二度目であつたのだ。

並の船ならば其頃沿岸航路としては、梧棲、大安港、塗葛窟に寄港して安平に至るが順序であるが、特別級の御用船だから、媽宮から直ちに安平に直航した。私達は安平に上陸して先づ臺南縣廳を訪ひ、知事さんや內務部長に會うて御管內の旅行に就て萬事御願致して後、こゝの殖產課長？である舊知の奇人藤根吉春技師にいろ〳〵お世話をかけた。安平の和蘭城址に稅關事務で角儀太郎さんが居る。私達は角さんに敬意を表して再び船で高雄に向つた。

クラシックな臺南の舊都、未だ其頃は舊態今のやうに破壞されてなかつたので、此頃の臺南事情を書いても一幅の繪のやうな情緒はあるが、斯る閑文字は暇の多い他日に讓り、安平高雄間の昔航海に私達が見た處を少し書き添えて置かう。

此時代の安平には、彼のゼーランヂャ城塞の趾が今のやうに破壞されずあつて、其廢頽の面影が詩のやうに三百年の昔しを物語つて居つた。當年蘭人に依つて植ゑられたアバカ・鳳凰木の如きも、懷古の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

情を偲ばすに十分であつた。在留外人も多數に居住し四五ヶ國の領事館さへあつて、各本國の國旗が低い洋館の椰子茂る中から異彩を放つて居つた。

汀邊には多くの竹筏に小形の戎克、夫れに四五の外國汽船まで碇泊して居つた。旭日海面を照して一種の水蒸汽がむら／＼と立昇つて居る。これが熱帶の雲の色。正月とは云へ南國の強い日の光りに映發するこの自然の現象は、內地に於ては迚も見ることの出來ない變化に富んだ詩的光景であつた。私等は鳥居さんと上甲板の椅子にかけ、文學的に或は地學的に、いろ／＼の冥想に耽つた。多くの漁夫が竹筏を艤して鰮漁に出る勇しい有樣も、外で見られない好畫題であつた。

夕暮れ近く船は打狗の港口を入つて、マイヤスの邸宅の先に碇を下した。築港以前の打狗港は、今よりも遙かに熱帶氣分の濃厚なもので、臺灣に於ける紅樹林にしても、海岸性植物にしても、こゝが殆ど代表的に纒つた景色を見せて居た。物質文明が次第に自然の妙趣を破壞することは已むを得ないが、人間の生活には物質が其の全部でない。天然記念物や史蹟の保存保護と云ふことも、大切な事だ。日本人は天然の大自然を破壞しながら、後になつて子供だましのやうな小規模の公園設備などに腐心する。若し少し早く此處に注意があらば、この自然を利用して、豪宕ある公園が僅かな人爲的加工で立派に築き上げられるのに。實に惜しいものだ。當時この地は打狗と云ふたのが、近頃に至り同音の高雄に地名を代へたものだ。元は臺南縣の所屬であつたが、兩三年前地方制度改正と共に、高雄となり州廳が置かるるに至つた。

高雄から枋寮へ

これまでは途中だ。私達の學術的仕事はこれから始まる。

此旅行中、平地方面の仕事としては、其地方に遺れる石器時代の古物遺跡を探究すること、平埔蕃の過去と現狀を調査することである。高雄から陸行して鳳山に到り、下淡水溪を渡つて阿緱即ち今の屛東に赴いた。

此頃の打狗港は、旗後の市街が主要な繁榮地域であつた。無論今日の如く築港が出來て居らず、又之に依つて造られた埋立地なんどもなく、其の港內に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はマングローブの林が海中處々に叢生して居つた。少數ではあるが西洋人も住んで居り、市中の有様も如何にも支那人町の色彩が濃厚であつた。冬季の陰鬱なる基隆から晴れやかな此地へ來て、如何にも活氣あるやうに思はれた。高雄から臺南へも鳳山にも、陸軍で架設した軍用輕便鐵道があつて、交通は概ねこれに頼つて居つたのである。軍事輸送以外には一般に便乘を許されて居つた。鳳山には周圍に支那時代の城壁があり、元鳳山縣の所在地とて市街の體裁も整ふて居り、守備隊も駐屯し、在留内地人も尠くなかつた。私達の行つた時は廢縣後であつたが、辨務署があつて寛法學博士の父上が此地の署長で居られた。此頃は現今の鳳山に比して數倍賑かで、町の景氣も好かつた事は、數軒の料理屋もあり、數十名の阿嬌さへ、路傍の花として旅する人の客情を慰めて居つた。夫れから見れば只今の鳳山街は、マルで火の消えたやうな感じがする。其頃は兎に角、臺南以南に於ける唯一の都會であつたのだ。

下淡水の渡船は竹筏で渡して居つた。其頃の阿緱の町は全く田舎臭くて、別に城壁があるでもなく、野中に叢林のあつて、其下に貧弱な茅屋が軒を並べて居つたに過ぎない、辨務署の如きも町の廟を役所事務室に充て、居つた。此地には廣東人が多く混じて居り、其風俗の如きも大に趣を異にして居つた。一般の風俗も鳳山以南は大に醇樸の趣があつて、本島人も何となく剛健な風が見えた。

此處を發して東港に赴き、辨務署に於てリキリキ社行の打合した。當時は此方面の蕃社は東港の管内に屬して居つたからである。私達の旅行は高雄から當地までは、憲兵又は警察官數名で銃器を肩にして護衛して下さつた。これから先は警察官のみで護衛された。これは當時土匪の跳梁して行人を害する危險があるからである。普通の旅行者は、一日一回又は二回の定まれる時刻に郵便遞送の際護衛がつくから、此機會に其の行列の後から随從するを常としたのである。私達は特別の厚遇を受け、隨時當局から四五名宛の護衛を付して下さつたのであつた。

東港は高雄以南の唯一の貿易港であつて、當時對岸支那からの貿易の戎克船が多く碇泊し、海岸には竹筏の材料たる麻竹や、黄麻・樹豆・胡麻・薯蕃笠等の輸出物産が山のやうに積まれてあつた。殊に黄麻は全島中此方面が最も多量に輸出したのであつた。往

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

昔の胡麻・黄麻の產地は、今日では總て甘蔗栽培地と變つて居る。東港は曾遊の地で、二十九年臘末東海岸から歸つた私は、直く南下して大武山周圍の蕃社を行脚した。三十年の一月はこの東港の宿で、當時此方面視察中の小藤博士や山崎直方さん等と偶然邂逅し、偕に異鄉で新春を祝つた事も早や三年前の昔であつだ。夫れが二十幾年を經過して東大地理學敎室で、ストーブを圍みながら窓外の雪景色を眺めて、山崎博士の其當時のノートのうちにある東港新年のスケッチを見つゝ、懷舊談を交したことも懷しい思出の一であつた。此夜鳥居さんと携へて市中に出て支那人の辻芝居を立見する。劇の筋は先日佐藤春夫さんが支那土產に譯して出されて居つた、陳三と云ふ可憐な鏡研きの美少年を中心として仕組まれたものであつた。セリフが官話なので傍で見て居る本島人だつて其シクサの形容で察する位で、此點に於ては吾々と同じ珍紛漢であるが、私と張君が覺束ないながらにも鳥居さんに通辯して聞かせた、この港は臺灣の西海岸では南端にある繁華な港だ。これより先には港として車城と大板埒があるが、これは微々として云ふに足らない。支那から來る貿易の戎克の多くが出入して、其市街は狹いながらも賑やかな港氣分を現はして居つた。

東港から石光見の原野を過ぎて水底寮に至り、此處でリキリキ社方面へ入蕃の準備をした。この部落は此地方切つての大部落であつた。村の老人に黃漢生なる生蕃通事が居る。先づ此人を傭ふことゝし、尙枋寮には此地方での名望家である周望三大人が居る。此方面の活歷史だ。伺ふていろ〱敎を乞ふことにした。枋寮の町は南部臺灣では可なり古い歷史を有つた土地であり、又南進軍の乃木師團の上陸地點であつた。町の北端に在る廟のうちには守備隊が駐屯して居つた。前には私の陸軍時代に知れる將校も居つたが、今度來た時は早や交代して未知の新顏のみであつた。リキリキ社や莽芝社邊の蕃人が、男女とも美しい花束を頭に卷き、殊に會長株の男は豹の皮の上衣を着け、鷹の羽のついた長刀を佩いて悠然濶歩して居る所は、私達の旅情を檄ばすに十分であつた。附近から買物に來る本島人まで、蕃人製のシーカオを負ふて來る。本島人も蕃人も共に檳榔子を噛み、唇を赤く齒を黑くして居る。私達の立寄る家は盆に荖葉で包んだ檳榔子を出して吳れる。鳥居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さんも張君も見向もしない。私は東海岸や南蕃の族でこの方には少しは馴れて居る。折角先の接待だがら氣持ちよく一つ貰つて口にする。此町に、元は山の蕃人で幼い時から支那人に養はれ、全く漢化して本島婦人を妻として小店を開いて居る人が居つた。これなどは珍らしい例だ。これに似たことは恒春クヲル社の蕃婦で、元は鵞鑾鼻燈臺に居つた外人の思ひ者として、其宿舍に同棲した人が、改隷の際これ等外人の引揚の節後に殘つて、一度異邦人に肌觸れし身とて、パリシで蕃社へも歸れず。其處に油差しのボーイであつた本島人と妥協成り、打狗に出で丶世帶を持つて居るのを見たが、これなど、何れも潤色すれば、陳三の芝居以上に面白い物語りだと思ふた。この前年三月を費して澎湖全島を踏査した折であつた。西嶼……今で云ふ漁翁島の燈臺に泊り合した節、元は西洋人が住つて居たと云ふから、部屋にしても其頃の日本人が假設のバラックとは異り、贅澤な位に立派なものであつた。夫れに不調和なのは、壁の隅に日本婦人の書いた古い江戸錦飾が貼られてある。傍にある烏龍茶でも入つて居つたかと思はる丶方形の小箱は、日本の女文字しかも金釘流の拙筆より成る手紙で張られて居る。これが軍政時代の全く薬にしたくとも女氣—これは日本女—のない時代なので、不思議に思ひながらも、前管理者時代から居ると云ふ、本島人ボーイに聞けば、元此燈臺看手であつた一英人は、上海から「日本別嬪さん伴れて來る、二人仲大層よろしいあります」と聞かされた。而して其の婦人は外人引揚の節、相携へて支那へ行つたとの事だ。これに就て思ひ出すは、前年サイパン島に行つた節、愛知縣出身のおあいさんと云ふ日本婦人が、カナカ土人の妻となつて子まで生み、腰簑裸體で椰子の葉陰に居られたし、赤道よりも南に在るナウルの島に、醫師の妻として日本人が獨領時代から居られた。私達は海外に於ける日本婦人の勇氣は、有髯男子より以上に、四海を家として活躍して居るのに、少からず皮肉に感じたと共に、我々は大いに鞭韃を加へらる丶ほどの刺戟を覺えた。若し吾々同胞が異邦に出で丶、是等內地婦人のやうに、到處に安心立命して泰然其の地に親しみ、其民族に協調し、偕に握手提携して事業を成したらば、如何であらうかと思ふ。何も仰々しく日本の領土にして仕舞うとか、日本人占有の名義ぢや仕事するがイヤ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だとか、實を顧みずして徒らに名のみに憧れて、却て他の猜疑と嫉視と反感とを求めて排日の種子を播いたり、少數在留の邦人が、異民族の前でお大人ケない內輪揉めの感情衝突など、私は斯る日本男子の、果して海外發展に如何な收穫を贏ち得るであらうかと思ふた。其頃私達の旅行する臺灣の田舍にしても、我同胞のイヤな短所や缺點を見せられて、私は言葉が多少通じた故に其內情を知る機會が多く、屢々顰蹙に堪へなかつた事も多かつた。知らぬが佛との諺があるが、字を知るは憂の本ともなるが、言葉の通じるもイラヌ他人の疝氣まで頭痛にしなくてならぬから、知識なるもの丶有るのも、良いか惡いか判らなくなる。

加之當時は守備兵、憲兵、警察隊の三段警備の際に醞釀された一種イヤな空氣が殘つて居て、黨同伐異の暗流が渦を卷き、時には暗鬪が破裂し、時には案外な問題が起り、本島人さへ夫れに加へて、弊害百端、波瀾の絕え間も無い時代であつたから、私が十代の子供心にも斯る慘憺たる場面を目擊し、人間生存競爭の露骨に現はした爭奪を見て、幼心にも強い〳〵人生觀に對する哲學的の眞諦を與へられだ。

私は文明人の生活は斯くまで複雜かと感じた際、原始の國、眞摯なる生蕃の村に、其平和にして淸らかな彼等の日常生活に接した時の印象は、遂に私をして三十年の久しきに亘り、彼等を忘れ得ぬ楔子となつたのである。私が生蕃に親しみを有つた動機は、即ち斯る事情に職由するものであつた。

枋寮で入蕃準備の買物を整へ、いよ〳〵明日はリキリキ社行と決し、黃漢生をして荷物運搬の蕃丁も用意さした。私達は其前年に於て恆春半島の蕃地は全部檢討したので、今度はリキリキ社を振り出しに山の生蕃に調査の手を著けたのであつた。こゝは一月の半であるに、路傍の桃や李の花か咲き、或は白に紅の日々草が野生で道の邊に咲いて居る。臺灣海峽から吹き送る風も何となく春の氣分をそゝる。海邊を見れば鰮漁の竹筏が沖に群り、濱の方は急設の漁村で賑ふて居る。モー用意も整ふた。鳥居さんイザ水底寮へ歸らうか。（次ぎは水底寮からリキリキ蕃社へ）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島情

五州十三年度の豫算

水越州廳課長談

歐洲戰亂後の財界不況は尙依然として繼續し、地方財政に影響する所亦年々層一層の甚敷を加へ、之が對應策としては頗る苦心する所なり。卽ち社會の進運に伴ひ、州內に於ける公益事業は、敎育に勸業に衞生に土木に、將た社會敎化に、益々其の急を告ぐるものあるも、一面財界の不況は一般民力涵養の必要を告ぐるや切なるものあり。是に於て人件費に事業費に一大斧鉞を加へ、大正十二年度に於て地方稅中有力なる營業稅課率の低減を斷行したる次第にして、其の結果同年度に於て各州を通じ當初豫算額に比し三十六萬六千餘圓の減額を見るに至れり。尤も營業稅輕減に伴ふ補助として五十萬圓國庫の交付を受けたりしも、十三年度に至りて尙該補助の交付あるや否や不明なるのみならず、關東地方に於ける大震災の及ぼせし影響亦尠からず。更に一段の財政窮乏を訴ふるものあり。然れども餘りに緊縮に重ぬるに緊縮を以てせば、却て公共團體の福利增進を阻害するの虞あるを以て、大正十三年度豫算審査方針としては(一)歲入にありては前年度に比し增課を認めざること及起債を許さゞること(二)歲出經常費にありては、社會公益上實施の止むを得ざるものゝ外、大體前年度更正豫算額の範圍に止むること(三)歲出臨時費にありては、急施の止むを得ざる事業のゝ外認めざること、の三綱領に基き、各州豫算を詳細に亙り審査を行ひ、玆に漸く認可の運びとなれる次第にして、今其の增額の止むを得ざるもの、又は新規計畫中必要と認むべきものゝ、重なるものを擧ぐれば左の如し。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
經常部					
神社費	円—	円—	円—	円—	一・〇〇〇円
小公學校費	七七・二二〇	五二・四五八	六六・七八一	三二・六五九	二・六〇五
中等學校費	一八・四八四	一九・九六八	—	一三・八二七	三二・九九六
教育博物館費	—	—	五・五四七	—	—
圖書館設置奬勵費	—	—	—	三〇・〇〇〇	—
青年講習會費	—	—	—	二・五〇〇	—
農事講習所費	—	—	—	—	六・四〇〇
水產試驗所費	二一・七〇七	—	—	—	—
記念造林費	—	—	—	—	五・〇〇〇
水產奬勵費	—	—	—	—	六・九一七
臨時部					
廳舍增築費	—	—	五〇・〇〇〇	五・九八五	—
商品陳列館建築費	—	—	—	三八・〇〇〇	—
中等學校新營	一二六・八九〇	九・〇〇〇	四四・六四〇	—	五六・〇〇〇
水道敷設費	九・〇〇〇	—	—	—	—
宿舍建築費	—	—	—	一九・九〇〇	—
郡守官舍新營	一七・五一〇	—	—	—	—
郡役所增築	—	一・五〇〇	—	六四・九六二	八・五〇〇
產業紹介及調査	三〇・〇〇〇	—	四・五七〇	—	—
獻穀費	—	—	三〇・〇一〇	—	—
記念造林費	三二・四〇〇	—	—	—	—
大南澳開墾費	九・九一二	—	—	—	—
水產指導船費	四〇・〇〇〇	—	—	—	—
農事試驗場用建物	—	—	—	一三・五〇〇	—
工業奬勵費	五・〇〇〇	—	—	—	—
記念館補助	—	—	二〇・〇〇〇		
水利事業調査費	—	五・〇〇〇	—	—	—
民行造林地調査	—	—	一・五九二	—	—

是に由りて之を觀るに、教育費の如きは、學級の自然增加に伴ふ經費の增加等重なるものにして、普通教育の普及上止むを得ざるものと認む。尤も新設中等學校費に在りては、帝國議會解散の結果、國庫に屬する實行豫算の關係上、如何に結著するや目下の處不明なりとす。其の他、勸業費等に於ける新規計畫の如き、州の公益を增進する上に於て、必要止むを得ざるものと認めたり。

今、大正十三年度豫算總額を、大正十二年度更正豫算に比較するに、約三十七萬九千三百餘圓の減額を見る。卽ち左の如し。

	十二年度更正豫算	十三年度計上額	比較減
臺北州	三・三九一・七九一円	三・二九二・八八二円	九八・九〇九円
新竹州	一・五八四・六四九	一・五一九・五七七	六五・〇七二
臺中州	二・四三二・〇八九	二・三九三・七一六	三八・三七三
臺南州	三・一〇七・一八八	三・〇一一・九〇五	九五・二八三
高雄州	二・一九七・九八四	二・一一六・三一八	八一・六六六
計	一二・七一三・七〇一	一二・三三四・三九八	三七九・三〇三

改正された臺灣米穀檢査規則

別項時報欄掲載の臺灣米穀檢査規則の本文は左の通りである。

〇臺灣米穀檢査規則（大正十三年三月十八日府令第二十六號）

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ米穀ト稱スルハ本島產玄米、精米及碎米ヲ謂フ

第二條　檢査ハ搬出檢査、移出檢査及輸出檢査ノ三種トス

第三條　檢査ハ左ノ各號ニ就キ一袋每ニ之ヲ行フ

一　品質
二　乾燥
三　調製（精米ノ場合ハ搗精ヲ含ム）
四　重量
五　包裝

第四條　品質、乾燥及調製ノ檢査ハ包裝米ニ就キ見刺ヲ用キテ之ヲ行フ但シ必要アリト認ムルトキハ解袋ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ檢査ハ臺灣總督ノ定ムル標準米ニ依リ其ノ良否ヲ鑑別シ一等、二等、三等、等外及不合格ニ分ツ但碎米ハ碎米タルコトヲ檢認スルニ止ム

第五條　一袋ノ重量ハ正味百五十斤トス

第六條　包裝ハ麻製厚袋（ガンニー袋）ヲ用ウヘシ

包裝ノ口縫ハ片縫ハ二十五針以上、兩掛縫ハ片側十二針以上四合繩二筋合セラ以テ緊縛スヘシ

古袋ハ受檢米ノ包裝ニ使用スルコトヲ得ス但シ著シキ汚染、損傷ナキモノニシテ島內ノ消費米ノ包裝ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テ檢査ノ證印アル古袋ヲ使用セムトスル者ハ檢査所又ハ其ノ出張所ニ於テ別記第十八號雛形ノ消印ヲ受クヘシ

第七條　包裝者ハ其ノ住所、氏名及包裝ノ年月日ヲ記載シタル長サ四寸幅二寸ノ厚紙札ヲ各袋每ニ封入スヘシ

包裝者ハ其ノ氏名、商號又ハ商標ヲ包裝ノ外面見易キ場所ニ黑色ヲ以テ表示スヘシ

前項ノ記號ハ豫メ檢査員ニ屆出ツヘシ

第八條　重量不足ノトキ又ハ調製若ハ包裝ノ不完全ナルトキハ之ヲ補正セシム但シ調製ニ付テハ檢査申請人ノ申出アリタル場合ニ限ル

第九條　特別ノ事情ニ依リ臺灣總督ノ許可ヲ得タル場合ハ第五條及第六條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十條　檢査ヲ受ケムトスル者ハ檢査申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ檢査所又ハ其ノ出張所ニ提出スヘシ

一　袋數
二　價格
三　生產地
四　仕向地（島外ナルトキハ船積港）
五　住所氏名

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六　年月日

第十一條　檢査ハ申請ノ順序ニ依リ毎日晝間檢査所又ハ其ノ出張所ニ於テ之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ米穀ノ所在地ニ於テ檢査スルコトアルヘシ

第十二條　檢査申請人又ハ其ノ代理人ハ檢査執行中現場ニ立會フヘシ

第十三條　檢査ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二章　搬出檢査

第十四條　搬出檢査ハ知事又ハ廳長之ヲ行フ但シ當分ノ內花蓮港廳及臺東廳管內ニ於テハ之ヲ行ハス

第十五條　別ニ指定セラレタル地ヨリ米穀ヲ搬出セムトスル者ハ所轄檢査所又ハ其ノ出張所ニ於テ檢査ヲ受クヘシ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ所轄檢査所又ハ其ノ出張所所屬ノ檢査員ノ承認ヲ得テ他ノ檢査所又ハ其ノ出張所ニ於テ檢査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ指定地、檢査所及其ノ出張所ノ名稱、位置竝管轄區域ハ知事又ハ廳長之ヲ定ム

第十六條　檢査濟ノ米穀ニ對シテハ其ノ證トシテ一等乃至三等粳米ニハ別記第一號乃至第三號雛形、等外粳米ニハ別記第四號雛形、不合格米ニハ別記第五號雛形、一等乃至三等糯米ニハ別記第六號乃至第八號雛形、等外糯米ニハ別記第九號雛形、不合格糯米ニハ別記第十號雛形、碎米ニハ別記第十一號雛形ノ證印ヲ各其ノ包裝ノ外面ニ押捺ス

第八條ニ依リ補正ヲ命シタルモノニハ別記第十二號雛形ノ證印ヲ其ノ包裝ノ外面ニ押捺ス

特別ノ事情アル場合ハ檢査ハ檢査證明書ノ下付ヲ知事又ハ廳長ニ申請スルコトヲ得

知事又ハ廳長ノ許可ヲ得タル場合ハ前項ノ檢査證明書ヲ以テ第一項ノ檢査證印ニ代フルコトヲ得

第一項ノ檢査證印ヲ押捺シタル玄米ニ付テハ北部米ニハ別記第十三號雛形、中部米ニハ別記第十四號雛形、南部米ニハ別記第十五號雛形ノ證印ヲ各其ノ包裝ノ外面ニ押捺ス

前項ノ北部米ハ臺北州及新竹州產米、中部米ハ臺中州產米、南部米ハ臺南州及高雄州產米ヲ謂フ

第十七條　前條第一項ノ肉色ハ丸粒粳玄米及長粒糯玄米ハ青、長粒粳玄米及丸粒糯玄米ハ紫、內地種粳玄米ハ赤トス但シ精米、碎米及前條第二項、第五項ノ證印竝消印ノ肉色ハ黑トス

第十八條　檢査證印ニ類似ノ記號ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十九條　檢査證印ノ影跡不明瞭トナリタルトキハ其ノ旨檢査所又ハ其ノ出張所ニ屆出テ更ニ之カ押捺ヲ受クヘシ

第二十條　檢査濟ノ米穀ト雖當該檢査員ニ於テ必要アリト認ムルトキハ搬出前ニ限リ更ニ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第二十一條　檢査濟ノ米穀ヲ隨意改裝シタルトキ又ハ之ニ不正ノ手段ヲ加ヘタルトキハ更ニ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ搬出スルコトヲ得ス不正ノ手段ヲ以テ檢査ヲ受ケタル米穀ニ付亦同シ

第二十二條　搬出檢査ノ施行ニ關シ必要ナル規程ハ知事又ハ廳長之ヲ定ム

第三章　移出檢査

第二十三條　移出檢査ハ臺灣總督之ヲ行フ

第二十四條　米穀ヲ移出セムトスル者ハ移出檢査所ニ於テ檢査ヲ

受クヘシ

移出檢査所ノ名稱及位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十五條　檢査ノ結果搬出檢査ノ證印ヲ適當ト認ムルトキハ別記第十六號雛形ノ證印ヲ黑色ニテ其ノ包裝ノ外面ニ押捺ス

第二十六條　檢査ノ結果搬出檢査ノ證印ヲ不當ト認ムルトキハ之ニ別記第十八號雛形ノ消印ヲ施シ第十六條ノ規定ニ依ル手續ヲ行ヒ更ニ前條ノ證印ヲ押捺ス

第二十七條　檢査ノ結果等外及不合格トナリタル米穀ハ移出スルコトヲ得ス但シ天災、凶作其ノ他特別ノ事情ニ因リ臺灣總督ニ於テ必要アリト認ムル場合ハ期間ヲ定メ等外ノ移出ヲ許スコトアルヘシ

第二十八條　第十六條第三項、第四項及第十八條乃至第二十一條ノ搬出檢査ニ關スル規定ハ之ヲ移出檢査ニ準用ス

第四章　輸出檢査

第二十九條　臺灣總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ期間ヲ定メ輸出檢査ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ米穀ヲ輸出セムトスル者ハ輸出檢査ヲ受クヘシ

第三十條　輸出檢査ニ關シテハ移出檢査ノ規定ヲ準用ス

檢査濟ノ米穀ニ對シテハ其ノ證トシテ別記第十七號雛形ノ證印ヲ黑色ニテ其ノ包裝ノ外面ニ押捺ス

第五章　手數料

第三十一條　本令ニ依リ米穀ノ檢査ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ之ヲ徵收セス

一　碎米ノ檢認

二　第二十條ノ檢査

三　臺灣總督又ハ知事若ハ廳長ニ於テ宥恕ノ事由アリト認ムルトキ

第三十二條　移出檢査及輸出檢査ノ手數料金額ハ臺灣總督之ヲ定ム

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第三十三條　搬出檢査ノ手數料金額ハ知事又ハ廳長之ヲ定ム

第三十四條　既納ノ手數料ハ之ヲ返還セス

第六章　罰則

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十五條第一項、第十八條、第二十四條第一項及第二十九條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二　檢査員ヲ錯誤ニ陷ラシムル目的ヲ以テ受檢米ニ不正ノ手段ヲ加ヘタル者

三　檢査濟ノ米穀ニ對シ不正ノ手段ヲ加ヘタル者

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第六條第三項、第七條第一項、第三項、第十二條及第十九條ノ規定竝第四條第一項ノ命令ニ違反シタル者

二　第二十條ノ檢査ヲ拒ミタル者

第三十七條　搬出者、移出者又ハ輸出者カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス

第三十八條　搬出者、移出者又ハ輸出者ノ代理人、代表者、戶主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ搬出者、移出者又ハ輸出者ノ指揮ニ出テサルトキト雖本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ罰則ハ之ヲ搬出者、移出者又ハ輸出者ニ適用ス

附　則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ搬出檢査又ハ移出檢査ヲ受ケタル米穀ハ本令第十五條又ハ第二十四條ノ規定ノ適用ニ付テハ本令ニ依リ檢査ヲ受ケタルモノト看做ス

明治四十五年府令第六十二號臺灣米穀檢査規則ハ之ヲ廢止ス

（別記雛形略ス）

海洋調査竝に漁業試驗の連絡協定

別項時報欄掲載の臺灣總督府竝に各州廳に於ける海洋調査竝漁業試驗の連絡に關し三月十八日府報公布に係るもの左の如し。

○海洋調査竝漁業試驗連絡に關する件總督府殖産局各州廳に於て海洋調査竝に漁業試驗連絡に關し左記の通り協定を遂け大正十三年度より之を施行することゝなれり。

▼海洋調査連絡に關する件

一　調査連絡方法

イ　本島海洋調査ハ總督府竝ニ各州廳相連絡シ施行スルコト

ロ　横斷觀測線ノ分擔左ノ如シ

總督府

實施中

西表島及基隆沖間　（各　月）

新規觀測線

基隆ヨリ魚釣島西北西百二十浬ヲ經テ魚釣島ニ至ル　（各　月）

成廣澳ヨリ正東六十浬　（年四回）

イバヤツト島ヨリ正西六十浬　（年四回）

州　廳

臺北州

蘇澳及與那國島間　（各　月）

基隆沖及東犬島間　（年四回）

但シ試驗準備完成迄總督府ニ於テ施行

東犬島及淡水間　（年四回）

新竹州

舊港ヨリ支那烏岳嶼　（各　月）

臺南州

安平及大嶼間　（同　）

但シ天候ノ都合ニヨリテハ安平及査母嶼間

高雄州

北緯二一度四三分東經一二〇度〇分ヨリ正東ヘ百浬　（同　）

高雄ヨリ正西五十浬　（同　）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ハ 横斷觀測ハ毎月々初ニ施行ノコト

ニ 調査成績ハ施行後十日以内ニ殖產局ヘ報告スルコト

ホ 殖產局ハ毎月一回本島海洋圖及調査報告ヲ作製スルコト

ヘ 本調査遂行上ノ便宜ヲ計ル爲毎年一回關係官衙ノ打合會ヲ開クコト

二 調査事項

甲 理化學的事項

一 海上氣象
一 海水温度
一 海水比重
一 海水ノ鹽分及瓦斯
一 海流及潮流
一 水深及底質
一 海水ノ化學的成分

乙 生物學的事項

一 浮游生物
一 重要水族ノ生態
一 海底生物

三 調査方法

イ 横斷觀測線ノ各觀測點間隔ハ十五浬トシ表面、二五、五〇、一〇〇、二〇〇、四〇〇米突ノ各深度ニ就キ水温比重ヲ調査スルコト

ロ 調査用器具ハ左記ニ掲クルモノヲ使用スルコト

水温 攝氏四十度寒暖計一度ノ間隔曲尺二分ノモノ（一三度以上ノ器差アルモノハ使用セサルコト）

比重 赤沼式比重計B號及C號（、〇〇〇五以上ノ器差アルモノハ使用セサルコト）

浮游生物 口徑一尺一寸三分ノヘンセン氏ニ倣ヒタル垂直採取網

底質 レガー氏採泥器

水色 フォーレル氏水色標準液

透明度 口徑一尺ノ木製透明度板

採水 表面ハ表面採水器表面下ハ北原式A號採水器

比重測定硝子圓筒直徑一寸六分高一尺

ハ 氣象ノ觀測

一 雲量 一―一〇ノ階級ヲ以テ表示ス

一 雨 微雨和雨强雨ニ分チ記入ス

一 風向 十六方位ニ分チ其ノ吹キ來ル方向ヲ記入ス

一 風力 中央氣象臺ノ定メタル軟和疾强烈颶ノ六階級ニ據ル

一 氣温ノ觀測ハ空氣ノ流通惡シキトキハ十分間流通全クナキトキト雖手ニテ寒暖計ヲ廻轉スルトキハ四分間ニテ可ナリ但シ太陽熱ノ影響ヲ受ケサル處ニテ爲スヘシ

一 前日ノ氣象概要ノ欄ニハ自己又ハ附近測候所ノ觀測ニヨリ數日前ヨリノ氣象ノ概要ヲ記入スヘシ

一 「ウネリ」 來ル方向最高週期ヲ記入スヘシ

ニ 水温

一 表面水温ヲ測ルニハ二重採水器ヲ用ヒ海水汲上後直ニ觀測スヘシ

一 寒暖計ハ毎年一回氷點檢査ヲ行フヘシ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一　水温ノ測定ハ凡ソ一分間トシ寒暖計ヲ水中ニ挿入シ水銀線ノ先端ヲ僅ニ水面上ニ出シテ讀ミ取ルヘシ

ホ　比　重

一　船ノ全ク動搖ナキトキノ外陸上ニテ比重ヲ測定スヘシ

一　比重測定用海水ハ硝水壜ニ保存シ護謨栓又ハコルク栓ヲ施スヘシ

一　比重ヲ計ルニハ先硝子圓筒ニ海水ヲ滿シ水泡ノ上昇シ盡シタ後比重計上端ニ水滴ノ附著セサル樣注意シ比重計ヲ挿入シ其ノ靜止シタル後毛細管現像ナキ水平面カ比重計桿ヲ横キル部分ヲ讀ミ取ルヘシ

寒暖計ハ比重計ト同時ニ挿入シ比重測定時ノ水温ヲ檢スヘシ

一　比重測定ノ際海水温度三十度以上ナルトキハ冷却シテ三十度以下トシテ比重ヲ測定スヘシ

一　比重計ハ使用後清水ニテ洗ヒ清澄ナル布帛ヲ以テ拭キ鹽分脂分等ノ附著セサル樣注意スルコト

ヘ　海流及潮流

一　淺所ニテハ船ヲ止メ測流板又ハエクマン氏潮流計ヲ使用シ深海ニテハ※叉法又ハ經緯度觀測ニヨリ船ノ流レタル方向ト距離トヲ測定シ方位及速度ヲ記入スヘシ

一　各月横斷觀測ノ際適當ノ位置ニ於テ浮瓶十本ヲ投シ海流ヲ調査スルコト

ト　浮游生物

一　觀測毎各點水面下五〇米突ヨリ表面ニ至ル垂直採取ヲ爲スコト曳上速度ハ一秒間約二分ノ一米突トス

一　浮游生物ハフォルマリン液ニ保存ス

一　浮游生物ノ量ハ「シリンダー」ニ入レ一晝夜放置シテ沈澱セシメ量ヲ測定シ立方糎ヲ以テ示スコト

一　採取セル標本ハ採取月日番號採取點ヲ鉛筆又ハ墨ヲ以テ記入セルレッテルヲ貼附スルコト

一　標本ハ觀測毎殖産局ヘ送付スルコト

チ　重要魚調査

一　左記重要魚族中各州廳ニ於テ必要ト認ムル種類ヲ定メ調査研究スルコト

鰹、鮪、旗魚、鯖、鰤、鯛、鰮、鯵、鰩、黄花魚、迯子鯛、血鯛、惣田鰹、飛魚、鱶

一　調査項目

1　形　態　重量、體長、體高、肥瘠、年齡、成長度

2　内　臓　消化器内容

3　生殖線　重量、大小、色、熟否

4　産卵期　産卵場、卵、發生、孵化、稚魚棲息場

5　漁場ノ水温、比重、海流、潮流、來游狀況、游泳ノ深度、天候

一　調査報告ハ毎月一回殖産局ヘ送付スルコト

一　洄游狀況ノ調査ハ成ルヘク標識ノ方法ニヨルコト

一　調査報告ノ樣式ハ別紙ニヨルコト

リ　漁況調査

一　各州廳樞要ノ漁村ニ漁況調査員ヲ配置シ重要漁況ヲ毎旬一回報告セシムルコト

一　調査報告ノ樣式ハ別紙ニヨルコト

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一　横斷觀測報告ト同時ニ其ノ前月分漁況調査報告ヲ殖産局ヘ送付スルコト

ス

特別報告

魚族ノ移動海流ノ變化等漁業上急要ナル事項ヲ發見シタルトキハ府廳及殖産局ハ相互臨機ノ急報ヲ發スルコト

ル

定期觀測

二、五、八、十一月ノ觀測ハ必ス實施スルコト

四　調査報告ノ記入及整理其ノ他

一　横斷觀測報告用紙ハ別紙ニヨル

一　水温比重曲線圖ハ整數ヨリ描出シ次ニ端數ニ及ホスモ整數線ヲ得難キ場合ハ此限ニアラス

一　毎三箇月及一箇年毎ニ平均曲線圖ヲ作製スルコト

一　觀測點番號ハ一、二、三I. II. III. A. B. C. 等ノ記入號ヲ附スルコト

一　比重ノ換算ハ膨脹係數ヲ加減スヘシ

一　觀測線一線毎ニ各別紙ニ記載スルコト

一　各報告ノ水温比重ハ水平垂直ノ平均ヲ記入スルコト

一　透明度ハ米突ヲ以テ１２３等ノ如ク水色ハI II III等ノ如ク記入スヘシ

一　雲形ハC N K SKノ如ク記號ヲ以テシ雲量ハ１２３ノ如ク示スコト

一　比重ノ補正ハ大日本水産會發行海水比重換算表ニ據ルコト

一　凡テノ長サハ米突ヲ以テ表ハシ水族ノ重量ハ當分ノ内斤（或ハ貫）ヲ以テ表ハスコト

一　測器ノ器差及比重計ノ膨脹係數ハ内挿法ニヨリ豫メ器差表係數表ヲ作リ置クヘシ

一　百米突以内ノ淺所ニテハ表面及二十五米突ノ間ニ十米突ノ觀測ヲ陸岸又第一觀測點間ニハ向距岸二浬ノ觀測ヲ施行スルコト

一　觀測採捕採集ノ位置ヲ表示スルニハ左ノ三方法ノ一ニヨルヘシ

一　顯著ナル目標ニ對スル方位及距離

一　顯著ナル目標ヲ連結シタル線二箇以上ノ交叉

一　經度及緯度

五　注意事項

本調査ハ凡テ緻密ト正確トヲ期スヘシ假令一回ノ不正確アルモ害ヲ全般ニ及ホシ其ノ成果ヲ破壞スルニ至ルヘケレハナリ

▼漁業試驗連絡に關する件

一　連絡漁業ノ種類及加入府州廳名

鰹漁業

總督府、臺北州、花蓮港廳、臺東廳、高雄州

鮪及旗魚漁業

總督府、臺北州、花蓮港廳、臺東廳、高雄州、臺南州

鯛漁業

臺北州、新竹州、臺中州、臺南州、高雄州

鰮漁業

臺東廳、高雄州、臺南州、臺中州、新竹州、臺北州

惣田鰹漁業

臺北州、花蓮港廳、臺東廳、高雄州

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二　漁業試驗連絡方法

總督府竝ニ各州廳相聯絡シテ施行ス

イ　毎年漁業主任官會議ヲ開キ試驗魚族及試驗事項ノ協定

ロ　本局ヨリ交付スル漁業表ニ出漁中毎日各事項ヲ記入スルコト

ハ　各州廳ハ別紙例式ニ依ル漁場圖ヲ作製シ漁具使用ノ場所（漁具使用場所ハ一定ノ符號ニテ之ヲ示シ別ニ漁場狀況記載ノ場合又ハ漁業表漁場符號ト對照シ得ル樣ニスルコト）ヲ記入スルコト

ニ　連絡州廳ハ作成セル漁業表及漁場圖ヲ毎月總督府及各連絡州廳ニ提出スルコト

ホ　總督府ニ於テハ總體圖ヲ作製シ年一回報告スルコト但特ニ必要ヲ認メタルトキハ其ノ都度之ヲ作製ス

三　試驗報告事項

一　漁業表

一　天候
一　風向
一　風力
一　漁場符號
一　漁具使用時
一　漁具使用回數
一　氣溫
一　底質
一　水深
一　水色
一　透明度
一　月・齢
一　潮高
一　表面水溫
一　漁獲水層水溫
一　比重測定時ノ水溫
一　比重
一　潮流海流方向速度
一　餌料ノ種類數量
一　漁獲物種類、數量、一尾ノ平均重量
一　浮游生物、漁具名稱大サ數量
一　記事欄

一、漁場圖

一　漁場位置

報告書記載事項ニ關スル注意

一　天候　晴ハB曇天ハC雨ハRニテ示スヘシ
一　風向ハ十六方位ニ分チ其ノ吹キ來ル方向ヲ記入ス
一　風力ハ六ノ階級ニ據リ1.2.3ニテ示スヘシ
一　漁場位置ハ符合㋑㋺等ヲ以テシ漁場圖記載ノ分ト一致スル事ヲ要ス
一　漁具使用時ハ漁具投入終了ノ時及漁具揚綱終了ノ時間ヲ示スヘシ
（例 A. M. 8^{15}－P. M. 2^{15}）
一　表面水溫ハ必ス攝氏寒暖計ヲ使用シ器差ヲ加減スヘシ
一　漁獲水層ノ水溫ハ漁獲セル位置ノ水層即チ其ノ深サニ於ケル海水ヲ測定スヘシ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一　採水ハ北原式採水器ニ依ル

一　比重　比重ハ漁獲水層ニ於ケル比重ニシテ測定ハ海洋調査ニ於ケル比重測定ニ準據スヘシ

一　比重測定時水温　比重ヲ測定セル場合ニハ同時ニ水温ヲ測定スルコト

一　潮流海流ノ方向速度　方向ハ十六方位ニ分チ其ノ流レ去ル方向ヲ記入ス速度ハ緩急ヲ以テ之ヲ示スヘシ

記事欄　記事欄ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

一　出漁ノ月日及場所並ニ漁期間毎月ニ區分シテ一般ノ漁況ヲ詳記スルコト

一　新漁場發見ノ場合ハ其ノ位置ヲ詳記スルコト

一　貯藏餌料ヲ使用シタル場合ハ其ノ貯藏方法及其ノ結果ヲ詳記スルコト

一　漁獲物ヲ船内ニ貯藏スル方法ヲ記入スルコト

漁場圖　漁場位置ハ符合ヲ以テ之ヲ示シ漁業表符合ト同一符合タルコトヲ要ス

四　一般注意事項

一　漁期ノ中途ニ於テ試驗ヲ中止シ又ハ漁期ノ中途ヨリ試驗ヲ開始シタル場合ハ當業者ノ漁船ヲ以テ可成其ノ漁期間繼續試驗スルコト

一　試驗船ヲ有セサル州廳ニシテ其ノ試驗ヲ當業者ニ囑託スル場合ハ毎月一回以上擔當者ヲ乘船セシムルコト

一　前項ノ場合ニ於テ擔任者ヲ乘船セシムルコト能ハサル場合ニハ前項報告ニ準シ報告書ヲ徴收シ提出スルコト

一　報告書ハ可成漁期ノ始メヨリ終了迄ノ事實ヲ記入スルコト

一　餌料使用ノ場合ハ方言記入スルコトヲ避ケ普通名ヲ記入スルコト

一　生殖素及食餌ハ可成調査報告スルコト

一　漁業表漁場符號ハ漁場圖ノ對照ニ便スル爲メナルヲ以テ特ニ注意スルコト

一　前記試驗報告項目ハ漁具使用時ノ狀態ヲ記入スルコト

一　連絡州廳中隣接州廳ニ於テ相互漁況ヲ知ルノ必要アルモノハ別ニ其ノ方法ヲ協定スルコト

一　漁場圖ハ臺灣全島(No. [illegible])海面ニ依リ經緯度線各十分線ヲ劃シ磁針方位圖ヲ記入スヘシ

本島最初の試みの全島產業組合講習

三百に近き全島產業組合の聯絡統一、指導啓發を目的として昨年七月生れた臺灣產業組合協會にては其後各種の事業を遂行し來れるが特に本島に於ける產業組合の指導若しくは之が經營の任に當るものゝ智識の缺除せるを憂へ之が充實補足の爲に二月十六日より二週間高等商業學校構内に於て全島產業組合講習會を開催中央よりは佐藤農學博士、小濱農商務事務官の兩氏並に本島内にては後藤判官、西澤高商教授、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今川、中田の兩府事務官を講師に迎へて講習中の處、豫定期間の講習を無事終へ三月七日午前十一時より右講習終了式竝に修業證書授與式を擧行した、定刻來賓高田臺北州知事豊田高商校長の兩氏を始め協會關係者側よりは吉田長官代理、阿部、喜多兩會頭、今川、西澤兩講師、中瀬、中田兩幹事其他講習員百十二名著席、中瀬幹事の開會辭、中田幹事の講習會成績報告あり吉田長官代理は講習生に證書授與後一場の訓示をなし次で高田臺北州知事の祝辭大脇講習生總代の答辭あつて正午閉會した、尙右講習會開講式竝に終了式當日に於ける長官代理の挨拶は次の通りである。

□開講式當日の長官代理の挨拶

臺灣產業組合協會第一回講習會開講に當り、一言述ぶる所あらんとす。現在の社會經濟組織に於ける產業組合の地位及其重要なる職責等の諸點に就ては、既に諸君に於て相當の了解ある事を信ずるを以て、玆に詳說するの必要を認めざるが、唯、現在社會及經濟の實勢は、益〻產業組合の活動に俟つ可きもの多く、中央政府に於ても、農村振興の目的を以て、產業組合の普及發達を圖ると共に、中央金庫の活動を助長するの方針を執り居れり。況んや本島の如く農業が他の產業に比して一段の重きを擔ひ居れる地域に於てをや、此點よりするも產業組合の活動に依倚するの多大なるものあるのみならず、其他の諸點に於ても、母國に比して經濟發達の後進者たる關係上、各種產業及社會施設の上に於て、產業組合に期待する所愈〻大なるものあるは元より其所なりとす。

諸君は、或は產業組合の指導者として、或は直接經營者として、產業組合の使命を達成せしむるの重任にある者而して講師は、何れも斯界の權威者にして、就中佐藤小濱兩講師は遠く東京より渡臺せられたるものなり。幸に宜しく拮据勉勵、更に深く產業組合に關する智識の蘊奥を極め、依て以て益〻充實該博なる智見を以て、十分に其職責を遂行せん事を期せらるべし。一言以て挨拶に代ふ。

□終了式當日の長官代理挨拶

本日玆に本會主催第一回產業組合講習會終了式を擧行するに際し會頭を代理し一言御挨拶を申し度し今回の講習會は本會最初の試みなりしにも不拘講習會の成績報告に徵すれば豫期以上の成績を擧げ得たるを認む蓋し斯る成績を見るに至りたるは講師各位の御骨折さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講習員諸氏の勉勵せられたる結果に外ならずと深く感謝の意を表するものなり抑も產業組合なる制度が現時の社會經濟組織に於て重要なる施設なる事は本會發會の際申述べたる處にして再度茲に繰返す迄も無きも尙一言し度きは產業組合は產業の助長發達を企圖するのみを以て目的とするのみならず之を以て地方公共團體の發達に資する上に於ても亦極めて適切なる施設なる事は諸氏に於ても此の機會に於て充分修得されたる事と思考す。

然に本島產業組合の現狀に付ては各々の知悉する如く其成績相當に良好なりと雖前段の理想に尙遠き感あり此時に際し諸氏は今回學び得たる所を今後に於て組合の指導監督上或は組合の實地經營上地方的に適當に應用實施せらるゝの責務を有するものにして又之を實現せらるゝの曉に於ては本島產業組合の面目を新にする機會の到來を信じて疑はざる所にして諸氏は此の期待に背かざる樣今度產業組合の發顯に努力し本講習會開催の目的を十二分に達成せらるゝを希望して已ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

詞苑

春晝縱筆　小松吉久

春陰漠々雨將催。鶯語方嬌蝶未來。
午倦如醒書懶讀。閒看兒女弄泥孩。

困人天氣日初長。午倦如醒。合於爽氣致柔能摸孩也。

車中所見

田々雨足水鳴渠。翠簇針秧一寸餘。
薄暮壠頭人去盡。心閒白鷺立窺魚。

確然景象。吉祥文字

次華山詞長玄海灘韻

船頭決眥去帆稀。玄海風吹客子衣。
想見驚人詩句就。墨花怒捲浪花飛。

次華山詞長日本海上韻

蓬瀛重放棹。氷島記乘艫。了悟千般游。
逍遙萬里翔。把盃雖戶小。論道轉談高。湖海元龍氣。詩仍一世豪。

豪情快意之作。墨花怒捲浪花飛句。可以移贈。　潤菴漫評

江山樓雅集賦示諸賢乞政　鷹取岳陽

人間未識洞庭秋。滄浪春波但學鷗。
相値傾杯皆李杜。此樓疑是岳陽樓。

江山樓雅集席上和岳陽詞兄韻　尾崎古邨

愧我詩懷合似秋。煙波未得伴閒鷗。
今宵何幸陪高會。快上江山第一樓。

江山樓雅集席上和岳陽詞兄韻　謝汝詮

一年佳日在春秋。饒有閒情逐鷺鷗。
華髮上頭憐我老。已難搏虎白門樓。

同上　鄭永南

欲說人情按劍秋。勞々不及水沙鷗。
一杯當作消愁地。日日江山醉上樓。

同上　簡朗山

光陰虛度幾春秋。官海泳遊學水鷗。
偸得公餘親擊鉢。詩星遍照江山樓。

同上　洪以南

交情如水淡於秋。幸喜稻江伴鷺鷗。
他日若逢詩酒會。文旌遙駐達觀樓。

同上　魏潤菴

乾坤歷劫幾春秋。消息紅頭問白鷗。
窓影不知人意懶。落花時節勸登樓。

同上　林石崖

虎鬪龍爭閱幾秋。消閑未許逐閑鷗。
陽春偶値花生日。一醉何妨上酒樓。

同上　張純甫

詩成老氣欲橫秋。又有閒情狎鷺鷗。
千載蓬瀛仍一水。不堪遙望隔江樓。

同上　林述三

雄才老氣正橫秋。願把詩盟契白鷗。
最喜花朝逢雅集。羨將珠玉唾高樓。

同上　瘦鶴　施逸樵

蠖屈未伸感幾秋。課餘白社締盟鷗。
花朝正値開韻事。也趁騷人宴此樓。

同上　杜仰山

過客光陰春又秋。勞々塵世感浮鷗。
佳晨咳唾皆珠玉。來上江山樓上樓。

同上　林其美

詩懷漫使淡如秋。雅集花朝鷺與鷗。
聖代卽今多雨露。休同王粲賦登樓。

同上　黃菊如

硯北明陪閱五秋。愧儂身世等浮鷗。
而今湖海歸來日。幸得相逢又此樓。

同上　謝雪樵

一年佳景在春秋。勝會花朝紀鷺鷗。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

未識何時重聚首。江山無恙上層樓。

同上 高肇藩

讀君麗句似壬秋。餘事騷壇結鷺鷗。籬外鶯啼花又笑。春愁盡付酒家樓。

同上 倪炳煌

聯歡詩酒幾經秋。且締吟盟等鷺鷗。紀念花朝逢此日。重來攜鉢共登樓。

同上 蔡敦輝

登臨又憶去年秋。不繫船如海上鷗。萬里歸來欣識韓。花朝雅景最高樓。

甲子暮春念日。送蔡伯毅雅契於臺北驛。夜來雨未歇。即用渭城柳色韻。賦示乞政。 鷹取岳陽

雨過邊城柳色新。征鞍一路不揚塵。臨岐何唱陽關曲。君到中原多故人。

甲子春三月邂逅岳陽翁於車中即吟乞正 串雨 鈴村讓

國軒墾地爽文家。風發言論忘路賒。分袂梅林阿罩夕。羡君霧社賞櫻花。

寄某國手

解散議堂賭廟謨。紛紛朋黨攪愚夫。將知國脈煩君手。二豎今居骨髓立。

偶感二絕

三徒護憲競司衡。騎虎勢威斬巨鯨。五季衰亡君識否。萌從朋黨李牛爭。

訂盟減艦議和平。破汝堅牢萬里城。莫慣如今春海穩。扶搖不起奈鵬程。

失題

芥納須彌蟻吐城。小能包大使人驚。摩挲吾腹如空洞。容得東西幾俊英。

串雨鈴村翁贈詩次韻以酬 鷹取岳陽

相思樹畔賣茶家。回顧南峰一路賒。青帝應逢大女妬。春來驅雨打櫻花。

瀛社花朝日雅集席上敬步岳陽先生瑤韻 歐陽扶

花朝韻事記千秋。嘯月吟風鷺與鷗。翰墨奇緣叨末席。翩翩裙屐快登樓。

次岳陽先生瑤韻 許梓桑

如君老氣尚橫秋。盡日騷壇逐鷺鷗。不必洞庭湖上望。自家雅有岳陽樓。

◉題新高山 蔡南樵

孤崖翠聳勢蟠雲。萬木陰陰日色分。千岫峯尖蒸秀氣。百川聲大似雄軍。

登高信有山靈在。却暑方知樾蔭薰。絕頂・凌開眼界。而今世道不堪聞。

其二

巍巍獨立柱中天。聳矗不知尺幾千。山腹半弓橫翠黛。巖而萬丈瀉飛泉。雲根絡石無心繫。樹影行空任意纏。富士也同鍾秀骨。峨嵋瑯嶠斧爭先。

春盡 張金連

他鄉爲客已三春。辜負家山感又新。寄語杜鵑啼勿急。旅窓猶有未歸人。

次岳陽詞兄高韻 藤村蕉雨 岡山

情思寒灰五十年。未懷沽醉賭花錢。春風入室無由實。獨臥蕉窓聽雨眠。

憶亡弟

友愛如斯義亦深。今猶恍惚接聲音。冷衾驚覺宵宵夢。照盡寒燈一片心。

蕉雨詞兄與余讀書於原泉學舍。約在四十年前。後失明。但聽松韻溪琴耳。不能仰瞻廬山眞面目。二首情景自淒涼。讀學泫然淚下。

學交 鷹取岳陽 拜讀

臺灣日誌

二　月

▼二十三日

□臺南局通信展覽會を開く

▼二十五日

□喜多殖産局長東部視察より歸府す

□草嶺隧道開通式、同隧道南口に於て擧行せらる

▼二十七日

□第二十八回製糖研究會、高雄婦人會館に於て開催

▼二十八日

□第九回電力會社總會、東京に於て開かる

▼二十九日

□臺北州農會第十回總會、州會議室にて開かる

□福建督軍參謀危道豐氏の歡迎宴を鐵道ホテルに開く

三　月

▼一日

□內田總督、危道豐參謀を官邸に招待す

▼三日

□內務局主催地方改良講習會を總督府に開く

□殖産局主催全島林務主任會議を總督府に開く

▼四日

□全島視學講習會、本日より五日間醫專講堂に開かる

□內田總督、林務、地方改良、視學諸會合出席者を官邸に招き茶話會を開く

▼五日

□太平洋問題研究機關設置に付總督官邸に打合會を開く

▼六日

□民事停調會議を總督府に開く

▼十日

□臺北在鄉軍人會第十四回春季總會、榮座に開かれ鈴木軍司令官臨席す

▼十一日

□陸軍記念日模擬戰を臺北練兵場に行ふ

□鈴木軍司令官ペロン、ルモアン、宜蘭等各分遣隊臨時檢閱の途に上る

▼十七日

□朝鮮視察團、交通丸にて高雄に入港す

□指紋講習會、本日より六日間法務部に開かる

▼十八日

□府令第二十六號臺灣米穀檢查改正規則公布、四月一日より施行

□海洋調查並漁業試驗連絡に關する件大正十三年度より施行の旨公報あり

□總督府高商第三回卒業式擧行

▼十九日

□第一回國勢調查諸規定廢止の件公布

□朝鮮視察團、中南部を視察して臺北に來る

▼二十日

□京都市主催東宮殿下御成婚奉祝萬國博覽會參加五十年記念博覽會開會、開會式を市公會堂に擧行す。內田總督、吉田長官代り、喜多殖産局長より同會に祝電を發し、中瀨商工課長より臺灣館に祝電を發す。

人事消息

自二月二十一日
至三月二十日

▼渡邊金造氏（新參謀長）二月二十二日著臺

▼高田元治郎氏（電力理事）二十五日依願理事を免せらる

▼江崎眞澄氏　二十六日內地へ赴く

▼嘉悅孝子女史　內務局の招聘に依り地方講演の爲め三月一日來臺す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼阿部滂氏（財務局長、本誌評議員）一日内地より歸府す

▼危道豐氏（福建督軍參謀）來臺中の處二日歸國の途に上る

▼乘杉嘉壽氏（文部省社會教育課長）總督府視學講習會講師として招聘せられ三日來臺す

▼生江孝之氏（女子大學教授）總督府地方改良講習會講師として招聘せられ同日來臺す

▼伊集院子爵　本島視察を了りて四日歸京

▼佐藤寛治氏（農學博士）六日歸京

▼高木友枝氏　八日内地より歸臺

▼東忠藏氏（臺北州内務部長、本誌編纂委員）公務を以て九日内地に赴く

▼渡邊英太郎氏（前鐵道部技師）本島鐵道界の功勞者たる氏は十一日東京の自邸に於て腦溢血の爲め逝去せらる噫

▼松井茂氏（内務監察官、警察講習所長、法博）本島警察事務視察の爲め十二日來臺

▼喜多源逸氏（京大教授、理博）十二日來臺

▼古賀三千人氏　同日内地より歸臺

▼平山寅次郎氏（臺糖重役、本誌評議員）同上

任命

自大正十三年二月十六日
至同　年三月十五日

▼二月十五日

醫學專門學校教授
兼中央研究所技師　清水彥太郎

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス

高等商業學校教授　中屋重治

補高等商業學校生徒監

▼二月十六日

郡守兼州警視　中田秀造

任總督府警視、警務局理蕃課長ヲ命ス

臺北州警部
兼總督府警部　武田駒吉

任郡守臺中州東勢郡守ヲ命ス

臺北州警部
兼總督府警部　武田駒吉

兼州警視臺中州勤務ヲ命ス

藤田捨次郎

任警察官及司獄官練習所教官

總督府屬　山口尙之

兼任警察官及司獄官練習所教官

總督府事務官　田端幸三郎

警務局理蕃課長兼務ヲ免ス

中央研究所技師　福本林作

福岡、熊本、鹿兒島ノ三縣下ヘ出張ヲ命ス

▼二月十八日

高等商業學校教授　室田有

東京、福岡ノ一府一縣下ヘ出張ヲ命ス

高等商業學校教授　林恒吉

京都、和歌山ノ一府一縣下ヘ出張ヲ命ス

總督府技師　田賀奈良吉

（各通）

專賣局事務官　佐々波外七

上京ヲ命ス

▼二月十九日

郡守　大橋重衞

東京、長崎、鹿兒島、宮崎ノ一府三縣下ヘ出張ヲ命ス

休職青森縣知事　尾崎勇次郎

任警務局長

▼二月二十日

郡守　齊藤透

兼任州警視、高雄州勤務ヲ命ス

公立實業學校教諭　瀧波惣之進

兼任高等商業學校教授

▼二月十九日

公立實業學校教諭兼高等商業學校助教授　瀧波惣之進

免兼官

▲二月二十日

法院檢察官　林藤香

東京、京都、大阪及愛知ノ三府一縣下ヘ出張

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ヲ命ス

▼二月二十一日

總督府技師　重松榮一
總督府事務官　古木章光
參事官　藪　包美
總督府事務官　高橋親吉
總督府事務官　田端幸三郎
總督府事務官　今川　淵
編修官　丸井圭治郎
（各通）
總督府事務官　水越幸一
視學官　續　有節
總督府事務官　松岡一衞

第一回地方改良講習會講師ヲ命ス

高等商業學校長　豐田勝藏
師範學校教諭　上野菊爾
（各通）

教科書調査會委員ヲ免ス

法院判官　後藤和佐二

上京ヲ命ス

▼二月二十二日

總督府技師兼
中央研究所技師　東鄉　實

依願免本官竝兼官

醫學專門學校教授　大内　基

補醫學專門學校生徒監

▼二月十九日

遞信局長　吉田平吾

警務局長心得ヲ免ス、警務局長尾崎勇次郎不在中代理ヲ命ス

▼二月二十二日

總督府技師　池田季苗

土木局土木課長田賀奈良吉不在中代理ヲ命ス
臺灣電力株式會社監理官田賀奈良吉不在中代理ヲ命ス

▼二月二十二日

總督府技師　川口庄松

一時歸府ヲ命ス

州技師　千葉豐治

東京、鹿兒島、福岡、岐阜及靜岡ノ一府四縣下ヘ出張ヲ命ス

專賣局技師　萩原昌二

東京、兵庫及福岡ノ一府二縣下ヘ出張ヲ命ス

高等商業學校教授　佐藤　佐

上京ヲ命ス

▼二月二十三日

專賣局技師　半澤清助

東京、大阪ノ兩府下ヘ出張ヲ命ス

高等商業學校教授　佐藤　佐

總督府在外研究員ヲ命ス、但シ一箇年半獨、英、米ノ三箇國ニ在留スヘシ

編修官　古山榮三郎
視學官　小野正雄
（各通）

圖書館長　並河直廣

第三回視學講習會講師ヲ命ス

▼二月二十五日

高田元治郎

願ニ依リ臺灣電力株式會社理事ヲ免ス

港務醫官　末次常太郎

門司、長崎ノ兩市及釜山ヘ出張ヲ命ス

▼二月二十六日

商業專門學校教授　山口助治

依願免本官

高等農林學校教授　木村謙介

京都、三重及鳥取ノ一府二縣下ヘ出張ヲ命ス

高等農林學校教授　八谷正義

福岡、鹿兒島及宮崎ノ三縣下ヘ出張ヲ命ス

▼二月二十七日

警務局長　尾崎勇次郎

市區計畫委員ヲ命ス

警務局長　尾崎勇次郎
總督府技師　網野一壽
（各通）

中央研究所評議會員ヲ命ス

法院判官　堀田眞猿

上京ヲ命ス

齋藤　透

高雄州協議會員ヲ命ス

▼二月二十八日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遞信事務官　上原松次郎
任遞信局事務官、遞信局爲替貯金課長ヲ命ス
總督府屬　分島薫
任遞信事務官、基隆郵便局長ヲ命ス
▼二月十四日
總督府技師　佐藤善吉
殖產局營林所羅東出張所長ヲ命ス
▼三月一日
醫院醫官補　大場辰之允
（各通）醫院醫官補　田和稔
醫院醫官補　塚原義夫
任醫院醫官、臺北醫院勤務ヲ命ス
▼二月二十八日
總督府事務官　戸水昇
遞信局爲替貯金課長兼務ヲ免ス
港務官　藤井精次
基隆港務所檢疫課長末次常太郎不在中代理ヲ命ス
▼三月三日
州事務官　東忠藏
東京、京都、大阪、兵庫、愛知、滋賀、奈良ノ三府四縣下ヘ出張ヲ命ス
州理事官　川村直岡
東京、京都、大阪、兵庫、愛知、滋賀、奈良ノ三府四縣下ヘ出張ヲ命ス
參事官　鼓包美
第三回視學講習會講師ヲ命ス

▼三月四日
總督府屬
兼編修官　名和仁一
任州理事官、高雄州勤務ヲ命ス
州理事官　大橋毅
依願免本官
▼三月六日
法院判官　寺井[illegible]逸
（各通）醫院醫長兼醫學專門學校教授　安井謙之助
上京ヲ命ス
財務局事務官　奥田達郎
廣島税務監督局管内ヘ出張ヲ命ス
▼三月八日
大審院判事　柏原祐彌
任法院判官、補高等法院長
法院判官　杉坂實
依願免本官
▼三月十日
公立實業學校教諭　金森貞吉
任高等農林學校教授
島義雄
任州技師、高雄州勤務ヲ命ス
郡守　長谷川直吉
任廳理事官、臺東廳庶務課長ヲ命ス
總督府屬　石田治郎
任郡守、臺北州海山郡守ヲ命ス

師範學校教諭　西村忠雄
任公立中學校教諭、補臺北第二中學校教諭
公立中學校教諭　堀江佐助
依願免本官
▼二月二十八日
州技師　古川頁雄
新竹州兼臺南州勤務ヲ命ス
▼三月十一日
警務局長　尾崎勇次郎
警察官及司獄官練習所長ヲ命ス
總督府事務官　岡本佃
警察官及司獄官練習所長事務取扱ヲ免ス
中央研究所技師　加福均三
東京、京都、大阪、兵庫、宮城、福岡ノ三府三縣下ヘ出張ヲ命ス
師範學校教諭　上野菊爾
依願免本官

編輯室から

▼編纂委員堤一馬君、第一回國勢調査の終了さ共に冠を掛けて近く内地に歸還せんさす
▼同生駒高常君、去月中外遊を了りて歸る
▼新たに評議員さなれる人、尾崎勇次郎君、相原祐彌君、小林音八君
▼新たに編纂委員さなれる人、佐藤正俊君、松岡一衛君

—四月十日　屯山生—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

埃及諸情
Conditions in Egypt. (E. Dec. 29, '24. P. 1147.)

一九二三年度トランスヴァールの產金
Transvaal Gold Output in 1923. (E. Jan. 12, '24. P. 86.)

■兩米大陸■

加奈陀及合衆國

米國に於ける護謨取引
The Rubber Trade in America. (E. Nov. 24. '24. P. 913.)

米國皮革製品の輸出增加
Market Increase in United States of Leather Goods. (Com. R. No. 2, Jan. 14, '24, P. 103.)

一九二三年十一月に於ける米國自動車の輸出增加
November brings Increase in Automotive Exports. (Com. R. No. 2, Jan. 14, '24. P. 105.)

加奈陀の皮革製品輸入狀況
Canadian Imports of Leather Manufactured Goods. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 178.)

墨西哥及玖馬其他

墨西哥の內亂
The Civil War in Mexico. (E. Dec. 22, '23. P. 1098.)

墨西哥鑛業時事
Mexican Mining Affairs. (E. Decl. 29, '24. P. 1150.)

墨西哥の內亂
The Civil War in Mexico. (E. Jan. 5, '24. P. 12.)

玖馬の貿易さ資源
The Trade and Resources of Cuba. (E. Jan. 5, '24. P. 14.)

玖馬は自由なるに非ずして寧ろ隷從的なり
Cuba not Free but Enslaved. by Edward L. Conn. (M. T. Jan. 17, '24. P. 1.)

一九二三年のポートリコ貿易槪況
Porto Rico Trade shows Big Increase. (M. T. Feb. 12, '24. P. 2.)

南亞米利加

ブラジルの財政さ貿易
Brazilian Finance and Trade. (E. Dec. 1, '23. P. 961.)

ブラジルの棉花栽培
Cotton-Growing in Brazil. (E. Dec. 22, '23. P. 1102.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英國の一九二三年に於ける石油業及一九二四年度該豫想
British Petroleum Industry in 1923 and Prospects for 1924. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 161.)

英國に於ける皮革貿易の一大發展
Large Increase in British Hide and Leather Trade. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 174.)

英國に於ける木材貿易の豫想
Prospects of the Lumber Trade of Great Britain. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 175.)

一九二三年度に於ける英國の船舶業
British Shipping in 1923. (Com. R. No. 4, Jan. 28, '24. P. 212.)

英國に於ける電氣製造工業の進步
Progress of British Electrical Manufacturing Industries. (Com. R. No. 4, Jan. 28, '24. P. 220.)

一九二三年に於ける英國の鐵及鋼鐵の對外貿易
British Foreign Iron and Steel Trade in 1923. (Com. R. No. 4, Jan. 28, '24. P. 225.)

英國新內閣員略歷
Who's who in the New British Cabinet. (M. T. Feb. 3, '24. P. 10.)

佛蘭西及伊太利

佛蘭西の石油業に關する重大事件
Important Events in French Petroleum Industry. (Com. R. No. 2. Jan. 14. P. 109.)

佛蘭西に於ける石炭產額の增加
Increase in French Coal Production. (Com. R. No. 2, Jan. 14, '24. P. 113.)

一九二四年度に於ける佛蘭西鐵及鋼鐵生產豫想
French Iron and Steel Production in 1924. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 156.)

一九二四年度伊太利木材豫想
Outlook for the Italian Lumber Trade in 1924. (Com. R. No. 4, Jan. 28, '24. P. 245.)

獨　　　逸

獨逸の危機
The German Crisis. (E. Dec. 1, '23. P. 960.)

獨逸の食料品現狀
The Food Situation in Germany. (E. Jan. 12, '24. P. 51.)

獨逸の農具輸出減少
Decrease in Germany's Agricultural Machinery Exports. (Com. R. No. 2, Jan. 14. '24. P. 112.)

一九二三年に於ける獨逸の鋼鐵對外貿易
German Foreign Steel Trade in 1923. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 155.)

チエツコスロヴキア及露西亞

チエツコスロヴークの糖業
The Czechoslovak Sugar Industry. (E. Dec. 29, '23. P. 1148.)

露國の石炭業＝ドネツ炭田
The Russian Coal Industry: The Donetz Coalfield. (E. Jan. 12, '24. P. 46.)

露國農業現況
Russian Agriculture. (E. Jan. 12, '24. P. 55.)

■阿　弗　利　加■

トランスヴアール其他

一九一七/二三年トランスヴアールの產金
Transvaal Gold Output. (E. Dec. 15, '24. P. 1053.)

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米上院議員ファセット氏の比島問題に關する演說(馬尼拉米國商業會議所に於て)
Speech of Senator Fassett on the Philippine Problem. (M. T. Feb. 10, '24. P. 13.)

ギルモーア副總督の渡米
Vice Governor Gilmore sails to U. S. Today. (M. T. Feb. 11, '24. P. 1.)

比島に對するクーリッヂ大統領の態度には何等の變化もなし
No Changes in the Attitude of Coolidge to P. I. (M. T. Feb 11, '24. P. 1.)

モーロー族代表の總督訪問さ米國統治請願
Delegation calls on Wood Today. (M. T. Feb. 12, '24. P. 1.)

ウッド總督前比島ナショナル銀行重役に對する起訴を促す
Governor Wood urges Legal Action against Some of Former P. N. B. Directors. (M. T. Feb. 17, '24. P. 1.)

馬尼拉ローダリ・クラブに於ける米上院議員ファセット氏の演說
Speech of Senator J. Sloat Fassett before the Manila Rotary Club. Feb. 14, '24. (M. T. Feb, 17, '24. P. 11.)

一九二三年に於けるサモア島のコプラ生産減
Copra Production in Samoa Decline. (M. T. Feb. 20, '24. P. 2.)

沿岸船舶法さ比律賓
The Coastwise Law and the Philippines. by Vicente Villamin. (M. T. Feb. 20, '24. P. 4.)

蘭領東印度

爪哇に於ける古新聞紙相場の down落
Java Market price on old Newspapers Decline. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '21, P. 169.)

蘭領東印度に於ける外人代理店に對する委任權限
Powers of Attorney for Agents in D. E. I. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24, P. 182.)

■歐　羅　巴■

英　吉　利

昨年十一月の英國對外貿易
Overseas Trade in November. (E. Dec. 15, '23. P. 1048.)

英國に於けるトラスト運動(一)
The Trust Movement in Great Britain. I. (E. Dec. 22, '23. P. 1095.)

英國に於けるトラスト運動(二)
The Trust Movement in Great Britain II. (E. Dec. 29, '23. P. 1142.)

英國の陶土貿易
China Clay. (E. Dec. 29, '23. P. 1148.)

英國に於けるトラスト運動(三)
The Trust Movement in Great Britain. III. (E. Jan. 5, '24. P. 9.)

一九二三年度の英國勞働狀態
Labour in 1923. (E. Jan. 12, '24. P. 45.)

英國に於けるトラスト運動(四)
The Trust Movement in Great Britain. IV. (E. Jan. 12, '24. P. 47.)

一九二三年の英國對外貿易
Overseas Trade in 1923. (E. Jan. 12, '24. P. 49.)

一九一三年及一九二一/二三年の英國及世界造船界
British and World Shipbuilding. (E. Jan. 12, '24. P. 51.)

一九二三年の英國對外貿易
A Year's Overseas Trade. (E. Jan. 19, '24. P. 87.)

一九二三年の英國海運事情
Shipping in 1923. (E. Jan. 19, '24. P. 60.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ガンヂー氏の釋放
Gandhi given Full Freedom. (M. T. Feb. 7, '24. P. 3.)

■南 洋 諸 島■

比 律 賓

比島は未だ獨立の準備成らず
P. I. not prepared for Independence. (M. T. Jan. 16, '24. P. 1.)

臺灣教育視察團の來比
Formosa Mission Here Tomorrow. (M. T. Jan. 17, '24. P. 1.)

米上院議員ウッドの統治調査を求む
Investigation of Wood Asked by U. S. Senator. (M. T. Jan. 18, '24. P. 1.)

比島護謨法案の上程
Rubber Bill is up for Approvel. (M. T. Jan. 18, '24, P. 2.)

ミンドロの蝗害と陸軍飛行機の出動請願
Request Airplane to fight Locusts. (M. T. Jan. 18, '24. P. 3.)

比島勞働者銀行設立計畫
Bank to establish New Era for Labor. (M. T. Jan. 20, '24. P. 3.)

一九二三年十二月の比島對外貿易
Trade Balance Big during December. (M. T. Jan. 20, '24. P. 8.)

一九二三年六月末合衆國政府歲出及歲入源
Where Uncle Sam's Money comes and where it goes. (M. T. Jan. 20, '24. P. 11.)

近く合衆國に於て公募さるゝ馬尼拉土木公債(三百萬比)
City of Manila to borrow Three Millions in U. S. (M. T. Jan. 21, '24. P. 1.)

比島に於ける政的疝痛
Political Colic in the Philippines. by Grover Clark. (M. T. Jan. 21, '24. P. 3.)

本年度の比島米作及輸入米豫想
Rice Dealers place Orders in China. (M. T. Jan. 22, '24. P. 3.)

"比島共和國の財政"=馬尼拉タイムス懸賞論文
"Financing A Philippine Republic." Essays submitted for 250 Peso Award. (M. T. Jan. 27, '24. P. 10.)

一九二三年度比島對合衆國金地金輸出額
P. I. sends 143,000 ounces Gold to U. S. (M. T. Jan. 28, '24. P. 1.)

一九二三年度比島貿易概況
1923 Banner Year for Auto Imports. (M. T. Jan. 28, '24. P. 2.)

比島外國貿易に於ける米國船舶
American Shipping in Philippine Foreign Trade. (M. T. Jan. 28, '24. P. 7.)

マアローロースに於けるウッド總督の演說
Wood's Malolos Speech. (M. T. Jan. 31, '24. P. 7.)

比島政的危機和親を危ふくす
Political Crisis Imperils Amity by Richard V. Oulaham (M. T. Feb. 3, '24. P. 1.)

比島政爭解決策
Many Plans for P. I. Settlement. by Richard V. Oulahan. (M. T. Feb. 5, '24. P. 1.)

一九二三年比島刺繡品輸出貿易の好況
1923 Embroidery Exports Doubled. (M. T. Feb. 5, '24. P. 2.)

比島に於ける赤痢特效藥植物の試植
Experiment with Indian Plant. (M. T. Feb. 6, '24. P. 2.)

米國馬尼拉麻專門家の來比
Hemp Expert Here on Taft. (M. T. Feb. 10, '24. P. 3.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英實業家は條約尊重を願ふ
British Businessmen ask respect for Treaties. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24. P. 454.)

國會は紳士協約を廢棄せしめんとす
Congress threatens to end the "Gentlemen's Agreement." by J. J. Underwood. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24. P. 456.)

支那の春期戰
China's Spring War. by Charles Dailey. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24, P. 457.)

加奈陀に於ける支那人移住問題
The Chinese Immigration Problem in Canada. by Edward B. Lee. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24. P. 458.)

李修梅小傳
Magistrate Li Su-mai. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24. P. 462.)

陸朝宗小傳
Magistrate Loh Zan-tsoong. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24. P. 462.)

奉天に於ける進步と改造
Progress and Reform in Mukden. by J. G. Bargas. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24. P. 360.)

香港に於ける無線電話術の發達
Radiotelephony Development at Hongkong. (Com. R. No. 2, Jan. 14, '24. P. 114.)

香港に於ける重要銀行
Important Banks in Hongkong. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 181.)

香港の天然痘：三週間の死者三百二十四名
Smallpox grips Hongkong, 324 die in 3 weeks. (M. T. Jan. 31, '24. P. 1.)

佛領印度支那

マルセーユ海防間の第二直航路開設
Creation de la Seconde Ligne directe de Paquebats entre Haiphong et Marseille. (Op. Jan. 2, '24.)

討議會提出印度支那開發案報告
Rapport a la Chambre des Deputes par Denise. (Op. Jan. 13, '24. P.)

西貢無電中央局開設
Inauguration du Centre Radio Electrique de Saigon. (Op. Jan. 19, '24. P.)

老撾開發策
La Mise en Valeur du Laos. (Op. Jan. 24. '24.)

高地東京に於ける鉛礦山
Mines de plomb du Tonkin. (E. E. I. No. 347, Feb. 3, '24. P. 15.)

東京の無煙炭
Anthracites du Tonkin. (E. E. I. No. 347. Feb. 3, '24. P. 16.)

印度支那の林業と燐寸
Indochine Forestiere et des Allumettes. (E. E. I. No. 347, Feb. 3, '24. P. 19.)

安南龍舌蘭栽植會社新設
Societe des Plantations d' Agave de l' Annam. (E. E. I. No. 347, Feb. 3, '24. P. 16.)

海防港の港灣計畫私案
Notre Plan du Port de Haiphong. (E. E. I. No. 348, Feb. 10, '24. P. 5.)

英領印度及錫蘭

印度の阿片貿易
The Indian Opium Trade. (E. Jan. 5, '24. P. 14.)

錫蘭に於ける護謨引道路試驗
Ceylon Experiments with Rubber Roads. (M. T. Jan. 27, '24. P. 1.)

Digitized by Google | Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

マニラ・タイムスの如く合衆國の說明者たるチャイナ・プレス
China Press, like Manila Times, An Exponent of U. S. (M. T. Jan. 20, '24. P. 11.)

支那政府の財政狀況
Chinese Government Finance. (Com. R. No. 3, Jan. 21, P. 186.)

支那の曹錕新弗(銀貨)
New Tsao Kun Dollars in China. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 181.)

外國居留地の犯罪
The Crime of the Foreign Concessions. (R. F. E. Vol. XXVVII, No. 10, Feb. 2, '24. P. 343.)

天津居留地の犯罪
The Crime of the Tientsin Consessions. by Charles Dailey. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 10, Feb. 2, '24. P. 344.)

條約港に關する支那の國民性
Chinese Nationality in its Relation to Treaty Ports. by H. F. MacNair. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 10, Feb. 2, '24. P. 349.)

最近の鹽政史
Recent History of the Salt Administration. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 10, Feb. 2, '24. P. 351.)

四川の軍事會議
The Szechwan Military Conference. by John R. Muir. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 10, Feb. 2, '24. P. 353.)

李銘小傳
Mr. Li Ming. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 10, Feb. 2, '24. P. 354.)

關海清(字果塵)小傳
Mr. H. C. Kuan or Kuan Hai-Ching. (R. F. E. Vol. XXVII. No. 10, Feb. 2, '24. P. 354.)

支米間の無線電組合
Radio Communication between China and America. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12. Feb. 16. '24. P. 409.)

臨城暴行以來の匪賊記
Bandit Record since the Lincheng outrage. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12, Feb. 16. '24. P. 412.)

政治囚の釋放
Releasing the Political Prisoners. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12, Feb. 16, '24. P. 412.)

支那軍隊の國有
Nationalization of China's Armies. by Charles Dailey. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12, Feb. 16, '24. P. 413.)

潘作楫(字澄波)小傳
Mr. Pan Ching-Po. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12, Feb. 16, '24. P. 416.)

楊枝(字梅南)小傳
Mr. Yang Moi-nan. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12, Feb. 16, '24. P. 416.)

青島農民の革進
Modernizing the Farmers around Tsingtau. by J. J. Heeren. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12, Feb. 16, '24. P. 425)

進展せる山東
Progressive Shangtung. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 12, Feb. 16, '24. P. 430.)

世界最大油田支那に存在すさ
World's Biggest Oilfield is in China, claimed. (M. T. Feb. 16, '24. P. 1.)

支那油田は運輸交通に至難なりさ
China Oilfield Hard to reach, Experts say. (M. T. Feb. 20, '24. P. 1.)

支那政府鐵路の統制
Regulation of the Chinese Government Railways. (R. F. E. Vol. XXVII, No. 13, Feb. 23, '24. P. 451.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

南支那及南洋其他
海外重要記事
臺灣總督官房調査課

■新聞雜誌略號一覽表■

C. R.	Chinese Recorder.
Com. R.	Commerce Reports. (U. S.)
E.	Economist.
E. E. I.	L' Eveil Economique de l' Indochine.
M. T.	Manila Times, daily with Sunday.
Op.	L' Opinion.
R. F. E.	Review of Far East, weekly.

■世　界■

一　般

砂糖の騰貴
The Rise in Sugar. (E. Dec. 1, '23. P. 966.)

世界鐵及鋼生產
World's Iron and Steel Production (E. Jan. 5, '23. P. 11.)

世界の原棉情況
World Raw-cotton Situation. (Com. R. No. 2, Jan. 14, '24. P. 95.)

一九二四年の糖業好望
Sugar Outlook for 1924 Good. (M. T. Feb. 19, '24. P. 3.)

一九二三年に於ける外國爲替
Foreign Exchanges in 1923. (E. Jan. 19, '24. P. 86.)

一九二三年九月以降世界の造船狀況
World Shipbuilding during the last quarter of 1923. (Com. R. No. 3, Jan. 21, '24. P. 185.)

一九二三年度に於ける石油業の海外發展概觀
A Review of Petroleum Developments abroad in 1923. (Com. R. No. 4, Jan. 28, '24. P. 222.)

■亞　細　亞■

一　般

東洋に於ける苹果消費
Orient learning to eat Apples. (M. T. Jan. 24, '24. P. 2.)

日　本

日本の貿易と財政
Japanese Trade and Finance. (E. Nov. 24, '23. P. 918.)

日本の貿易と財政
Japanese Trade and Finance. (E. Jan. 5, '24. P. 16.)

日本再度の地震
The Earthquake in Japan. (E. Jan. 19, '24. P. 95.)

支那及香港

支那の財政と貿易
Chinese Finance and Trade. (E. Nov. 24, '23. P. 916.)

支那の内亂
The Civil War in China. (E. Dec. 15, '23. P. 1048.)

上海に於ける護謨輸入情況
Imports of Rubber Goods into Shanghai. (Com. R. No. 2, Jan. 14, '24. P. 101.)

支那に於ける靴墨の需要增加
Chinese Using More Shoe Polish. (Com. R. No. 2, Jan. 14, '24. P. 104.)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN